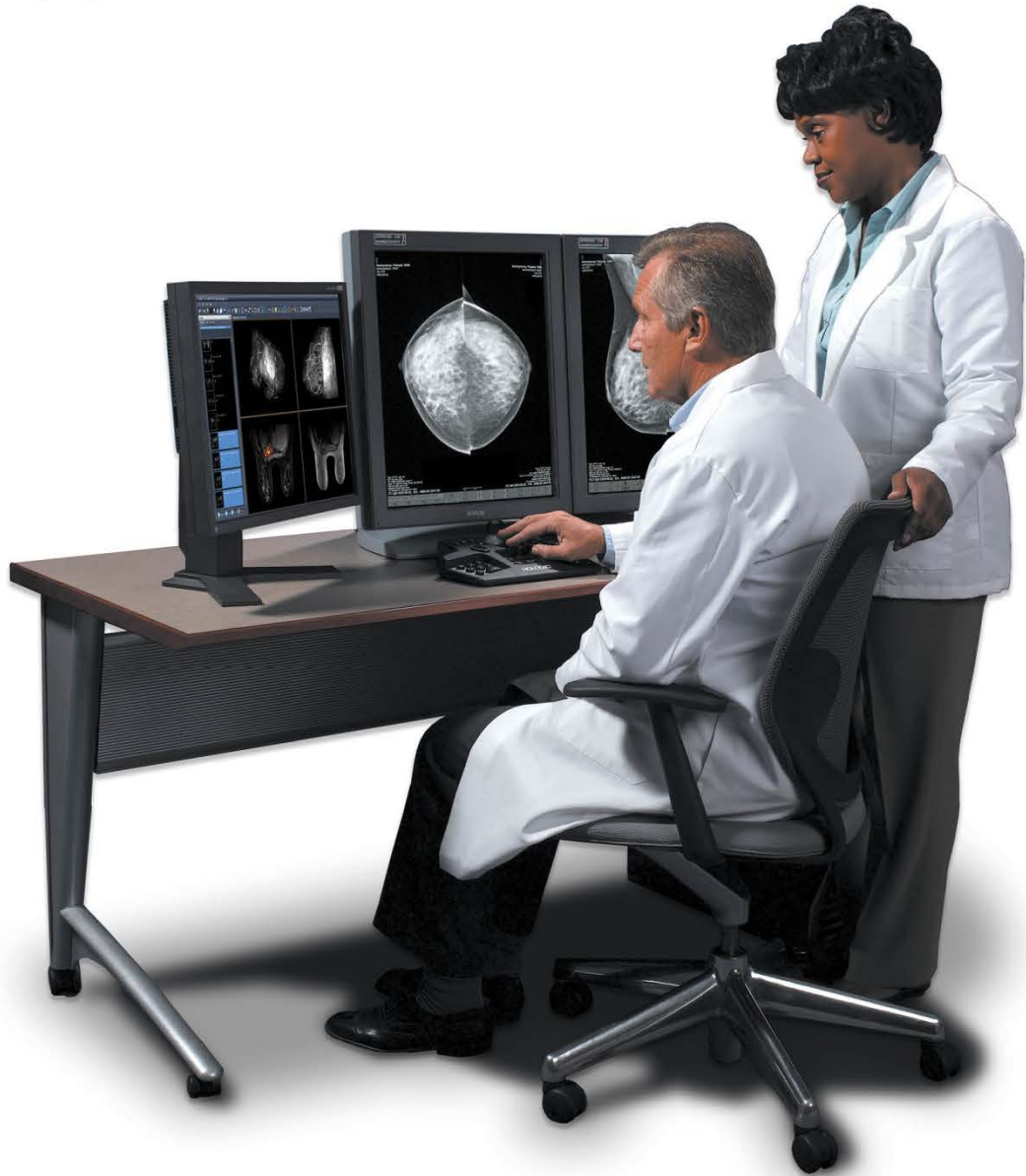


SecurView®

Breast Imaging Workstation



SecurView® DX/RT Workstation ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 10.1

MAN-10859-1201 改訂 001

HOLOGIC®

GYW fJ]Yk[®]

Ó!^æ oQ æ ā * Á [!\ • cæ] }

ユーザーガイド

部品番号 MAN-10859-1201

Revision 001

8月 2023

HOLOGIC[®]

技術サポート

アメリカ:	+1.877.371.4372
ヨーロッパ:	+32 2 711 4690
アジア:	+852 37487700
オーストラリア:	+1 800 264 073
その他すべて:	+1 781 999 7750
電子メール:	BreastHealth.Support@hologic.com

© 2023 Hologic, Inc. 米国で印刷。このマニュアルは最初に英語で書かれました。
Hologic, Citra, C-View, EmphaSize, ImageChecker, Intelligent 2D, I-View, Mammography Prior Enhancement, MultiView, PeerView, Quantra, RightOn, SecurView, Selenia, TechMateおよび関連するロゴは、米国およびその他の国のHologicおよびその関連会社の商標および登録商標です。その他のすべての商標、登録商標、および製品名はそのそれぞれの所有者の財産です。本製品は、www.Hologic.com/patentsで特定されるとおり、1つまたは複数の米国または外国の特許で保護されている場合があります。

MeVis

Softcopy reading software © 2002–2016 MeVis Medical Solutions AG. 無断転載禁ず。本製品と関連マニュアルは著作権法によって保護されており、使用、複写、配布、逆コンパイルを制限するライセンスに従って配布されます。本製品または関連マニュアルのいかなる部分も、MeVis Medical Solutions AGおよびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式によっても複製することは禁じられています。

FlowBack, FlowNext, MammoNavigator, ReportFlowはMeVis BreastCare GmbH & Co. KGの商標です。本製品は、以下の米国特許のいずれかによって保護されています。7,283,857、6,891,920。

ライブラリー

Libtiff library © 1988-1997 Sam Leffler, 1991-1997 Silicon Graphics, Inc., OFFIS_DCMTK © 1994–2005, OFFIS, MergeCOM-3 Advanced Integrator's Tool Kit – Version 4.8.0.0, PostgreSQL – Version 9.4.1 © 1996-2015, PostgreSQLグローバル開発チーム、1994、カリフォルニア大学評議員。jpeglib © 1991-1998, Thomas G. Lane. xerces © 1999-2010 Apacheソフトウェア財団。7-Zip © 1999-2009 Igor Pavlov. Qt 4.8.6 © 2014 Digia Plcおよびその関連会社、LGPLに基づくライセンス

目次

第1章

1: はじめに	1
1.1 概要	2
1.2 用途	3
1.2.1 SecurView DXの用途	3
1.2.2 SecurView RTの用途	3
1.3 本ガイドの使用	3
1.4 利用可能なリソース	4
1.5 警告と注意事項	5
1.5.1 システムの操作	6
1.5.2 インストールと保守	8
1.6 製品に関する苦情	8
1.7 保証	9
2: ワークステーションについて	11
2.1 ワークステーションの概要	12
2.2 SecurView DX診断用ワークステーション	13
2.2.1 SecurView DXスタンドアロンシステム	14
2.2.2 SecurView DXマルチワークステーションシステム	15
2.3 SecurView RT検査技師用ワークステーション	18
2.3.1 SecurView RTスタンドアロン システム	19
2.3.2 SecurView RTマルチワークステーションシステム	20
2.4 マルチワークステーション構成の機能分担	23
2.5 ユーザーグループとパスワード	23
2.6 起動とシャットダウン	25
2.7 SecurViewへのログイン	26
2.8 Unique Device Identifier情報へのアクセス	27
3: 患者マネージャ	29
3.1 患者マネージャを開く	30
3.2 患者リストの使用	31
3.2.1 患者の選択	31
3.2.2 患者リストのボタン類	32
3.2.3 患者リストの列	33
3.2.4 読影状況	35
3.2.5 患者データの自動取得	36
3.2.6 ショートカットメニューの使用	37
3.2.7 患者データのマージ	38

3.2.8	患者の検索	39
3.3	セッションの作成	40
3.4	DICOM画像のインポート	42
3.5	MultiViewとの患者リストの同期化.....	42
4:	患者のレビュー	45
4.1	患者ケースの表示	46
4.1.1	患者リストのワークリスト.....	46
4.1.2	ワークリストの自動作成.....	47
4.1.3	セッション ワークリスト.....	47
4.1.4	MG Viewer.....	48
4.2	患者画像の表示	49
4.2.1	患者のナビゲーション.....	50
4.2.2	キーパッドの使用	51
4.2.3	パイメニューの使用.....	52
4.2.4	ReportFlowの使用.....	56
4.2.5	レビュー時の患者の読影状況とロック状況.....	57
4.2.6	画像のパン	57
4.2.7	画像ハンギング	58
4.2.8	一時的1画像タイリングモード.....	59
4.2.9	インテリジェント ローミング.....	59
4.2.10	スケーリングモード.....	62
4.2.11	ピクセルメーター	63
4.2.12	スタックおよびタイムポイントインジケータ	64
4.2.13	MammoNavigator	65
4.2.14	画像情報	67
4.2.15	患者情報オーバーレイ.....	68
4.2.16	MG Secondary CaptureとMM ScreenCapture	70
4.3	画像詳細の視覚化	71
4.3.1	拡大鏡と反転拡大鏡.....	73
4.3.2	AIEと拡大鏡ツールバー.....	75
4.3.3	連続ズーム	76
4.3.4	ウィンドウ/レベルとガンマの調整.....	78
4.3.5	VOI LUTの適用	81
4.3.6	MPE画像.....	82
4.3.7	DICOM 6000オーバーレイ	83
4.3.8	CLAHE画像処理	84
4.4	CADの使用	85
4.4.1	CAD情報の表示	85
4.4.2	Hologic ImageChecker CAD.....	85
4.4.3	Hologic Imaging Biomarkers	91
4.4.4	複数のMammography CAD SR間の切り替え	92
4.5	注釈の作成と表示	92
4.5.1	画像のマーキング	93
4.5.2	関心領域に関する説明の追加.....	96

4.5.3	注釈の表示	99
4.6	通知の送信と表示	100
4.6.1	通知の送信	101
4.6.2	通知の表示	102
4.7	ケースを閉じる	104
4.7.1	放射線専門医としてケースを閉じる	104
4.7.2	術者としてケースを閉じる	107
4.7.3	外部アプリケーションからケースを閉じる	108
4.8	印刷オプション	108
4.9	外部アプリケーションとの患者の同期	111
4.9.1	手動による同期	111
4.9.2	自動同期	111
4.9.3	メッセージ受信時に同期	112

5: Tomosynthesis画像の使用方法 113

5.1	Tomosynthesisイメージングの概要	114
5.2	Tomosynthesis画像のナビゲート	116
5.2.1	Tomosynthesisナビゲーションボタン	117
5.2.2	Tomosynthesisスライスの表示	118
5.2.3	スラブ厚の変更	119
5.2.4	Tomosynthesis画像の注釈付け	120
5.2.5	シネモードの使用	120
5.2.6	ローカルシネモードの使用	121
5.2.7	フォーカス	122
5.2.8	リンクされたタイルのスクロール	123
5.2.9	動画のエクスポート	124
5.3	ImageChecker 3D Calc CAD結果の表示	126
5.4	Tomosynthesis再構成スライスのタギング	129
5.5	Tomosynthesis再構成スライスの印刷	130

6: ユーザー設定 133

6.1	ワークフローのユーザー設定	134
6.2	画像プレゼンテーションのユーザー設定	135
6.3	ツールとオーバーレイのユーザー設定	137
6.4	ユーザープロファイルの設定	141

7: ハンギングスナップショットとReportFlows 145

7.1	ReportFlowの表示	145
7.2	ハンギングスナップショットの表示	146
7.3	ハンギングスナップショットの作成と編集	147
7.3.1	新しいハンギングスナップショットの作成	149
7.3.2	ハンギングスナップショットのコピーと編集	153
7.3.3	ハンギングスナップショットの名前変更	153
7.3.4	ハンギングスナップショットのアイコンの変更	155

SecurView DX-RT 10.1 Workstationユーザーガイド

目次

7.4	ReportFlows.....	157
7.5	ReportFlowを手順にリンクさせる.....	159
7.6	新しいReportFlowの作成.....	160
7.7	ReportFlowのユーザー設定.....	163
7.7.1	Workflow Selection (ワークフローの選択)	163
7.7.2	Overview Hanging Configuration (オーバービュー ハンギングの構成)	164
8:	管理者タスク	165
8.1	管理モジュールを開く.....	166
8.2	ユーザー プロファイルの管理.....	167
8.3	管理者ユーザー プロファイル.....	170
8.4	システムレベルの設定の構成.....	171
8.4.1	Scheduling (スケジューリング)	172
8.4.2	Disk Space Monitoring (ディスク空き容量の監視) とAuto-Deletion (自動削除)	172
8.4.3	自動取得/自動完了の構成.....	175
8.4.4	Active Directory Setup (Active Directoryのセットアップ)	177
8.4.5	Study List Manager (ケースリストマネージャ) (SLM) の設定.....	178
8.4.6	アプリケーションイベントログ.....	179
8.4.7	PACSの検索.....	181
8.4.8	同期インタフェースの構成.....	181
8.4.9	ワークリスト	183
8.4.10	日付/時刻の形式と単位.....	183
8.4.11	Multimodality Viewer (マルチモダリティ ビューアー)	184
8.4.12	ケースの二重読影	184
8.4.13	注釈、タグ付きTomo、ケース状態の送信	184
8.4.14	ローカル医療機関	185
8.4.15	Secondary Capture (セカンダリキャプチャ)	185
8.4.16	医療機関の名前と住所の選択.....	186
8.5	システムレベルのハンギングスナップショットとReportFlowsの構成.....	187
8.5.1	現在のセンサ高範囲.....	187
8.6	検査手順の名前の構成.....	188
8.7	画像オーバーレイの構成.....	190
8.7.1	MG Viewer画像オーバーレイ	190
8.7.2	MammoNavigatorオーバーレイ	191
8.7.3	印刷画像オーバーレイ.....	192
8.8	データベースのメンテナンス.....	193
8.8.1	データベースのバックアップと回復.....	193
8.8.2	データベース メンテナンスのスケジュール.....	195
9:	ケース管理者タスク	197
9.1	管理モジュールを開く.....	197
9.2	患者の削除	198
10:	患者とReportFlowファイル	201
10.1	現在表示中の画像ファイルのエクスポート	201

10.2	DICOMファイルのエクスポート	202
10.3	ReportFlowのインポートとエクスポート	203
10.3.1	ReportFlowsをUSBドライブからSecurViewへインポートする	203
10.3.2	ReportFlowsをSecurViewからUSBドライブへエクスポートする	203
Appendix A キーボードのショートカット		205
Appendix B 術者ガイド		207
索引		209

第1章 はじめに

- [概要](#) 『2ページ』
- [用途](#) 『3ページ』
- [本ガイドの使用](#) 『3ページ』
- [利用可能なリソース](#) 『4ページ』
- [警告と注意事項](#) 『5ページ』
- [製品に関する苦情](#) 『8ページ』
- [保証](#) 『9ページ』

この章では、Hologic SecurView®DX および RT ワークステーションの概要と、このガイドについて、ご提供している製品サポート、安全に関する注意について説明しています。

1.1 概要

このガイドでは、SecurView ワークステーションの操作方法を説明しています。

- SecurView DX 診断用ワークステーション
- SecurView RT 検査技師用ワークステーション

加えて、以下の補足的な Hologic ソフトウェアアプリケーションの使用方法について説明されています。

- ImageChecker® Computer Aided Detection
- ImageChecker® 3D Calc CAD
- Quantra™ 乳腺密度評価
- Application Synchronization
- Study List Manager (ケースリストマネージャ)

アドバンスドマルチモダリティオプションに関しては、*SecurView Advanced Multimodality Option* ユーザーガイドを参照してください。

SecurView ワークステーションは、診断用およびスクリーニング用マンモグラフィー専用のソフトコピー読影環境を提供します。システムのユーザーインターフェースとワークフローは、大量の読影をこなす経験豊富なマンモグラフィー読影医師に役立つよう最適化されています。以下をはじめとする特殊機能によって効率性と読影品質がサポートされています。

- 定義済みのハンギングスナップショット
- 最良の一致の ReportFlow
- ワークフローキーパッド
- 患者バーコードスキャナー
- ユーザーログインとユーザー設定の個別設定
- ワークリストの自動作成
- 定義済みの標準ビュー
- 二重読影に対応

SecurView から他の患者データにアクセス可能：

- MammoNavigator を使うと、追加のビュー、モザイク、スキャンした文書など、標準化されていない画像素材へのアクセスが容易になります。
- Mammography CAD Structured Report (CAD SR) の統合
- 外部アプリケーションとの自動同期
- 患者のプライバシーポリシーの準拠をサポートするためのアプリケーションイベントログ
- Study List Manager (ケースリストマネージャ) は、非ローカル患者と患者リストに加え、自動的な同期化を容易に行えるようにします。

Rx Only

米国連邦法により、本装置は医師による使用またはその指示下での使用に限定されます。

1.2 用途

1.2.1 SecurView DX の用途

Hologic SecurView DX は、様々なモダリティシステムから得られたマルチモダリティ画像の選択、表示、操作、フィルム出力、メディア相互交換を行うための装置です。また、DICOM または同様のインターフェース規格に基づく記憶装置やプリンタに画像を保存したり印刷することができます。FDA に承認されたモニタと共に使用する装置は、適正な訓練を受けた医師が、スクリーニング用の可逆圧縮または非圧縮マンモグラフィ画像および診断用マンモグラフィとデジタル乳房 Tomosynthesis (トモシンセシス)、およびその他の DICOM マルチモダリティ画像を表示、操作、読影するために使用することができます。SecurView DX は通常、医師、放射線専門医、看護師、検査技師、アシスタントなど、訓練を受けた医療従事者が使用します。

1.2.2 SecurView RT の用途

SecurView RT 検査技師用ワークステーションは、表示のみを行うためのソフトコピー表示システムです。マンモグラフィの診断読影はサポートされていません。PACS およびその他の DICOM 画像保存システムから以前のマンモグラフィ画像を呼び出して表示することができます。

1.3 本ガイドの使用

このガイドは以下のとおりに構成されています。

- [はじめに](#) 『1ページ』: システムと本ガイドについての背景情報を提供しています。
- [ワークステーションについて](#) 『11ページ』: コンポーネントに関する説明など、SecurView ワークステーションの概要を説明しています。また、システムの起動とシャットダウンの方法、およびログインの方法も説明されています。
- [患者マネージャ](#) 『29ページ』: SecurView データベース内に現在あるすべての患者、ケース、画像が含まれている患者リストについて説明しています。また、レビューセッションの設定方法についても説明されています。
- [患者のレビュー](#) 『45ページ』: 患者データを表示するために開く方法、表示ツールと注釈ツールの使用方法、ケースを閉じる方法、印刷オプションについて説明されています。
- [Tomosynthesis 画像の使用方法](#) 『113ページ』: Tomosynthesis 画像の表示方法と使用方法について説明しています。
- [ユーザー設定](#) 『133ページ』: ユーザーごとに設定を定義する方法について説明しています。
- [ハンギングスナップショットと ReportFlows](#) 『145ページ』: ハンギングスナップショットと ReportFlows の概要と、放射線専門医が日常的な使用のために特定

の ReportFlows をどのように選択できるか、また新しいハンギングスナップショットと ReportFlows の作成方法について説明されています。

- [管理者タスク](#) 『165ページ』 : ユーザー管理、システムレベルの設定、患者データベースのバックアップ作成や回復などのシステム管理者のタスクを説明しています。
- [ケース管理者タスク](#) 『197ページ』 : ケース管理者による患者データの削除方法を説明しています。
- [患者と ReportFlow ファイル](#) 『201ページ』 : 患者および ReportFlow ファイルを管理する上で術者に役立つ手順を説明しています。

1.4 利用可能なリソース

このガイドに加え、SecurView ワークステーションを操作する際に以下のリソースを利用することができます。

- **トレーニング** : Hologic のアプリケーションチームでは、新しいシステムに関する放射線専門医や検査技師向けのリモートトレーニングをご提供しております。個人別の指導を別途希望される方は、Hologic の担当者までご連絡ください。
- **Hologic Training Center** : このウェブサイトから、Hologic 製品のガイドおよびトレーニング教材を入手することができます。製品保証または Hologic サービス契約の対象となるお客様に無料でご提供しております。トレーニングセンターに関しては、Hologic ウェブサイト (www.hologic.com) を参照してください。
- **その他の資料** : このガイドに加え、Hologic では、SecurView ワークステーション用に以下の資料をご提供しております。
 - SecurView DX/RT ワークステーションリリースノート
 - SecurView DX ワークステーション品質管理マニュアル
 - SecurView DX/RT ワークステーションの設置&サービスマニュアル
 - SecurView ワークステーション DICOM 適合宣言
 - SecurView アドバンストマルチモダリティオプションユーザーガイド
 - SecurView アドバンストマルチモダリティオプションインストール & サービスマニュアル

SecurView ユーザーガイドとアドバンストマルチモダリティオプションユーザーガイドは、SecurView ワークステーションツールバー上のヘルプアイコンをクリックしてご利用ください。印刷ガイドとマニュアルを追加お申込みされる場合は、Hologic の担当者にご連絡ください。DICOM 適合宣言は、www.hologic.com から入手できます。

- **テクニカルサポートおよびサービス** : 連絡先については、このガイドの表紙を参照してください。

1.5 警告と注意事項

このガイドでは、特別な注意を払う必要がある場合に、以下の表記規則に従い技術的な情報や安全に関する情報が記載されています。



警告：
守らないと危険な状態を招くおそれがある指示。



注意：
守らないと、システムの損傷を招くおそれがある指示。



重要
正しい結果と最大の性能を発揮するための取り扱い手順や装置の制約について明記しています。



注記
特定のステップや手順の補足説明となる情報です。

SecurView システムをご使用になる前に、以下の警告と注意事項をお読みください。

1.5.1 システムの操作



警告:

以下の指示を守らないと危険な状態を招くおそれがあります。

- このシステムは、このガイドを熟読した上でシステムの使用方法に関するトレーニングを受けた方が使用してください。Hologic では、システムの不適切な操作または安全でない操作に伴う負傷あるいは損傷に対する責任は負いかねます。
- 管理ユーザーが、このガイド、あるいは適正な訓練を受けた Hologic の人員による指示によらず、オペレーティングシステムやファイルシステムにアクセスすると、システムが破損したり、システムの変動が起きて、システムが使用できなくなる可能性があります。
- このシステムを被検者環境内で使用してはなりません。このシステムは、オフィス環境で使用するものです。
- 電源コネクタの横にある記号は、感電の危険性があることを示しています。感電や火災の発生率を下げるために、適切な接地処理を施し、システムの仕様に基づいた電圧および電流を提供する電源コンセントにのみコンピュータを接続するようにしてください。
- 装置上に液体の入った容器を置かないようにしてください。液体がこぼれた場合は、感電の可能性を最小限に抑えるために、すべてのコンポーネントへの電力をシャットダウンしてからクリーニングを行うようにします。液体が装置内部に入ってしまった場合は、装置の操作を中止し、サービス担当員に連絡してください。



注意:

常にこのガイドに記載されている手順に従ってコンピュータをシャットダウンするようにしてください。システムのシャットダウンが不適切に行われた場合、データが失われたりコンピュータのオペレーティングシステムにダメージを及ぼす恐れがあります。

**重要**

適正な結果と最適な性能を確実に得られるようにするための指示、または装置の制約について明記している以下の指示を守ってください。

- システムを正しく操作するために、画像の技術的品質（例：コントラスト）がマンモグラフィー検査技師によって受け入れられるものでなければならず、Mammography Quality Standards Act (MQSA) または該当する国の規準の要件を満たすものでなければなりません。
- 装置デザインおよび操作モードは、MQSA による規制に従って、最新の標準的マンモグラフィ診療と矛盾がありません。ユーザーは、SecurView アプリケーションを臨床で使用する場合、米国の MQSA、または該当する国内基準に従う必要があります。
- フルフィールドデジタルマンモグラフィー (FFDM) 装置からの画像を読影する際には、American College of Radiologists (ACR) のガイドラインを厳守してください。診断情報を最適に表示するため、画像を 1 枚ずつ View Actual Pixels (実際のピクセルの表示) スケーリングモードで確認してください。SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して 1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。スケーリングモードの詳細については、「[スケーリングモード](#)『62ページ』」を参照してください。
- SecurView の高解像度表示での最適な性能を保証するため、推奨されている品質管理手順に従ってください。国内規則によって要件として定められている頻度で、すべての品質管理テストを実施してください。
- この装置はテストを実施し、FCC 規則の第 15 条に関連する Class A のデジタル装置の制限に従っていることが分かっています。これらの制限は、装置を商業環境で使用した場合の有害な電波干渉に対し、妥当な保護を提供するためのものです。この装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、および放射し、手順書に従って設置および使用しないと無線通信に有害な電波干渉を引き起こす可能性があります。この装置の住宅地域での使用は有害な電波干渉を引き起こす可能性があり、電波干渉が発生した場合、ユーザーは自らの費用負担でその問題に対処する必要があります。
- SecurView ワークステーションは画像レビューワークステーションとしてのみ使用することを目的としています。ワークステーションは、画像データのアーカイブや画像アーカイブとして使用することを目的としています。患者画像と記録の永久アーカイブの場合は、PACS を使用します。

1.5.2 インストールと保守



警告:

以下の指示を守らないと危険な状態を招くおそれがあります。

- システムへの主電源の接続には、地域の規制基準を満たす3極電源コードをかならず接地して使ってください。2極プラグ式のアダプタを使用すると設備の接地との接続がなくなり、深刻な感電をする危険が生じます。
- SecurView ワークステーションコンピュータは重い!コンピュータの持ち上げや配置の際はできるだけ他の人に手助けを依頼してください。
- システムコンポーネントをクリーニングする場合は、必ずこのガイドに記載されている手順に従ってシステムをシャットダウンし、感電しないように電源コードを外します。アルコール、ベンゼン、シンナー、または他の可燃性洗剤は絶対に使用しないでください。



注意:

この製品には、ユーザーによる修理が可能な部品は含まれていません。システムへの損傷を防ぐため、以下の事項に注意してください。

- この装置は、製品サービスマニュアルに記載された温度および湿度の条件を満たした、十分に換気され、空調設備のある環境に置いてください。
- SecurView システムを自分で設置または修理することは避けてください。システムを設置および修理できる資格があるのは、適切な訓練を受けた Hologic 認定の人員だけです。
- 移動または格納の前に電源コードを外してください。
- ネットワークセキュリティおよびアンチウィルス保護のため、ファイアーウォールでシステムを保護してください。Hologic は、このシステムのためのウィルス対策やネットワークのセキュリティ対策施しておりません。アンチウィルスソフトウェアが必要な場合は、Hologic ウェブサイトでも Hologic のサイバーセキュリティプログラムおよびアンチウィルスソフトウェアのインストールをご紹介しますのでご覧ください。

1.6 製品に関する苦情

本製品の品質、耐久性、信頼性、安全性、有効性、性能に関する苦情やご不満な点がある場合は、Hologic までお知らせください。

本装置が患者の重大な負傷の原因または一因となったと確信される根拠がある場合は、電話、ファックス、または書面にてただちに Hologic までお知らせください。

1.7 保証

契約書に特に明記されている場合を除き、i) Hologic の製造した機器は、製品を購入した元のお客様の場合に限り、製品出荷日より、または設置が必要な場合は設置日より 1 年間、発行された製品仕様書に従って十分な機能を果たすことが保証されます（「保証期間」）。ii) デジタル画像マンモグラフィ X 線チューブは 24 ヶ月間保証されます。X 線チューブは最初の 12 ヶ月は完全保証の対象となり、続く 13～24 ヶ月は減価償却日割り計算で保証されます。iii) 交換部品および再製造された物は保証期間の残りまたは出荷後 90 日のいずれか長い期間保証されます。iv) 消耗供給品はそれぞれの包装に記載された期限まで、発行された仕様書に従って十分な機能を果たすことが保証されます。v) ライセンス化されているソフトウェアは、発行された仕様書に従って保証されます。vi) サービスは望ましい作業レベルが供給されることが保証されます。vii) Hologic の製造していない装置は、そのメーカー経由で保証され、そのような Hologic 以外の装置のメーカーが許容する保証が Hologic の顧客に適用されます。Hologic はその製品が中断することなくまたはエラーなしで使用できること、または製品を Hologic が認可していない他社製品とともに使用した場合の性能を保証するものではありません。以上の保証の適用対象外となるのは、(a) Hologic の認可したサービススタッフ以外の者によって修理、移動、もしくは変更された製品、(b) 物理的（熱的、電氣的など）な酷使、圧力、もしくは誤用にさらされた製品、(c) Hologic の関連規定もしくは関連指示に反する方法（Hologic の推奨するソフトウェアアップグレードをお客様が拒否した場合など）で保管、保持、もしくは操作された製品、または (d) Hologic 以外による保証を前提とした提供、事前公開版としての提供、もしくは「現状のまま」での提供が指定された製品です。

第2章 ワークステーションについて

- [ワークステーションの概要](#) 『12ページ』
- [SecurView DX 診断用ワークステーション](#) 『13ページ』
- [SecurView RT 検査技師用ワークステーション](#) 『18ページ』
- [マルチワークステーション構成の機能分担](#) 『23ページ』
- [ユーザーグループとパスワード](#) 『23ページ』
- [起動とシャットダウン](#) 『25ページ』
- [SecurView へのログイン](#) 『26ページ』
- [Unique Device Identifier 情報へのアクセス](#) 『27ページ』

この章では、ワークステーションモデルの概要と、装置同士がどのように機能するか、また院内の他の装置とどのように機能するかについて説明されています。また、システムの起動とシャットダウンの方法、およびログインの方法も説明されています。

2.1 ワークステーションの概要

Hologic では以下の SecurView ワークステーションを提供しています。

- **SecurView DX 診断用ワークステーション** – 放射線専門医がスクリーニングや診断マンモグラフィおよびデジタル乳房 Tomosynthesis の医療画像を読影するのに使用します。SecurView DX ワークステーションは、スタンドアロンワークステーションとして設置するか、SecurView DX マネージャで中央データベースを共有するクライアントワークステーションとして設定することもできます。
- **SecurView DX Manager** – 中央データベースへのアクセスを得られ、接続されているすべての SecurView DX クライアントワークステーション用に画像を準備します。
- **SecurView RT 術者用ワークステーション** – 術者が参照用に画像を表示するため使用します。SecurView RT ワークステーションは、スタンドアロンワークステーションとして設置するか、SecurView RT マネージャで中央データベースを共有するクライアントワークステーションとして設定することもできます。SecurView RT ワークステーションは主に Hologic Selenia FFDM システムのサイトで使用されます。



注記

SecurView RT TechMate はバージョン 9.0 以降をもはやサポートしていません。

- **SecurView RT マネージャ** – 中央データベースへのアクセスを得られ、接続されているすべての SecurView RT クライアントワークステーション用に画像を準備します。

2.2 SecurView DX 診断用ワークステーション

SecurView DX 診断用ワークステーションは、医師がスクリーニングや診断マンモグラフィ、およびデジタル乳房 Tomosynthesis (トモシンセシス) の医療画像を読影するために使用します。

- [SecurView DX スタンドアロンシステム](#) 『14ページ』
- [SecurView DX マルチワークステーションシステム](#) 『15ページ』

SecurView DX には、患者データにアクセスするための照会取得機能が備わった患者ブラウザ、患者画像のレビューと注釈機能、Mammography CAD SR 結果の表示、ワークステーション管理およびユーザー設定などの機能があります。

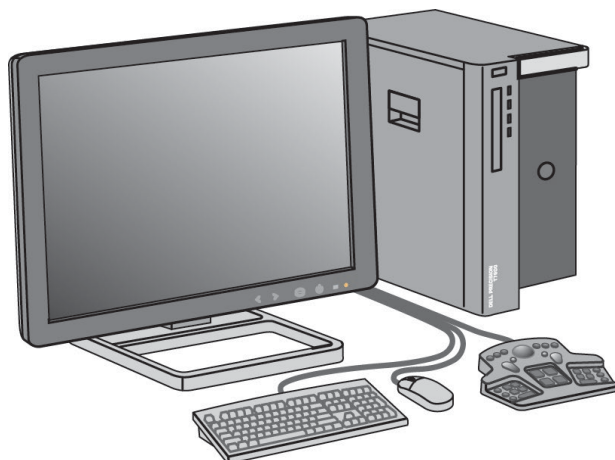
SecurView DX スタンドアロンまたはクライアントワークステーションは以下から構成されます。

- ワイド画面の診断グレースケールまたはカラーディスプレイ (または2つのポートレート ディスプレイ)
- Advanced Multimodality Option、MultiView™ MM ソフトウェア オプション、患者マネージャ、または外部アプリケーション用の1台または2台のオプションの低解像度ディスプレイ。
- Microsoft Windows 搭載コンピュータ (キーボードとマウス付き)
- SecurView ワークフロー キーパッド、トラックボール付 (オプション)
- バーコードスキャナー (オプション、非表示)
- 無停電電源装置 (UPS) (オプション、非表示)



注記

Advanced Multimodality と MultiView MM のオプションを使い、SecurView DX ワークステーションのソフトコピー読影環境を向上させることができます。1台または2台の追加ディスプレイを使い、Advanced Multimodality オプション、MultiView MM オプション、患者リスト、認定の外部アプリケーションを表示できます (Application Synchronization がインストールされている場合)。



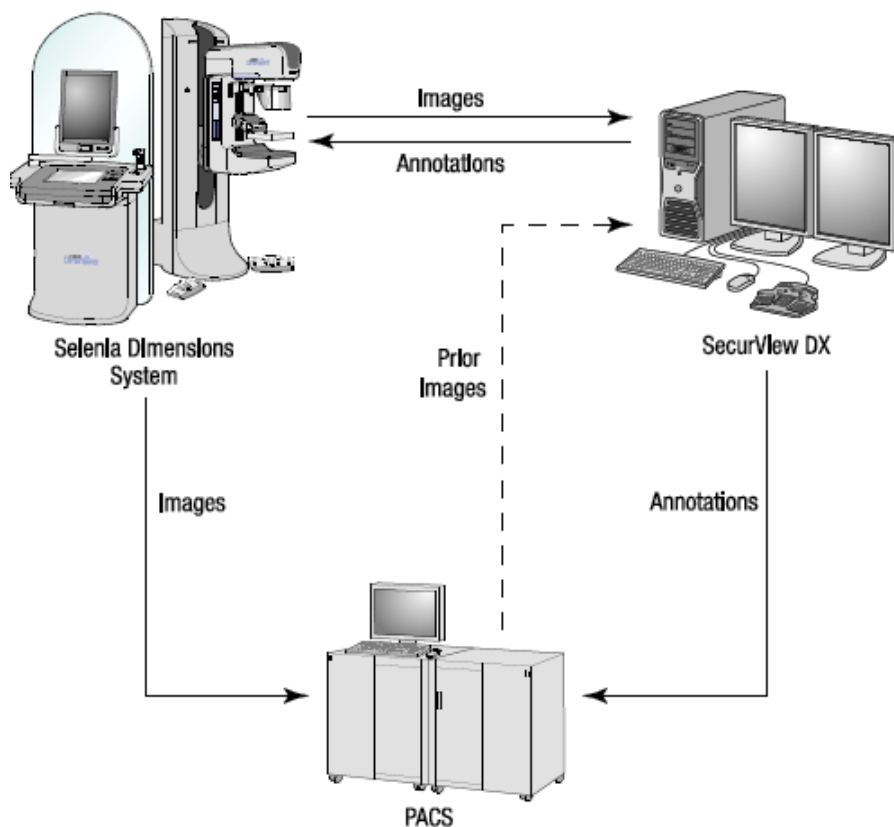
SecurViewDX 診断用ワークステーション

2.2.1 SecurView DX スタンドアロンシステム

スタンドアロン型システムとして設置した場合、SecurView DX 単体で完全なワークステーション機能を得られます。

- 現在の患者の一時保存
- 患者データを閲覧できる患者マネージャ
- 患者画像の表示と注釈付け
- PACS からの患者ケースの照会と取得
- DICOM 接続性
- 構成可能なシステム設置とユーザー設定のデータベース
- 表示用に準備された画像
- Mammography CAD SR の保存と表示

下図は、取り込みワークステーションの元の画像をスタンドアロン SecurView DX ワークステーションへ送られる流れです。SecurView DX 診断用ワークステーションでの画像の読影後、注釈（医師によるマーキングと説明）は SecurView データベースに保存され、設定されたすべての対象へ送信されます。



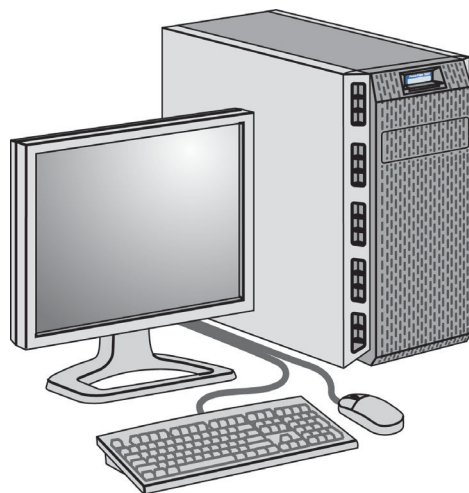
スタンドアロン SecurView DX ワークステーションの情報フロー

2.2.2 SecurView DX マルチワークステーションシステム

SecurView DX マネージャ 1 台で、患者量やワークフローの要件に応じて複数の SecurView クライアントワークステーションに対応しています。マネージャワークステーションは以下から構成されます。

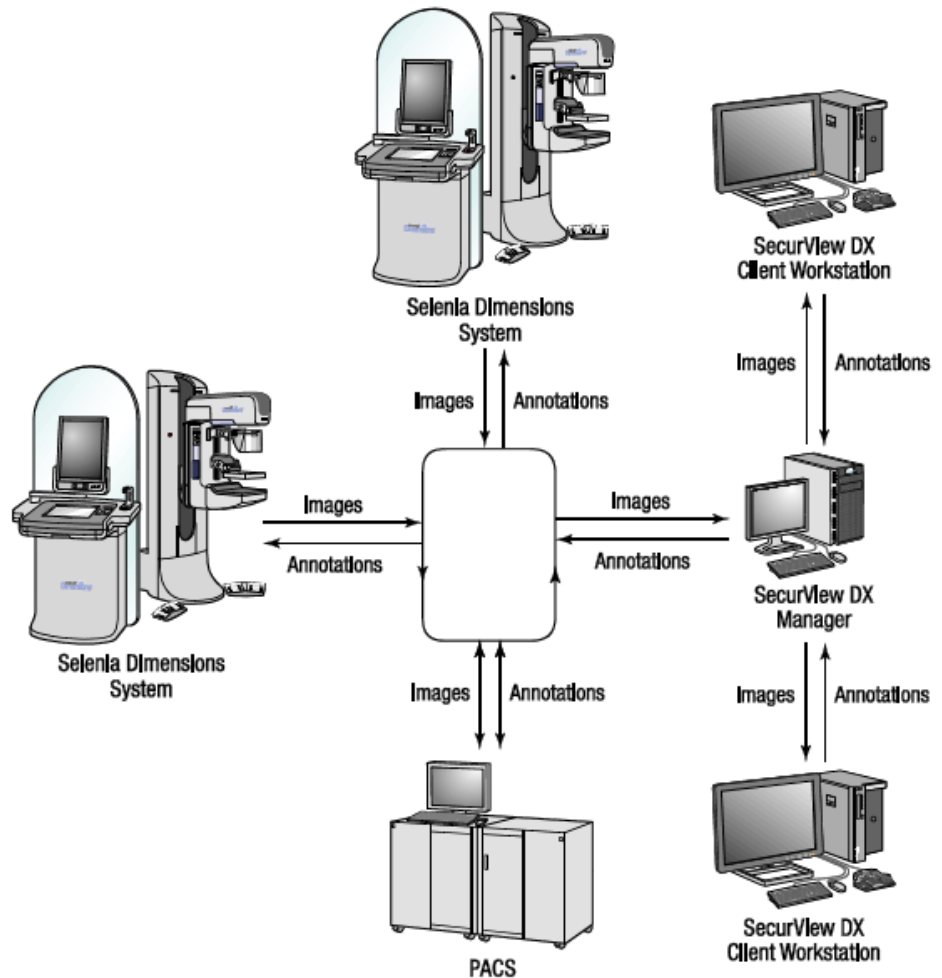
- 横型ディスプレイ
- Microsoft Windows 搭載コンピュータ（キーボードとマウス付き）
- UPS（図中では省略されています）

SecurView DX マネージャは、そのクラスターの中央 SecurView データベースが装備されており、接続されているすべての SecurView DX クライアントワークステーションの画像の準備を行います。マネージャは、マルチワークステーションクラスターの DICOM エンティティの役目を果たし、DICOM 画像を受け取ります。マルチワークステーションクラスター全体で単体の DICOM エンティティとして機能します。



SecurViewDX マネージャ

下図は、画像を収集ワークステーションから SecurView DX マネージャ へ送られる流れです。SecurView DX 診断用ワークステーションでの画像の読影後、注釈（医師によるマーキングと説明）はマネージャデータベースに保存され、設定されたすべての対象へ送信されます。



SecurView DX マルチワークステーション システムの情報の流れ

2.3 SecurView RT 検査技師用ワークステーション

SecurViewRT ワークステーションは検査技師が、新しい画像の確認、以前の画像や放射線専門医の注釈のレビュー、管理タスクを行うために使用します。

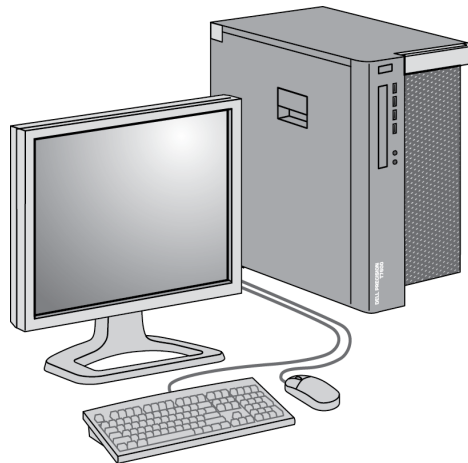
- [SecurView RT スタンドアロン システム](#) 『19ページ』
- [SecurView RT マルチワークステーションシステム](#) 『20ページ』

SecurView RT ワークステーションでは患者画像は低解像度で表示されるため、診断目的での読影には適していません。ただし、SecurView RT には、患者ブラウザ、患者データにアクセスするための照会取得機能、ワークステーション管理およびユーザー設定など、SecurView DX ワークステーションの多くの機能が備わっています。

SecurView RT ワークステーションは主に Hologic Selenia FFDM システムのサイトで使用されます。

SecurView RT スタンドアロンまたはクライアントワークステーションは以下から構成されます。

- 横型ディスプレイ
- Microsoft Windows 搭載コンピュータ（キーボードとマウス付き）
- UPS（図中では省略されています）



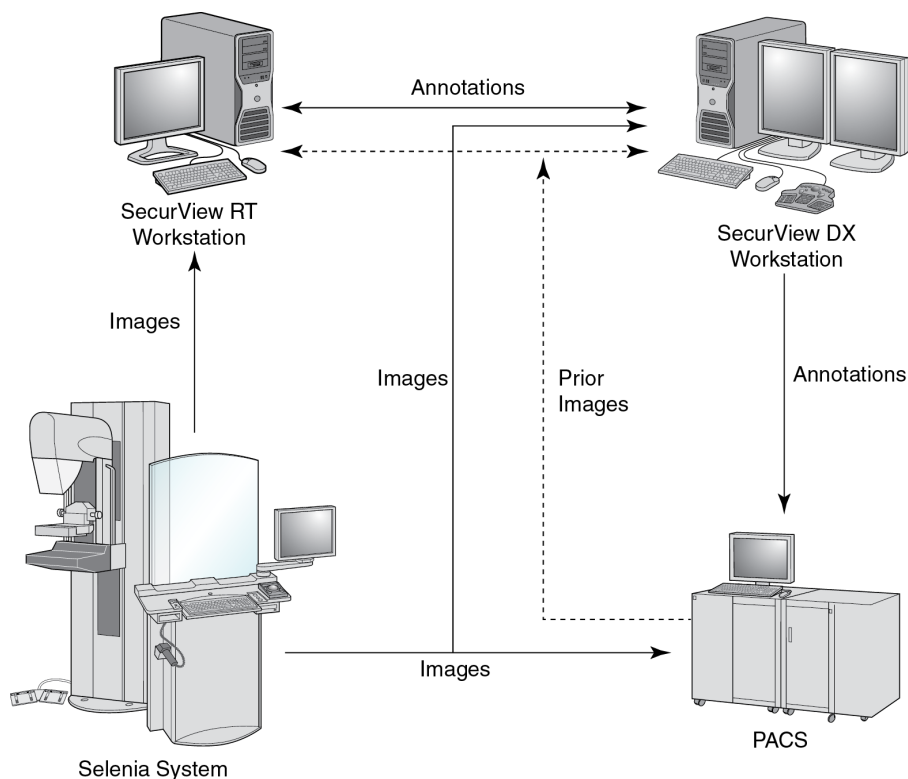
SecurViewRT 検査技師用ワークステーション

2.3.1 SecurView RT スタンドアロン システム

スタンドアロン型システムとして設置した場合、SecurView RT 単体で完全なワークステーション機能を得られます。

- 着信に応じて新規ケースと画像を確認します
- 以前の画像と放射線専門医の注釈をプレビューします
- ReportFlows とハンギング スナップショットを作成・管理します
- マンモグラフィ画像ファイルを印刷、インポート、およびエクスポートします

下図は、収集ワークステーションの元の画像をスタンドアロン SecurView RT および DX ワークステーションへ送られる流れです。SecurView DX 診断用ワークステーションで画像受信後、注釈（医師によるマーキングと説明）は SecurView データベースに自動的に保存され、SecurView RT ワークステーションなど、設定されているすべての対象へ送信されます。

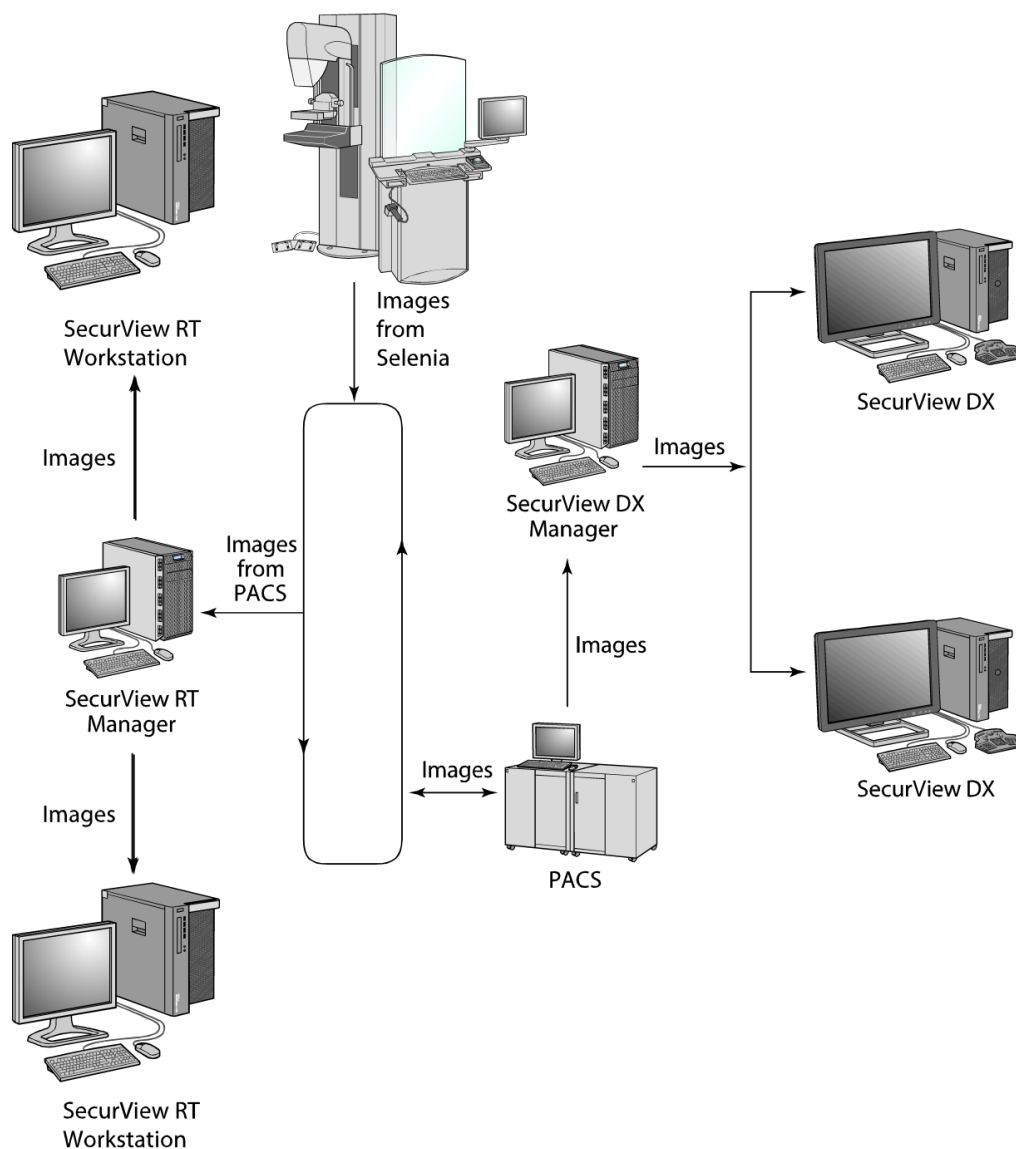


スタンドアロン型の SecurView RT および DX ワークステーションの情報の流れ

2.3.2 SecurView RT マルチワークステーションシステム

SecurView RT マネージャ 1 台で、患者量やワークフローの要件に応じて複数の SecurView RT クライアントワークステーションに対応しています。SecurView DX マネージャ同様に、SecurView RT マネージャにはそのクラスターの中央 SecurView データベースが装備されており、接続されているすべての SecurView RT クライアントワークステーションの画像の準備を行います。

下図は、収集ワークステーションの元の画像を SecurView RT および DX ワークステーションへ送られる流れです。



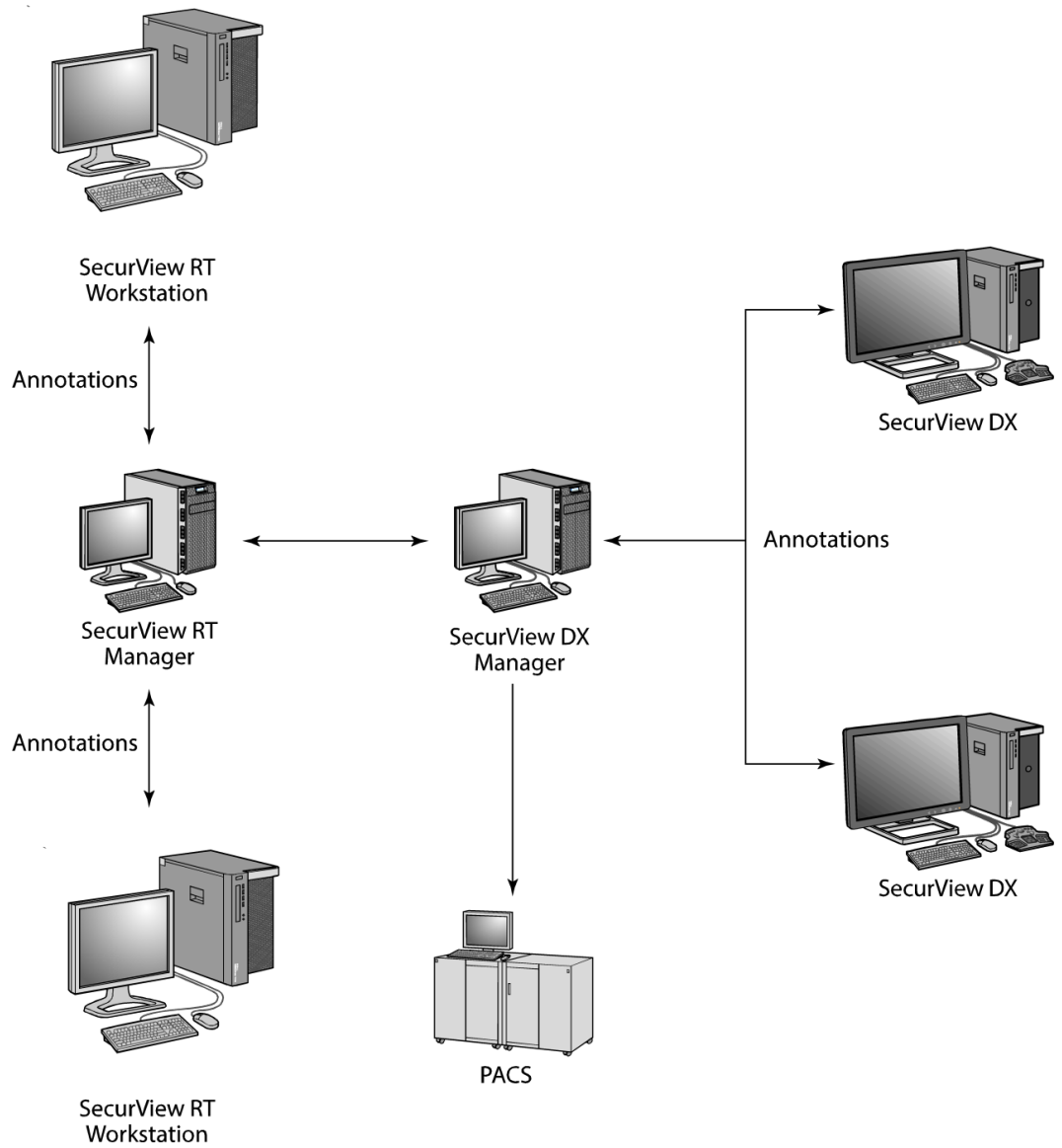
SecurView RT マルチワークステーション設置の ImageFlow

SecurView DX 診断用ワークステーションで画像受信後、クライアントワークステーションで作成された注釈（医師によるマーキングと説明）は SecurView DX マネージャデータベースに自動的に保存され、SecurView RT スタンドアロンまたはマネージャワークステーションなど、クライアントクラスター外に設定されているすべての対象へマネージャによって送信されます。

受信 SecurView RT マネージャは、接続されているすべてのクライアントワークステーションへ注釈を配信します。つまり、検査技師は SecurView RT クライアントワークステーションで医師の注釈を見ることができます。

SecurView DX-RT 10.1 Workstationユーザーガイド

第2章: ワークステーションについて



SecurView マルチワークステーション設置の医師による注釈のフロー

2.4 マルチワークステーション構成の機能分担

以下の表に、マネージャとクライアントワークステーションの機能分担を示します。

機能	SecurView DX または RT Manager	SecurView DX クライアント	SecurView RT クライアント
ケースを閲覧用の患者マネージャ		X	X
患者画像の診断用レビュー		X	
患者画像の注釈付け		X	X
CAD SR の表示		X	X
患者画像と注釈の低解像度表示			X
PACS からの患者ケースの照会と取得		X	X
現在のケースと CAD SR の一時保存	X		
DICOM 接続性	X		
構成可能なシステム設置とユーザー設定のデータベース	X		

2.5 ユーザーグループとパスワード

SecurView システムの管理者は、以下が含まれるユーザープロファイルを設定して各ユーザーを登録する必要があります。

- **ユーザー名** - システムのユーザーを識別する名前です。
- **パスワード** - 安全にログインするために使用されます。
- **名と姓** - ユーザーの実際の名前です。
- **ユーザーグループ** - 放射線専門医、検査技師、管理者、ケース管理者、またはサービス（下記を参照）です。
- **権限** - 画像の表示およびシステム設定を行うために許可されている権限です。

各ユーザーには、割り当てられているグループと権限に応じて、特定のプログラムモジュールへのアクセス権限があります（「[ユーザー プロファイルの管理](#) 『167ページ』」を参照）。

SecurView DX-RT 10.1 Workstationユーザーガイド

第2章: ワークステーションについて

ユーザーグループ	権限 - ユーザーが行える操作..
放射線専門医	<ul style="list-style-type: none">• 各人ごとのワークフロー設定例、デフォルトのツール、ハンギング スナップショット、ReportFlows を構成する• 患者ケースの診断用レビューを行う• 注釈の入力と表示、1 人の患者の複数の記録をマージする、ケースの読影状況を追跡する• PACS で患者を検索する• ケースを閉じる
検査技師	<ul style="list-style-type: none">• スクリーニングおよび診断セッションのワークリストを設定する (SecurView DX 上)• 患者ケースや注釈を表示する• 1 人の患者の複数の記録をマージする、ケースの読影状況を追跡する (SecurView DX 上)• PACS で患者を検索する
ケース管理者	<ul style="list-style-type: none">• 画像や患者をデータベースから削除する• 1 人の患者の複数の記録をマージする
管理者	<ul style="list-style-type: none">• 新規ユーザーを設定してユーザー権限を割り当てる• システムレベルのワークフロー設定 (例、ハンギング スナップショット、ReportFlows) を構成する• ディスク空き容量の監視、自動取得、外部アプリケーションとの同期など、その他のシステムレベルの設定を構成する• データベースのバックアップ保存と回復• 画像オーバーレイと MammoNavigator を構成する
サービス	<ul style="list-style-type: none">• ネットワークおよび DICOM 設定を構成する• ワークステーションを構成する、画像ルーティング、患者をデータベースから削除する、ライセンス管理• すべての管理者設定へのアクセス

2.6 起動とシャットダウン

通常、ワークステーションは電源を入れたままにしておくことができます。システムの電源が入っていない場合や、シャットダウンする必要がある場合（例、コンピュータを移動する場合、停電が予定されている場合）は、以下の手順に従ってください。

SecurView ワークステーションを起動するには



注記

マルチワークステーション構成の場合は、最初に Manager ワークステーションを起動してから、クライアントワークステーションを起動してください。

1. 周辺機器の電源を入れます（最初に UPS の電源を入れ、次にディスプレイの電源を入れます）。
2. SecurView ワークステーション コンピュータの電源を入れます。SecurView アプリケーションが自動的に起動し、ログイン ウィンドウが表示されます。

User name:

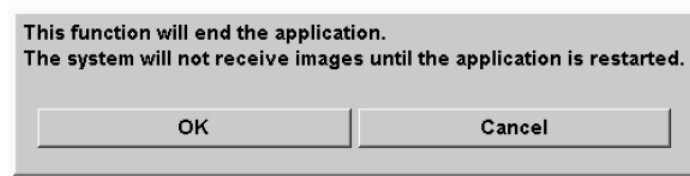
Password:

Login

ログインの詳細については、「[SecurView へのログイン](#) 『26ページ』」を参照してください。

SecurView ワークステーションをシャットダウンするには

1. アプリケーション セレクタで、**Shutdown**（シャットダウン）をクリックします。



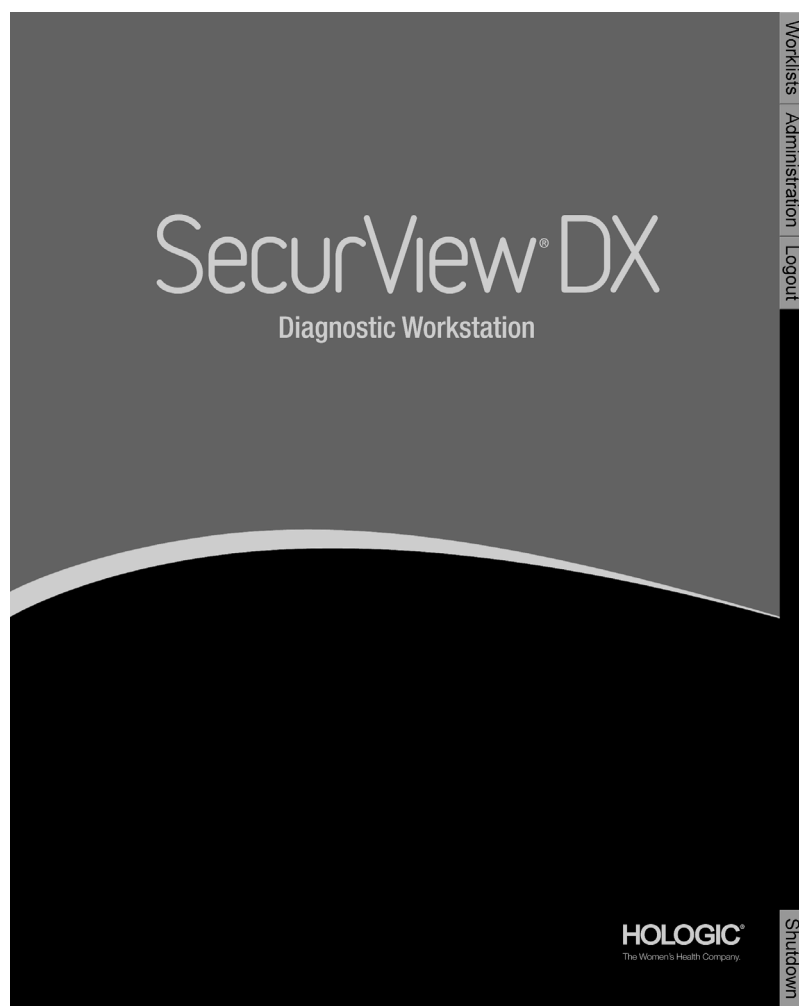
2. **OK** をクリックします。SecurView アプリケーションが閉じ、コンピュータがシャットダウンします。
3. 周辺機器の電源を切ります（最初にディスプレイの電源を切り、次に UPS の電源を切ります）。

2.7 SecurView へのログイン

ユーザーは各人が自分のユーザー名とパスワードを使いログインする必要があります。システム管理者によってユーザーアカウントが設定され、1つまたは複数のユーザーグループ（放射線専門医、検査技師、ケース管理者、管理者、サービス）に割り当てられます。ユーザーグループごとに、特定のプログラム モジュールに対するアクセス権限が決められています。「[ユーザーグループとパスワード](#) 『23ページ』」を参照してください。

SecurView アプリケーションにログインするには

ログインウィンドウで、ユーザー名とパスワードを入力して、**Login**（ログイン）をクリックして SecurView 開始画面を表示します。



アプリケーションへのアクセスは、画面の右側にあるタブを使用します。

- **ワークリスト**: 自動ワークリストおよびユーザー定義によるセッションを使用できます。このタブの使用は、SecurView DX の放射線専門医ユーザーに限定されます。「[患者ケースの表示](#) 『46ページ』」を参照してください。
- **管理**: 管理モジュールへのアクセス権を提供します。レビューする患者を選択し（「[患者マネージャを開く](#) 『30ページ』」を参照）、ユーザー設定をセットアップ（「[ユーザー設定](#) 『133ページ』」を参照）できるようになります。
- **ログアウト**: SecurView からログアウトして、ログインウィンドウを表示します。
- **シャットダウン**: SecurView をシャットダウンして、コンピュータの電源を切ります。「[起動とシャットダウン](#) 『25ページ』」を参照してください。

2.8 Unique Device Identifier 情報へのアクセス

Unique Device Identifier (UDI) は、一意の数字または文字コードで、配布や使用の際、医療デバイスの識別に使われます。UDI 情報は、SecurView アプリケーションの About (バージョン情報) 画面に表示されます。

UDI 情報にアクセスするには:

1. SecurView アプリケーションにログインします ([SecurView へのログイン](#) 『26ページ』)。
2. **About (バージョン情報)** タブを選択します。
About (バージョン情報) 画面に UDI 情報が表示されます。

第3章 患者マネージャ

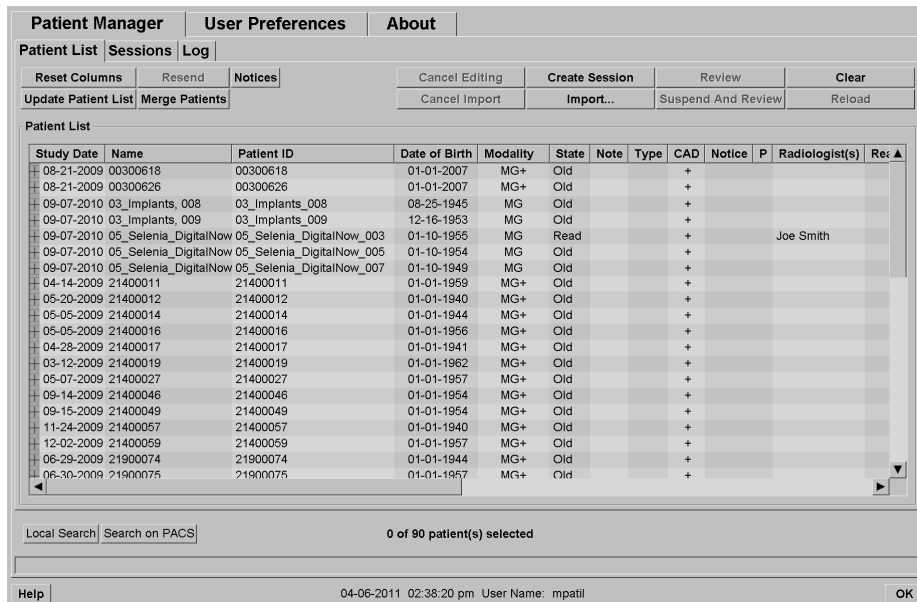
- [患者マネージャを開く](#) 『30ページ』
- [患者リストの使用](#) 『31ページ』
- [セッションの作成](#) 『40ページ』
- [DICOM 画像のインポート](#) 『42ページ』
- [MultiView との患者リストの同期化](#) 『42ページ』

患者マネージャを使い、現在データベースにあるすべての患者、患者のケース、一連の画像、ならびに Study List Manager (ケースリストマネージャ) を介して受信した非ローカル患者ケースを患者リストに表示できます。患者マネージャを使い、以下を行えます。

- 表示する患者を選択する
- 患者ケースを選択する
- セッション (レビューのために事前に準備する患者ワークリスト) を作成する
- ケースの読影状態を追跡する (SecurView DX のみ)
- DICOM 画像を SecurView にインポートする
- 外部の Study List Manager (ケースリストマネージャ) との同期化を行います。

3.1 患者マネージャを開く

アプリケーション セレクタで、**Administration** (管理) をクリックします。Patient Manager (患者マネージャ) タブと患者リストが表示されます。このウィンドウが、患者画像を表示するためのメインウィンドウとなります。



患者マネージャには3つのタブがあります。

- **Patient List (患者リスト)** : システムで利用可能なすべての患者が表示され、患者を検索、選択、レビューするためのオプションを使用できます。
- **Sessions (セッション)** : 既存のセッションの概要と、セッション内の患者が表示されます。また、セッションを編集してソート順を変更したり、患者の追加や削除を行えます。
- **Log (ログ)** : 失敗した印刷ジョブ、自動取得機能、および DICOM 装置との情報交換に関するその他のイベントを記録します。

3.2 患者リストの使用

患者リストには、現在データベース内にあるすべての患者、ケース、シリーズが表示されます。

- [患者の選択](#) 『31ページ』
- [患者リストのボタン類](#) 『32ページ』
- [患者リストの列](#) 『33ページ』
- [読影状況](#) 『35ページ』
- [患者データの自動取得](#) 『36ページ』
- [ショートカットメニューの使用](#) 『37ページ』
- [患者データのマージ](#) 『37ページ』
- [患者の検索](#) 『39ページ』

3.2.1 患者の選択

以下の要領で、1人または複数の患者を選択することができます。

- 患者リストに進むには患者名の最初の数文字を入力します。
- 1人の患者を選択するには、その患者をクリックします。+ をクリックすると、各ケースに付随するケースと画像シリーズが表示されます。

Patient List												
Study Date	Name	Patient ID	Modality	State	Note	Type	CAD	Notice	P	Radiolog	Date of Birth	
+ 2010-07-21	87800027	87800027	MG	Read						Joe Smith	1957-01-1	
- 2010-07-21	87800031	87800031	MG	Not Read						Joe Smith	1956-11-2	
- 2010-07-21			MG	Read						Joe Smith		
- L CC (1)			MG									
- R CC (1)			MG									
- L MLO (1)			MG									
- R MLO (1)			MG									
- 2010-07-21			MG	Not Read								
- L CC (1)			MG									
- L MLO (1)			MG									
+ 2010-07-21	87800032	87800032	MG	Read						Joe Smith	1952-08-2	
+ 2010-07-20	87800008	87800008	MG	Read						Joe Smith	1957-11-1	
+ 2010-07-21	87800029	87800029	MG	Not Read							1964-12-2	

- 1度に1人ずつ患者を追加するには、追加したい患者をクリックします。
- 複数の患者をまとめて選択する場合は、選択範囲の最初の患者をクリックし、マウスボタンを押したままマウスポインタを最後の患者まで移動させます（上方向または下方向に移動できます）。マウスボタンを放します。

レビューを開始するには：

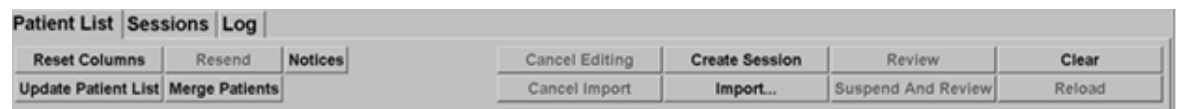
- 1人または複数の患者を選択して（最大100人まで）、**Review**（レビュー）をクリックする、または
- 患者をダブルクリックして（1人の患者データを開く）、または

- バーコードスキャナーを使い患者バーコードを読み取ります。

SecurView によって患者リストが閉じられ、Mammography (MG) Viewer (マンモグラフィ (MG) ビューアー) で最初の患者データが開き、ユーザー設定で指定されている ReportFlow に従い画像が表示されます。

3.2.2 患者リストのボタン類

患者マネージャには、患者データの管理を容易にするボタン類があります。



ボタン類には以下の機能があります。

- **Reset Columns (列のリセット)** – すべての列をデフォルト設定の配列に戻します。
- **Resend (再送信)** – DICOM オブジェクト (GSPS 通知、GSPS レポート、MG Secondary Capture 画像、MM ScreenCapture 画像) を、前回送信に失敗した (設定されている) 送信先へ手動で再送信するときに使用します (SecurView DX のみ)。このボタンは、少なくとも 1 人の選択された患者が「Read* (読影済み)」 (「[読影状況](#) 『35ページ』」参照) 状態にある場合、および/または、「*」が患者リストの「Notice」列にある場合に使用できます。
- **Notices (通知)** – 患者リストをソートし直し、通知のある患者がリストの最初に表示されるようにします。
- **Review (レビュー)** – 選択されている 1 人または複数の患者のレビューを MG Viewer で開始します。「[患者の選択](#) 『31ページ』」を参照してください。
- **Clear (クリア)** – 選択されている患者を画面から消去します。
- **Update Patient List (患者リストの更新)** – 新しいケースがあれば、患者リストに追加します。患者リストを開いているときに画像取り込みワークステーション、または PACS から画像が送られると、患者リストにアイテムが自動的に表示されます。
- **Merge Patients (患者のマージ)** – 2 つの患者記録を手動でマージできます。「[患者データのマージ](#) 『37ページ』」を参照してください。
- **Suspend And Review (保留してレビュー)** – 患者画像のレビューの際に使用できます。現在のワークリストおよび患者の読影を中断して 1 人または複数の優先度の高い患者をレビューする場合にクリックします。これらの患者をレビューした後、前に開いていたワークリストおよび患者に戻り、読影を再開します。

Suspend And Review (保留してレビュー) のモードを有効にするには:

- (1) レビューモードで、キーパッドまたはツールバーから患者リストを選択します。
- (2) Patient Manager (患者マネージャ) が表示されたら、1 人または複数のレビュー対象の患者を選択し、**Suspend and Review (保留してレビュー)** ボタンをクリックします。新しいレビューのセッションが開きます。

(3) 中間セッションを完了した後、ツールバーボタンをクリックし、レビューモードを終了します。この後、保留にした場所から前のセッションを続けることができます。

「[ショートカットメニューの使用](#) 『37ページ』」を参照してください。

- **Import...** (インポート) - 患者 DICOM ファイルを SecurView データベースへインポートします。「[DICOM 画像のインポート](#) 『42ページ』」を参照してください。
- **Cancel Import** (インポートの取り消し) - この機能は DICOM ファイルをインポートしているときに有効になります。クリックすると、インポートが中止されます。すでにインポートされた画像は SecurView に保持されます。

以下の3つのボタンは、セッションの作成と編集に使用します（「[セッションの作成](#) 『40ページ』」を参照してください）。

- **Create Session** (セッションの作成) - レビューを行う患者のリストを作成します。
- **Reload** (再ロード) - この機能は、セッションで患者を編集しているときに有効になります。ボタンをクリックすると、それまで行った変更を元に戻せます。
- **Cancel Editing** (編集の取り消し) - この機能は、セッションで患者を編集しているときに有効になります。ボタンをクリックすると、ハイライト表示されている任意の患者を未選択にできます。

患者リストの下には2つの検索ボタンがあります。「[患者の検索](#) 『39ページ』」を参照してください。



Local Search Search on PACS

- **Local Search** (ローカルの検索) - ローカルの SecurView データベース内の患者を検索します。
- **Search on PACS** (PACS の検索) - PACS の患者を検索して読み込みます。

3.2.3 患者リストの列

患者リストの列見出しを使い、患者のソートやマージを行えます。例えば、列の見出しをクリックして、患者をケースの日付、患者名、読影状況によってソートすることができます。2つのソート条件でソートできます。列をクリックすると、優先度1のソート条件になり、以前の優先度1の条件が自動的に優先度2になります。列をソートすると、すべての患者ケースおよびシリーズが折りたたまれ、患者レベルのエントリがソートされます。

また、以下の方法で列の幅や位置を変更することができます。

- 列の見出しを患者リスト内の目的の位置までドラッグする。
- 列（見出し）の右側境界をドラッグして列の幅を変更する。

Administration (管理) モジュールを終了すると、列のアレンジメントがユーザー設定として保存されます。

以下は列に関する説明です。特に明記されていない限り、患者レベルでの表示内容が示されています。

- **Study Date** (ケースの日付) – 最新のケースを取り込んだ日付です。非ローカルケースの場合、シリーズの説明の代わりに「非ローカル」がシリーズレベルに表示されます。
- **Name** (名前) – 患者の名前 (名、姓) です (100 文字以内)。



注記

SecurView がサポートしていない文字が患者名に使用されると、疑問符の文字 ('?') が表示されます。

- **Patient ID** (患者 ID) – 患者の識別番号です (70 以内)。アスタリスク (*) 記号が付いている患者は、マージまたは結合された患者データであることを示します。



注意:

患者 ID (および生年月日) を使用して患者を識別し、新しいデータを既存の患者データへ割り当てます。患者 ID は、画像が収集される施設独自のものです。SecurView は、収集ワークステーションまたは患者スケジューリングシステムの不正な入力によって発生する不正なデータを識別できません。誤った患者 ID の画像が誤った患者に追加された場合、患者が混同される恐れがあります。

- **Date of Birth** (生年月日) – 患者の生年月日です。
- **Modality** (モダリティ) – 各患者ケースのすべてのモダリティが、カンマで区切られたリストに表示されます。Tomosynthesis ケースおよびシリーズのモダリティは「MG+」と表示されます。非ローカルケースは、US および MR のモダリティとなる可能性があります。ケースレベルでは、各シリーズは側性、ビュー、画像の種類、画像数と共に表示されます。
- **State** (状態) – 患者および各被験者ケースの読影状況を示します (SecurView DX のみ)。「[読影状況](#) 『35ページ』」を参照してください。



注記

非ローカルケースには状態がありません。非ローカルケースの場合、状態の列は空白になります。

- **Note** (備考) – 直近のケースの中間状態を示します Consultation Required (診察が必要)、Additional Images Required (追加画像が必要)、Additional Images Arrived (追加画像到着)、Pending (保留) (SecurView DX のみ)。「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください。
- **Type** (種類) – 直近のケースの種類を示します (スクリーニング、診断、不確定)。
- **CAD** – 患者に CAD レポートを使用できるかどうかを示します。
- **Notice** (通知) – 患者について 1 つまたは複数の通知を利用できるかどうかを示します («[通知の送信と表示](#) 『100ページ』」を参照)。「+」は SecurView ワークステーション 1 つまたは複数の通知を受け取ったことを示します。アスタリスク「*」は、ワークステーションが通知を送信しようとしたときに不具合が起きたことを示します。術者ユーザーは、通知のある患者を表示済みとしてマークすることができます («[術者としてケースを閉じる](#) 『107ページ』」を参照)。

- **AF** – 患者の Auto-Fetching (自動取得) 状況を示します。「[患者データの自動取得](#)『36ページ』」を参照してください。
- **P** – 自動削除に対して患者が保護されていることを示します。自動削除されないよう患者を保護するには、患者を右クリックして **Protect against autodeletion (自動削除から保護)** をクリックします。「[ショートカットメニューの使用](#)『37ページ』」を参照してください。
- **Radiologist(s) (放射線専門医)** – ケースを読影したか、または被検者を「診察が必要」、「追加画像が必要 (または追加画像を受信)」、または「保留」に設定した放射線専門医の名前です。患者をロックした放射線専門医の名前の隣にアスタリスク (*) 記号が付きます (SecurView DX のみ)。
- **Technologist(s) (検査技師)** – 患者画像を撮像した検査技師の名前です。
- **Referring Physician (担当医)** – 患者の検査を依頼した医師の名前です。
- **Accession Number (アクセッション番号)** – 患者レベルで表示された時点での直近のケースのアクセッション番号です。
- **Institution Name (医療機関名)** – 使用可能なケースの年齢順に医療機関名が表示されるリストです。
- **# Exam (検査数)** – 使用可能なケースの総数です。
- **Gender (性別)** – 患者の性別です (「F」 (女性)、「M」 (男性))。
- **Read Twice (2 回読影)** – ケースを 2 回読影することを示します (SecurView DX のみ)。
- **Viewed (表示済み)** – この列は SecurView RT でのみ表示されます。被検者の少なくとも 1 件のケースについて、受信した通知を SecurView RT 上で表示している場合は「+」記号が付きます。術者ユーザーは、通知のある患者を表示済みとしてマークすることができます (「[術者としてケースを閉じる](#)『107ページ』」を参照)。

3.2.4 読影状況

SecurView DX 上では、患者リストの State (状態) 列に各患者および各患者ケースの現在の読影状況が表示されます。SecurView RT では、State 列は表示されません。

読影状況 (Read (読影済み)、Not Read (未読影) 等) は、それが患者レベルであるかケースレベルであるかによって、異なる意味を持つ可能性があります。



注記

非ローカルケースには状態がありません。非ローカルケースの場合、状態の列は空白になります。

読影状況	患者レベル	ケースレベル
Not Read (未読影)	この患者の少なくとも1つのケースの読影状況が「未読影」または「1回読影済み」です。	ケースは読影されていません。
Read (読影済み)	この患者のケースのうち少なくとも1つが、現在のユーザーによって読影されています。その他のケースの読影状況は「Old」です。	ケースは読影されています。
Read Once (1回読影)	(適用されません)	2回読影環境で、1次読影者によって読影されたが2次読影はまだ行われていないケースです。
Changed (変更あり)	この患者のケースのうち少なくとも1つの読影状況は「Changed」です。	ケースの読影後に追加の画像が到着しています。
Old (既存)	この患者のすべてのケースの読影状況は「Old」です。	SecurView で受信した画像が5日以上前に取り込み装置で作成されているケース (この値は設定可能です)。

ケースによっては、読影状況は自動的に変わります。例えば、あるケースが「Read (読影済み)」の場合に、SecurView で新しい (作成後5日以上経過していない) 画像を受信すると、読影状況が「Changed (変更あり)」に変わります。

また、患者レビューの際に患者 ID の前に記号が付き、読影状況が示されます。(「[レビュー時の患者の読影状況とロック状況](#)」『57ページ』) を参照してください。

Read (読影済み) * 状態

送信した DICOM オブジェクト (GSPS 通知、GSPS レポート、MG Secondary Capture 画像、MM ScreenCapture 画像) が設定されている送信先へ届かなかった場合、SecurView 上では被検者の読影状況が「Read* (読影済み)」になり、被検者リストの **Resend (再送信)** ボタンが有効になります。「Read*」が表示された場合は、すべての DICOM 対象が正しく設定されていることを確認します。**Resend (再送信)** をクリックしても状態が「Read」に変わらない場合は、Hologic テクニカルサポートへご連絡ください。詳細については、「[患者リストのボタン類](#)」『32ページ』を参照してください。

3.2.5 患者データの自動取得

新しく撮像された画像を SecurView が受け取ったときに、患者の DICOM データをアーカイブから自動的に取得することができます。この場合、SecurView によって、以前のマンモグラフィ画像、CAD SR、GSPS レポート (注釈付きの (または注釈のない) ケース状態とタグの付いた tomosynthesis スライス)、GSPS 通知、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture、「自動取得」基準を満たす他社製 GSPS オブジェクトが読み込まれます。この機能は、サービスエンジニアまたは管理者が設定する必要があります(「[自動取得/自動完了の構成](#)」『175ページ』) を参照してください。「自動取得」機能をオンに設定した場合、サービス インタフェースで「PACS 1」として設定されているアーカ

イブから要求された被検者データの状態が被検者リストの AF 列に表示されます。可能な状態は以下のとおりです。

- += 自動取得は正常に完了しました
- 0= 自動取得は進行中です
- D= 自動取得は延期されました（または、中断されました）
- F= 自動取得に失敗しました - 詳細を見るには、Log（ログ）タブをクリックしてください。
- -= 自動取得基準に一致するデータは PACS 1 で見つかりませんでした
- 空白 = 自動取得は起動していません

3.2.6 ショートカットメニューの使用

患者を右クリックすると、ショートカットメニューが開き、オプションを選択することができます。

- **Suspend open patient and review**（開いている患者を保留にしてレビューする）
- 現在の患者を閉じ、新しい患者のレビューを行った後に元の患者に戻ることができます（患者リストの Suspend and Review（保留にしてレビュー） ボタンと同様の機能です）。詳しくは、「[患者リストのボタン類](#)『32ページ』」を参照してください。
- **Protect against autodeletion**（自動削除から保護） - 患者が意図せず削除されないようにします。
- **Unlock**（ロック解除） - ロックした患者のロックを解除することができます（SecurView DX のみ）。ロック状態には3種類あります（「Consultation Required（診察が必要）」、「Additional Images Required（追加画像が必要）」、「Pending（保留）」）。「[ケースを閉じる](#)『104ページ』」を参照してください。
- **Take over**（引き継ぐ） - 別の放射線専門医によってロックされた患者を「引き継ぐ」ことができます。
- **Synchronize patient**（患者の同期） - 同期リクエストを外部アプリケーションに送ることができます（「[外部アプリケーションとの患者の同期](#)『111ページ』」を参照）。
- **Export to media**（メディアへエクスポート） - 選択した患者のすべての画像を DICOM 形式でフォルダまたは CD/DVD ドライブへエクスポートすることができます（「[DICOM ファイルのエクスポート](#)『202ページ』」を参照）。
- **Undo merge patients**（患者のマージを元に戻す） - SecurView データベースでマージされている2つの患者記録を分離することができます。この機能は、患者リストの **Merge Patients**（患者のマージ）機能で行った操作を元に戻します（「[患者データのマージ](#)『37ページ』」を参照）。

3.2.7 患者データのマージ

SecurView では、患者 ID と生年月日と同じすべての DICOM データが自動的にマージされます。患者 ID が一意であり、特定の画像種類（例えば、デジタル化された以前のフィルム）に生年月日の値が含まれていないことが施設で確立されている場合は、サービスエンジニアがシステムを構成して、共通の患者 ID を持ち生年月日のない（または生年月日と同じ）画像をマージするよう設定できます。

患者が同一人物である場合に、異なる患者 ID を持つ患者記録をマージする方法を以下に説明します。この機能を使い、異なる時点で撮像された患者画像を並べて表示しレビューを行えます。



注記

外部の Study List Manager (SLM) の非ローカル検査データを含む患者は、手動でマージすることはできません。



注記

SecurView 上で患者データをマージしても（例えば、2 つ以上のケース）、PACS に保存されている患者データはマージされません。

2 つの患者記録をマージするには :

1. 患者データが開いていない場合は、患者リストから患者記録を 2 つ選択して、**Merge Patients (患者のマージ)** をクリックします。選択した患者が、ワークグループクラスター内のどのクライアント上でも現在開かれていない場合、選択されている患者記録が SecurView によって、示されます。

2. 主患者の患者記録を選択します。選択を行い、**OK** をクリックします。2 つの患者がマージされ、ダイアログが閉じます。

患者のマージが終了すると、主患者のみが患者リストに表示されます。SecurView によって、両方の患者記録のすべてのケースとシリーズが主患者に割り当てられます。患者リストで、マージされた主患者の患者 ID にアスタリスク (*) が付きます。

3. 主患者を選択して、**Review** (レビュー) をクリックします。マージした患者のすべての画像と対応する DICOM オブジェクト (通知および注釈付きケース状態、CADSR 等) が MG Viewer に表示されます。

3.2.8 患者の検索

SecurView ワークステーションでは、検索に 2 つのオプションが提供されています。



デフォルトの検索フィールド (患者 ID または患者名) はユーザー設定に従って設定されています (「[ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』」を参照)。

ローカル検索

下図の画面に示されている検索基準に従い、ローカルの SecurView データベースのデータを検索します。(アスタリスク (*) 記号をワイルドカード文字として使用できます。)

A screenshot of a search dialog box. It contains several search criteria: "Examination Date" with a date range from 2007 to 2007, "Patient Name", "Patient ID", "Accession number", and "Date of Birth" with a date range from 1900 to 1900. There are two sections for filtering: "Type" with checkboxes for "Diagnostic" and "Screening", and "State" with checkboxes for "Not read", "Read once", "Read", and "Locked (Cons., Add., Pend.)". At the bottom, there are "Search" and "Cancel" buttons.

PACS の検索

構成されている PACS (画像ソース) を検索して DICOM データ (以前の画像または他のモダリティの画像) を読み込むことができます。SecurView によって、読み込まれた画像がローカル データベースにコピーされます。

検索を行うには、検索基準を入力して **Search (検索)** をクリックします。(アスタリスク (*) 記号をワイルドカード文字として使用できます。) 検索が正常に終了すると、一致する患者データが Search Results (検索結果) 領域に表示され、Retrieve (読み込み) ボタンが有効になります。データを SecurView へ転送するには、Search Results (検索結果) 領域で 1 つまたは複数のアイテムを選択して、**Retrieve (読み込み)** を選択します。



重要

前の検索が終了する前に新規の検索を開始した場合、新規検索の進行状況のみが表示されます。

場合によっては、PACS が Advanced Criteria (高度な基準) 領域の一部のタブやフィールドに対応していないことがあります。タブやフィールドの構成と起動はサービスエンジニアが行う必要があります。

3.3 セッションの作成

「セッション」とは、検査技師、または SecurView DX 上の放射線専門医によって事前に設定される患者ワークリストです。検査技師ユーザーは、放射線専門医のためにセッションを設定することができます。放射線専門医ユーザーは、自分で使用するためにのみセッションを設定することができます。



注記

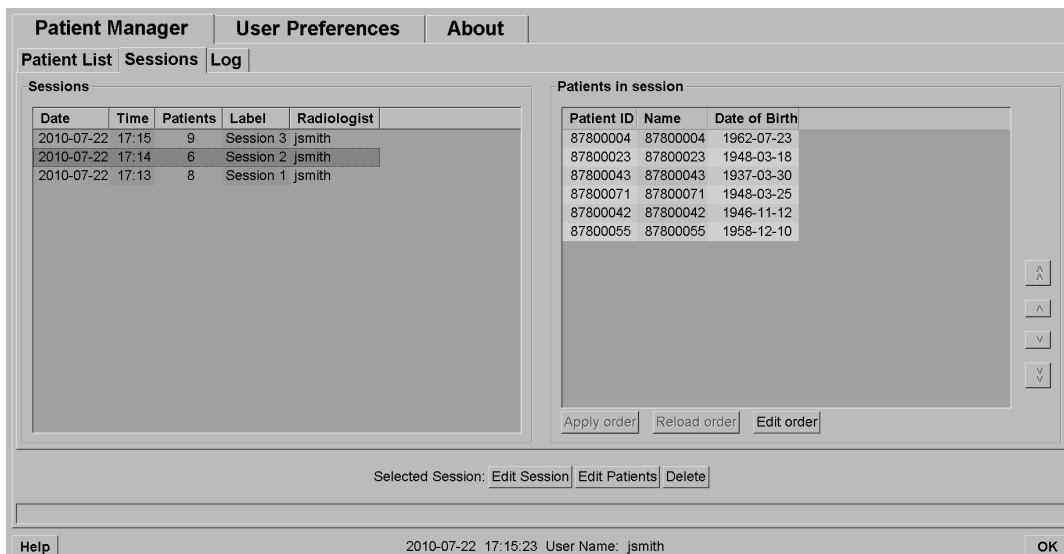
セッション機能を使用するには、管理者が Scheduling (スケジューリング) オプション (「[Scheduling \(スケジューリング\)](#) 『172ページ』」を参照) を有効にして、各ユーザーに設定権限を構成する必要があります (「[ユーザー プロファイルの管理](#) 『167ページ』」を参照)。また、SecurView では「セッション」ワークリスト内の患者が Workflow (ワークフロー) タブのユーザー設定に従い自動的にソートされます (「[ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』」を参照)。

セッションを作成するには:

1. 患者リストで、セッションに割り当てたい患者を選択します。次に、**Create Session** (セッションの作成) をクリックします。

Sessionlabel:	Session 1
Radiologist:	jsmith ▼
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

2. セッションの名称を **Sessionlabel** (セッションラベル) フィールドに入力します。検査技師ユーザー権限を持っている方の場合、**Radiologist** (放射線専門医) ドロップダウンリストを使い、セッションを放射線専門医に割り当てることができます。
3. **OK** をクリックしてセッションを作成します。放射線専門医ユーザーの場合、**Sessions** (セッション) タブが自動的に開きます。(検査技師ユーザーの場合、患者リストが開きます。)



Sessions (セッション) タブで、左側にある目的のセッションにポインタを重ね、以下の操作を行います。

- 患者の順序を編集するには、患者を選択して、**Edit order** (順序の編集) をクリックし、列見出しまたは右側にある適切な矢印キーをクリックします。
- セッションを編集するには、**Edit Session** (セッションの編集) をクリックして、「セッションラベル」ダイアログを再表示します。エントリに目的の編集を行い、**OK** をクリックします。
- 患者を追加または削除するには、**Edit Patients** (患者の編集) をクリックして、患者リストを再表示します。患者を再選択 (または選択解除) して、**Create Session** (セッションの作成) をクリックし、「セッションラベル」ダイアログを再表示します。エントリに目的の編集を行い、**OK** をクリックします。

患者を編集している途中で変更を中止したい場合は、患者リストで **Reload** (再ロード) をクリックしてセッションを直前の状態に戻します。

3.4 DICOM 画像のインポート

Import... (インポート) ボタンを使い、ローカルフォルダまたは外部メディア (CD、DVD、USB ドライブ等) から DICOM 画像をインポートします。



注記

画像のエクスポートについては、「[DICOM ファイルのエクスポート](#) 『202ページ』」を参照してください。

DICOM 画像をインポートするには :

1. 患者リストで、**Import...** (インポート) をクリックしてダイアログからインポートを表示します。
2. インポートする DICOM 画像のあるフォルダへ移動します。デフォルトのパスは F:/Exports/ です。
3. 画像フォルダを選択して、**OK** をクリックします。フォルダ内の DICOM Part 10 に準拠したすべての画像 (DICOM 圧縮転送構文で保存されたものを含む) が SecurView によってインポートされます。DICOM ファイルは容量が大きいため、これには数分間かかることがあります。
4. 画像のインポートが終了したら、インポートした画像がすべて患者リストに表示されることを確認します。

3.5 MultiView との患者リストの同期化

この機能が構成されている場合、SecurView ワークステーションを外部の Study List Manager (ケースリストマネージャ) と同期させることができます。

- SecurView の患者リストには、SecurView (ローカルケース) が受信する画像付きのすべてのケース、および Study List Manager (ケースリストマネージャ) (非ローカルケース) にとって既知の外部システム上に存在するすべてのケースが含まれています。クライアントワークステーションでは、関連付けられた Study List Manager (ケースリストマネージャ) (SLM) クライアントの非ローカルケースのみが一覧表示されます。マネージャでは、Study List Manager (ケースリストマネージャ) にとって既知のすべての非ローカルケースが一覧表示されます。クライアントワークステーションのために関連付けられた SLM クライアントの詳細については、「[同期インタフェースの構成](#) 『181ページ』」を参照してください。
 - SecurView は、Patient List (患者リスト) に表示されたローカルケースに関する情報を Study List Manager (ケースリストマネージャ) に送ります。
1. 外部アプリケーションとの同期 (「[外部アプリケーションとの患者の同期](#) 『111ページ』」を参照) により、SecurView 上での同時患者レビューと同期化された MultiView アプリケーションをいずれかのアプリケーションからトリガすることができます。
 2. ケースリスト管理の設定については、「[Study List Manager \(ケースリストマネージャ\) \(SLM\) の設定](#) 『178ページ』」を参照してください。



注意：

(例えば、通信エラーなどによって) SLM との同期化に失敗すると、非ローカルケースは SecurView Patient List (患者リスト) の中で使用することができなくなります。接続されている他の SLM クライアントアプリケーション (MultiView など) の中にあるローカル患者リストを見て、患者に該当するすべてのケースのレビューが確実に行われているか確認します。



注意：

非ローカル患者がマージした患者の主患者である場合、SLM 同期化により非ローカル患者が削除されると患者のマージが自動的に解除されます。

第4章 患者のレビュー

- [患者ケースの表示](#) 『46ページ』
- [患者画像の表示](#) 『48ページ』
- [画像詳細の視覚化](#) 『71ページ』
- [CAD の使用](#) 『85ページ』
- [注釈の作成と表示](#) 『92ページ』
- [通知の送信と表示](#) 『100ページ』
- [ケースを閉じる](#) 『104ページ』
- [印刷オプション](#) 『108ページ』
- [外部アプリケーションとの患者の同期](#) 『111ページ』

この章では、表示のために患者データを開く方法、表示および注釈ツールの使用方法、ケースを閉じる方法、画像の印刷方法、外部アプリケーションとの同期方法について説明します。

4.1 患者ケースの表示

多くの場合、レビューは患者ワークリストに基づき行われます。ワークリストには3種類あります。ワークリストを設定すると、MG Viewer で患者のレビューを行えます。

- [患者リストのワークリスト](#) 『46ページ』
- [ワークリストの自動作成](#) 『46ページ』
- [セッション ワークリスト](#) 『47ページ』
- [MG Viewer](#) 『48ページ』

4.1.1 患者リストのワークリスト

患者リストから、1人または複数の患者をポイントし（下図で濃い灰色でハイライト表示されている箇所）、Review（レビュー）をクリックして、一時ワークリストを手動で作成することができます。

Patient Manager		User Preferences		About									
Patient List		Sessions		Log									
Reset Columns	Resend	Notices		Cancel Editing	Create Session								
Update Patient List	Merge Patients	Cancel Import	Import...	Suspend And Review	Clear								
Patient List													
Study Date	Name	Patient ID	Date of Birth	Modality	State	Note	Type	CAD	Notice	P	Radiologist(s)	Read Twice	Technologist▲
08-21-2009	00300618	00300618	01-01-2007	MG+	Old			+					
08-21-2009	00300626	00300626	01-01-2007	MG+	Old			+					
12-03-2009	00300790	00300790	01-01-2007	MG+	Old								
12-03-2009	00300806	00300806	01-01-1945	MG	Old								
09-07-2010	01_Multim 01_Multimor		04-06-1961	vIG, US, MF	Old			+					
09-07-2010	01_Multim 01_Multimor		01-10-1928	vIG, US, MF	Old								
09-07-2010	01_Multim 01_Multimor		01-10-1952	vIG, US, MF	Old			+					
09-07-2010	02_Patien 02_Patient_		10-29-1962	MG	Old			+					
09-07-2010	02_Patien 02_Patient_		11-07-1961	MG	Old			+					



Barcode Reader
(バーコード
リーダー)

レビューを開始するには：

- 1人または複数の患者を選択して（最大100人まで）、**Review**（レビュー）をクリックする、または
- 患者をダブルクリックして1人の患者データを開く、または
- バーコードリーダーで患者バーコードを読み取り、1人の患者データを開きます。バーコードリーダーは、患者IDまたはアクセッション番号を読み取ります（サービスエンジニアによって構成されている設定によります）。

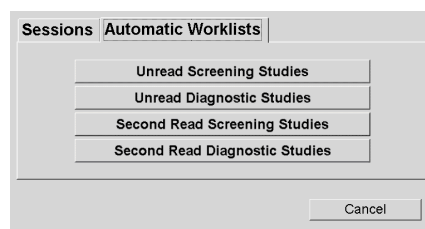
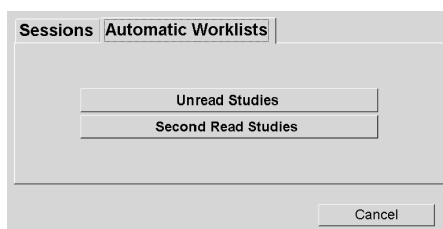
患者リストに関する詳細は、「[患者リストの使用](#) 『31ページ』」を参照してください。

4.1.2 ワークリストの自動作成

SecurView DX では、「未読影」および「2次読影」ケースのワークリストが自動的に作成されます。さらに、「未読影」および「2次読影」ケースを「スクリーニング」および「診断」ケースのワークリストに分割することができます。作成されるワークリストの種類は、管理者が構成した設定によって異なります（「[ワークリスト](#) 『183ページ』」を参照）。

自動作成ワークリストを選択するには：

1. ログイン後、**Worklists**（ワークリスト）タブを選択します。
2. **Automatic Worklists**（自動作成ワークリスト）タブを選択します。構成の設定によって、2つ、3つ、または4つボタンが表示されます。



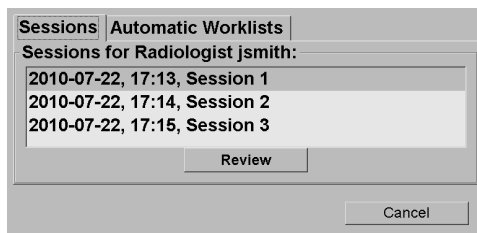
3. 適切なボタンをクリックします。MG Viewer が開き、選択したワークリストの最初の患者が表示され、所定の基準に一致するすべての患者が表示されます。
未読影または2次読影ケースがない場合は、ボタンは無効にされています。

4.1.3 セッション ワークリスト

ワークステーションでセッション機能が構成されている場合、セッションを開いてレビューを行うことができます。セッションの設定に関する詳細は、「[セッションの作成](#) 『40ページ』」を参照してください。

セッションを選択するには：

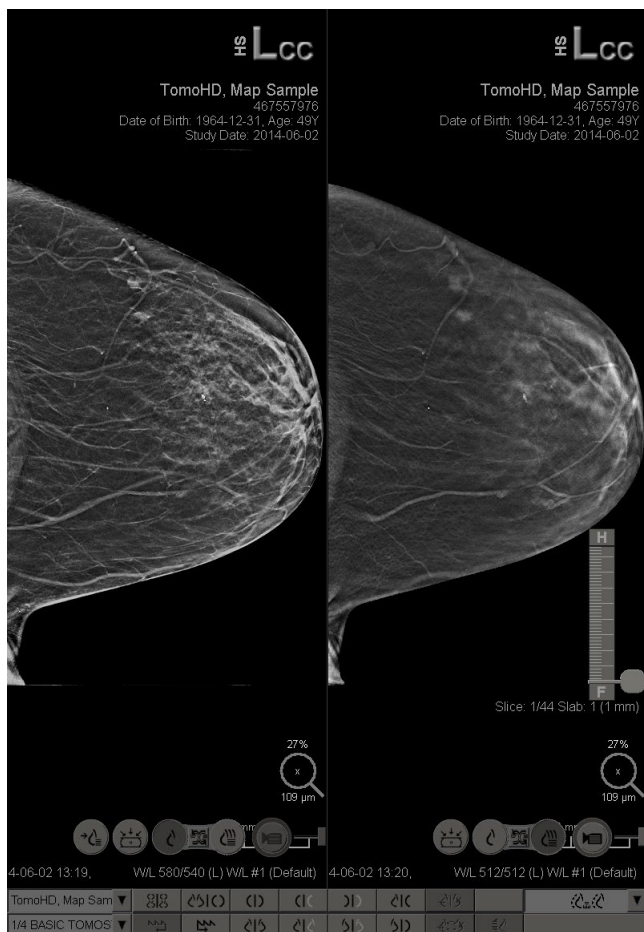
1. ログイン後、**Worklists**（ワークリスト）タブを選択します。
2. **Sessions**（セッション）タブを選択します。セッションをすでに作成している場合（または、作成してもらっている場合）は、下図の例に示すようにセッションが表示されます。



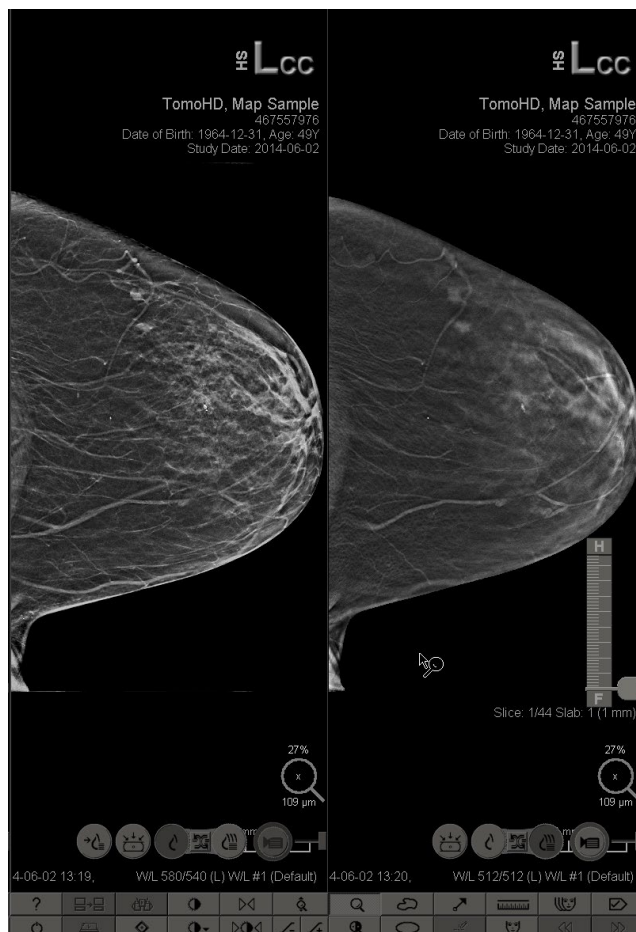
3. セッションをクリックして、**Review**（レビュー）をクリックします。MG Viewer が開き、セッション ワークリストに最初の患者が表示されます。

4.1.4 MG Viewer

患者データを開くと、MG Viewer が起動します。



MG Viewer – 左側ディスプレイ



MG Viewer – 右側ディスプレイ

ほとんどの場合、ユーザーとアプリケーションの相互作用は、各ディスプレイの下部にあるツールバーボタン、または対応するキーパッドボタンを使って行います。








4.2 患者画像の表示

患者画像を表示するためのツールとオプションについて以下に説明します。

- [患者のナビゲーション](#) 『50ページ』
- [キーパッドの使用](#) 『51ページ』
- [パイメニューの使用](#) 『52ページ』
- [ReportFlow の使用](#) 『56ページ』
- [レビュー時の患者の読影状況とロック状況](#) 『57ページ』
- [画像のパン](#) 『57ページ』
- [画像ハンギング](#) 『58ページ』
- [一時的1 画像タイリングモード](#) 『59ページ』
- [インテリジェント ローミング](#) 『59ページ』
- [スケーリングモード](#) 『62ページ』
- [ピクセルメーター](#) 『63ページ』
- [スタックおよびタイムポイントインジケータ](#) 『64ページ』
- [MammoNavigator](#) 『65ページ』
- [画像情報](#) 『67ページ』
- [患者情報オーバーレイ](#) 『68ページ』
- [MG Secondary Capture と MM ScreenCapture](#) 『70ページ』

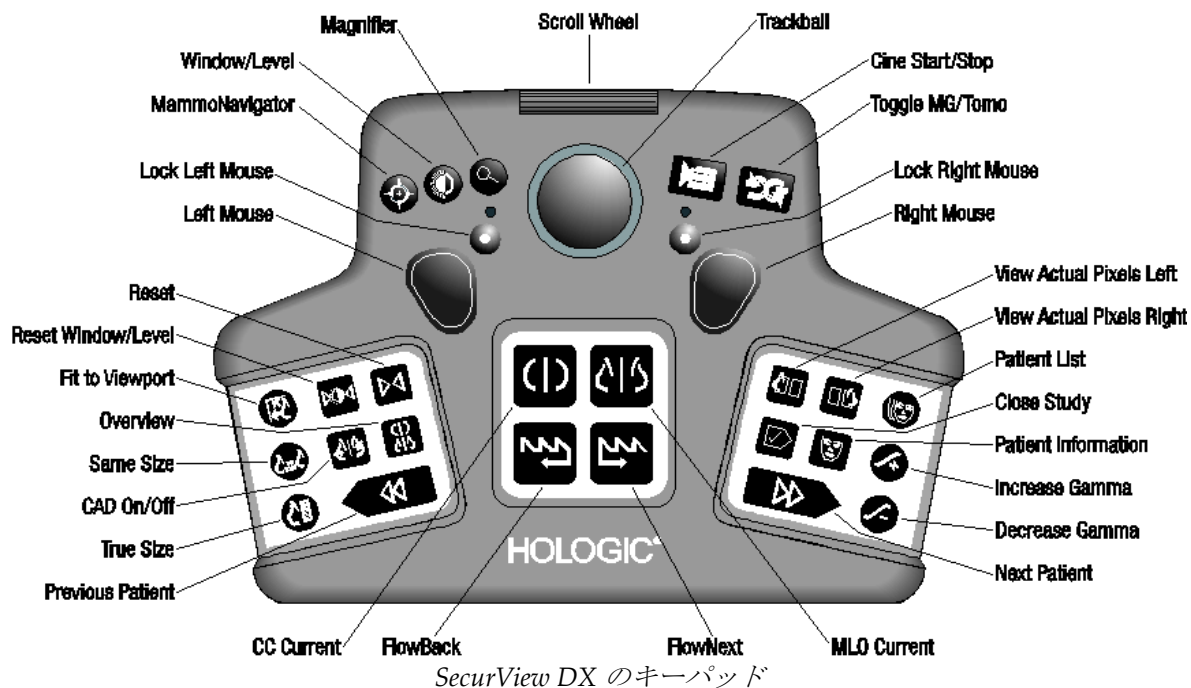
4.2.1 患者のナビゲーション

右側ディスプレイの下部にあるツールバーには、患者のナビゲーションを開始するためのツールがあります。

アイコン	目的
	Next Patient (次の患者) : ワークリスト内の次の患者を表示します。
	Previous Patient (前の患者) : ワークリスト内の前の患者を表示します。
	Patient List (患者リスト) : 患者リストを表示します。「 患者リストの使用 『31ページ』」を参照してください。
	Reset (リセット) : 現在の患者の画像に行った変更内容を元に戻し、患者データを開いたときの状態に画像をリセットします（注釈はそのまま変わりません）。
	Close Study (ケースを閉じる) : ケースを閉じます。ReportFlow 最後のステップを表示しているときに有効になります。詳細については、「 ケースを閉じる 『104ページ』」を参照してください。
	Help (ヘルプ) : SecurView ユーザーガイドを別のウィンドウで開きます。（システム管理者は、Administration (管理) タブの左下にある Help (ヘルプ) ボタンを使いユーザーガイドを表示することができます。）
	Exit (終了) : MG Viewer を閉じ、Administration (管理) モジュールを表示します。

4.2.2 キーパッドの使用

オプションのキーパッドを使い、ほとんどの表示オプションにすばやくアクセスできます。キーパッドのアイコンは、ツールバーのボタンに表示されている同様のアイコンに対応しています。各ツールの機能を以下に説明します。



キーパッドのトラブルシューティング (SecurView DX)

- キーパッドが入力に反応しない場合は、以下の手順を行ってください：
 - 管理者ユーザーグループのユーザーとして、SecurView にログインします (例 **admin**)。
 - キーパッドをコンピューターから取り外します。
 - Exit to Windows** (終了して Windows へ戻る) タブをクリックしてから **OK** で確定し、5 秒から 10 秒間待ちます。
 - キーパッドを再接続します。
 - SecurView** アイコンをダブルクリックし、SecurView にログインします。
 - キーパッドが機能するかどうかを確認します。
- キーパッドがまだ反応しない場合は、以下の手順を行ってください：
 - 任意のユーザーとして SecurView にログインします。
 - キーパッドをコンピューターから取り外します。
 - Shutdown** (シャットダウン) タブをクリックして、**OK** で確定します。
 - キーパッドを再接続します。

- e. コンピューターの電源を入れます。
- f. SecurView にログインして、キーパッドが機能するかどうかを確認します。

4.2.3 パイメニューの使用

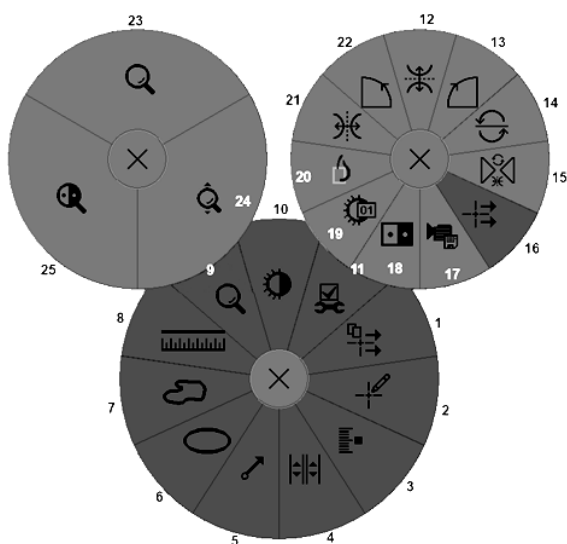
パイメニューを使い、画像の評価に追加のツールを使用できます。

パイメニューを使用するには：

- 画像を右クリックして、メニューからツールを選択します。
- パイメニューで **Image Tools** (画像ツール) または **Sizing Tools** (サイジングツール) をポイントすると、別のパイメニューが開きます。

凡例

1. すべての通知を送信
2. 注釈ユーザーフィルタ
3. Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける)
4. Link Tile (タイルのリンク)
5. Arrow (矢印)
6. Ellipse (楕円形)
7. Freehand (フリーハンド)
8. Measurement (測定)
9. サイジングツールメニュー
10. ウィンドウ/レベル
11. 画像ツールメニュー
12. 上下反転
13. 右へ 90° 回転
14. 180°回転
15. Reset Flip/Rotate (反転/回転のリセット)
16. Send Image Notice (画像通知の送信)
17. 動画のエクスポート
18. Invert Image (画像の反転表示)
19. Window/Level (numeric) (ウィンドウ/レベル (数値))
20. 実際のピクセルの表示
21. 左右反転
22. 左へ 90°回転
23. 拡大鏡
24. 連続ズーム/連続ズームのリセット*
25. 反転拡大鏡



*注意：連続ズームは交互に切り替わります。クリックすると連続ズームが有効になります。連続ズームが有効な場合は、アイコンが連続ズームのリセットに切り替わります。





パイメニューのツールの幾つかは、MG Viewer のツールバーとキーパッドにもあります。下表に各ツールの説明をまとめてあります。

アイコン	説明
	Magnifier (拡大鏡) - 選択した画像部分を拡大します。「 拡大鏡と反転拡大鏡 『73ページ』」を参照してください。
	Continuous Zoom (連続ズーム) - 焦点の周囲の画像をサイズ変更します。「 連続ズーム 『76ページ』」を参照してください。
	Continuous Zoom Reset (連続ズームのリセット) - ズームした画像を元の状態にリセットします。
	Inverted Magnifier (反転拡大鏡) - 拡大部分を反転表示します。
	Invert Image (画像の反転) - 画像を反転表示します。
	Window/Level (ウィンドウ/レベル) - 任意の画像の輝度とコントラストを調整します。「 ウィンドウ/レベルとガンマの調整 『78ページ』」を参照してください。
	Window/Level (numeric) (ウィンドウ/レベル (数値)) - 数値を入力して任意の画像の輝度とコントラストを正確に調整します。
	View Actual Pixels (実際のピクセルの表示) - 単一タイリングモードで表示されている画像の場合、元の画像データの1ピクセルを、ビューポートで1ピクセルとして表示します。「 スケーリングモード 『62ページ』」を参照してください。
	Ellipse (楕円形) - 楕円形のマーキングを描画します。「 画像のマーキング 『92ページ』」を参照してください。
	Freehand (フリーハンド) - フリーハンドのマーキングを描画します。
	Arrow (矢印) - 矢印のマーキングを描画します。
	Measurement (測定) - 測定された長さの線を描画します。
	Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) - 現在表示されている画像の注釈を表示します。「 注釈の表示 『99ページ』」を参照してください。
	Send All Notices (すべての通知の送信) - すべての画像の通知を1つまたは複数のDICOM装置へ送ります。「 通知の送信と表示 『100ページ』」を参照してください。
	Send Image Notice (画像通知の送信) - 現在選択されている画像の通知を送ります。

アイコン	説明
	Link Tile (タイルのリンク) - 画像のタイルをリンクして、再構成したスライスの同時スクロールを行えるようにします。「 リンクされたタイルのスクロール 『123ページ』」を参照してください。
	Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける) - 印刷またはエクスポートする Tomosynthesis スライスにタグを付けます。「 Tomosynthesis 再構成スライスのタギング 『129ページ』」を参照してください。
	Export Movie (動画のエクスポート) - 再構成した Tomosynthesis スライスまたは Tomosynthesis 投影画像のスクロール動画をエクスポートします。「 動画のエクスポート 『124ページ』」を参照してください。
	Image Tools Menu (画像ツールメニュー) - 画像ツールメニューを開きます。
	Rotate 90° Clockwise (右へ 90°回転) - 画像を時計回りに回転させます。
	Rotate 90° Counterclockwise (左へ 90°回転) - 画像を反時計回りに回転させます。
	Rotate 180° (180°回転) - 画像を 180°回転させます。
	Flip Up/Down (上下を反転) - 画像を水平軸を中心に反転させます (Tomosynthesis の場合は、画像のスタックを反転させます)。
	Flip Left/Right (左右を反転) - 画像を垂直軸を中心に反転させます (Tomosynthesis の場合は、画像のスタックを反転させます)。
	Reset Flip/Rotate (反転/回転のリセット) - 反転または回転させた画像を最初の方向にリセットします。

4.2.4 ReportFlow の使用

患者データを開くと、SecurView により自動的に ReportFlow (一連の画像ハンギング) が選択されます。所定の患者に初期表示される ReportFlow は、ユーザー設定によって異なります (「[ReportFlow のユーザー設定](#) 『162ページ』」を参照してください)。左下にあるツールバーに、ReportFlow の名称が表示されます。

患者 ID →	# Patient 214			FlowBack &
ReportFlow →	3/17 SCR DIAG MLO CC P-C O-N, System			FlowNext

- ReportFlow を 1 ステップずつナビゲートするには、ツールバーの **FlowNext** (フローを次へ) または **FlowBack** (フローを戻る) をクリックするか、キーパッドの **FlowNext** (フローを次へ) または **FlowBack** (フローを戻る) を押します。
- ツールバーまたはキーパッドから、事前に定義された別のハンギングを選択することもできます。SecurView では、現在の ReportFlow ステップが記憶され、**FlowNext** (フローを次へ) を再びクリックすると、次の ReportFlow ステップへ進みます。
- 上図に示されているように、使用可能なすべての ReportFlow が表示されるポップアップリストから、いつでも別の ReportFlow を選択することができます。

ReportFlow に関する詳細は、「[ハンギングスナップショットと ReportFlows](#) 『145ページ』」を参照してください。

4.2.5 レビュー時の患者の読影状況とロック状況

上図と以降の図に例示されているように、患者のレビュー時に、患者名の前に記号が付けられて患者の読影状況が示されます。

記号	読影状況
Smith, Jane	「Not Read (未読影)」または「Changed (変更あり)」 (記号は表示されません)
# Jones, Alice	「Read (読影済み)」、「Read Once (1次読影済み)」読影者現在のユーザー、「Old (既存)」
* Kumar, Revati	「Consultation Required (診察が必要)」、「Additional Images Required (追加画像が必要)」、または「Pending (保留)」または「Locked (ロック)」としてロックされています。後者の場合、被検者は別のワークステーションで読影中です。
++ Brown, Kelly	「Additional Images Arrived (追加画像到着)」としてロックされています
@ Wong, Brenda	「Notice Arrived (通知到着)」

読影状況に関する詳細は、「[読影状況](#) 『35ページ』」を参照してください。

放射線専門医は、Close Study (ケースを閉じる) ダイアログから患者をロックすることができます (「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照)。放射線専門医が被検者をロックすると、SecurView では他のユーザーがケースを閉じたり読影状況を「Read (読影済み)」にしたりできなくなります。他のユーザーは注釈の作成と送信は行えますが、Close Study (ケースを閉じる) ダイアログへアクセスすることはできません。ただし、他のユーザーはショートカットメニューを使い患者のロックを解除することができます (「[ショートカットメニューの使用](#)」を参照)。

ロック状況は読影状況から独立しています。ロックされている患者を別のユーザーがレビューする際に、表示の枠外の上隅にロック状況が表示されます。

4.2.6 画像のパン

画像を表示しているときにいつでも、タイル内で画像を移動することができます。画像を右クリックして、タイル内の別の位置までドラッグします。

4.2.7 画像ハンギング

レビュー時にいつでも、事前に定義されているハンギングを左側のツールバーから選択することができます。

事前に定義された画像ハンギングを選択するには：

- **Overview** (オーバービュー) をクリックすると、標準スクリーニング患者の画像 8 枚がすべて表示されます (現在の画像 4 枚、以前の画像 4 枚)。Overview (オーバービュー) ボタンに割り当てる画像ハンギングは、ユーザー設定でカスタマイズできます (「[ReportFlow のユーザー設定](#) 『162ページ』」を参照)。
- **MLO CC** を 1 回クリックすると、現在の MLO および CC 画像がダブルタイリングモード (左側ディスプレイに MLO 画像 2 枚、右側ディスプレイに CC 画像 2 枚) で表示されます。
- **MLO CC** を再びクリックすると、以前の画像が上記と同様に表示されます。

下表に、上記以外の事前定義ハンギングの説明を示します。

アイコン	意味	アイコン	意味
	現在の CC		LCC (以前・現在)
	現在の MLO		LMLO (以前・現在)
	RCC (以前・現在)		RMLO RCC (現在)
	RMLO (以前・現在)		LMLO LCC (現在)

ボタンを 2 回以上クリックすると、以下の操作が実行されます。

- ビューポートは、同じ側性とビューを持つ利用可能な以前の画像を、新しい順に表示します。
- 以前の検査に表示された側性を持つ画像は含まれないが、同じビューを持つ画像が含まれる場合は、ビューポートは空白になります。
- 以前の検査に表示されたビューを持つ画像 (側性はどちらでも) が含まれない場合は、以前の検査は省略されます。






事前定義ハンギングのアイコンの外観は、ユーザー設定によって異なります（「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)『135ページ』」を参照）。上図の例では、右側乳房を左側、以前の画像を左側、MLO を左側、CC を右側に表示し、胸壁を現在と以前の画像で同じ方向で表示するよう、SecurView が構成されています。以前の画像のアイコンは薄い灰色で示されます。



左図の例には、ユーザー設定で胸壁の方向が背中合わせに指定されている場合に、2つの事前定義ハンギング アイコンがどのように表示されるかが示されています。この場合、現在の画像は左側、以前の画像は右側に表示されています。アイコンには「L」または「R」の文字が埋め込まれており、左右の乳房が識別されます。

4.2.8 一時的 1 画像タイリングモード

4 画像または 2 画像タイリングモードの画像をダブルクリックすると、一時的 1 画像タイリングモードに切り替わります。画像を再びダブルクリックすると、以前のタイリングに戻ります。一時的 1 画像タイリングモードがアクティブのときは、画像オーバーレイにこのアイコン  で示されます。

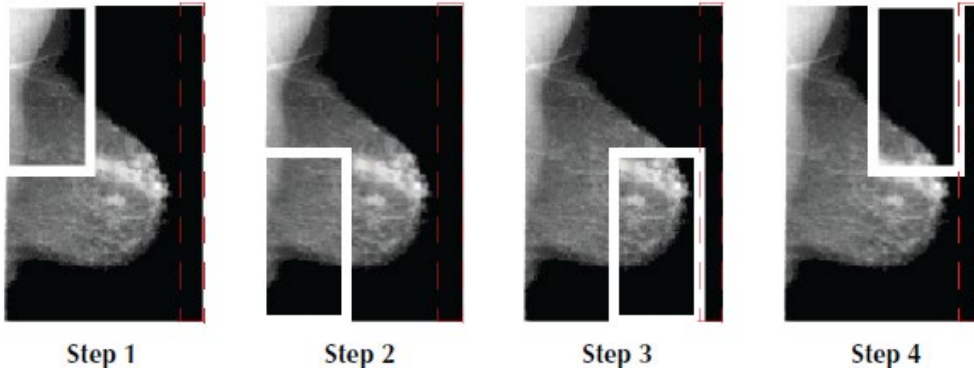
スタックで表示される画像は、一時的 1 画像タイリングモードの前またはその間に適用されるすべての反転および回転の動作と同様、一時的 1 画像タイリングモードに入ったり出たりする際に維持されます。一時的 1 画像タイリングモードに入るとパンはリセットされ、一時的 1 画像タイリングモードを去ると以前のパン状態が復元されます。

一時的 1 画像タイリングモード は、以下の場合に自動的に非アクティブ化されます:

- 事前定義されたハンギングオプションをアクティブ化したとき
- MammoNavigator™を使ってタイリングレイアウトを変更したとき
- 一時的 1 画像タイリングモードのタイルに画像をドラッグしたとき。この場合、タイルは 1 画像タイリングモードに変更されます。

4.2.9 インテリジェント ローミング

インテリジェント ローミング機能を使い、View Actual Pixels（実際のピクセルの表示）モードで表示されている画像を、事前に定義された順番で 1 ステップずつパンします。SecurView によって画像がセグメント化され、黒色の境界部分は無視して乳房と安全縁だけが表示されます。



SecurView は、乳房は大きさによって、2つまたは4つのゾーンに分割されます。インテリジェント ローミングは、画像の上隅から開始され、側性によって、時計回りまたは反時計回り方向に1ステップずつ移動します。

画像をシングルタイリングモードで表示しているときに、右側のツールバーで **Intelligent Roaming** (インテリジェント ローミング) ボタンが有効になります。

画像を1ステップずつ移動するには：

画像をシングルタイリングモードで表示し、以下の操作を行います。次に以下を入力します。



- **Intelligent Roaming Forward** (順方向にインテリジェント ローミング) をクリックすると、順方向に1ステップ移動します。



- **Intelligent Roaming Backward** (逆方向にインテリジェントローミング) をクリックすると、逆方向に1ステップ移動します。

インテリジェント
ローミング

インテリジェントローミングを開始すると、表示が自動的に **View Actual Pixels** (実際のピクセルの表示) モードに切り替わります。

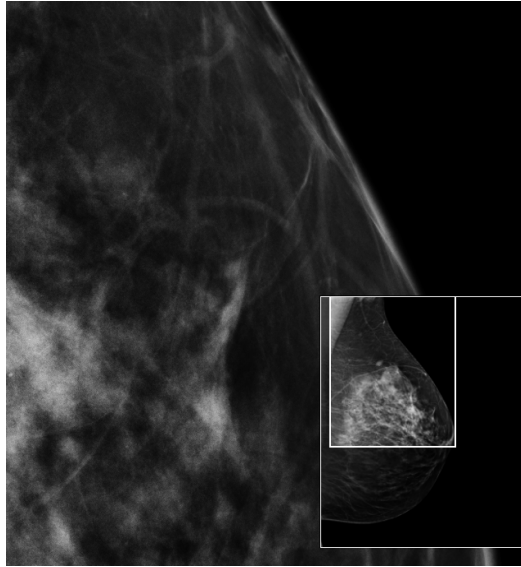
画像のサムネイルがインテリジェントローミング インジケータに表示されます。サムネイルインジケータ内の白色の枠で囲まれた部分は、インテリジェントローミングのステップ位置を示します。

デフォルトでは、1.5秒後インジケータが消えます。インジケータの表示の長さの調整については、「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照してください。



重要

画像の一部が見えない場合は、画像上で右クリックして、タイトル内の別の位置までドラッグします。インテリジェントローミング インジケータにその位置が表示されます。



インテリジェントローミングインジケータ

4.2.10 スケーリングモード



Image Scaling (画像スケーリング)

画像スケーリングオプションを使い、表示されている画像の解像度を変更できます。Image Scaling (画像スケーリング) アイコンをクリックすると、スケーリングオプションがポップアップメニューに表示されます。下表に、各アイコンの動作に関する説明を示します。

アイコン	目的 / キーボードのショートカット
	<p>Fit to Viewport (ビューポートに合わせる) - ビューポート全体に合わせて画像のサイズを変更します。画像の幅と高さの寸法がビューポートのそれよりも小さい場合、最小許容拡大率 (デフォルト = 1.5) により動作が決まります。この率を上回ると、画像はビューポート一杯に拡大して表示されます。これが行われない場合、画像はそのままの解像度で表示されます。サービスエンジニアは、必要に応じて最小許容拡大率を変更することができます。</p>
	<p>Right Size (適正サイズ) - 患者に使用可能な乳房輪郭がある画像のうち最も大きな画像の乳房輪郭に基づき、各モニタに同じ解像度で画像を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Y] を押して、Right Size と Same Size を切り替えます。
	<p>Same Size (同じサイズ) - 患者に使用可能な画像のうち最も大きな画像の撮像部分全体に基づき、各モニタに同じ解像度で画像を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Y] を押して、Right Size と Same Size を切り替えます。
	<p>True Size (実寸) - 乳房組織が物理的実寸となるようすべての画像を表示します (1 cm の乳房組織を画面上でも 1 cm で表示)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [X] を押して、画像を実寸で表示します。
	<p>View Actual Pixels (実際のピクセル表示) - 元の画像の 1 ピクセルを、ビューポート内でも 1 ピクセルとして表示します (両方のディスプレイが 1 画像タイリングモードのときに使用できます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [D] または [7] を押して、左側のディスプレイの画像を実際のピクセルで表示します。以前のスケーリングモードに戻るには、キーを再び押します。 • [F] または [9] を押して、右側のディスプレイの画像を実際のピクセルで表示します。以前のスケーリングモードに戻るには、キーを再び押します。
	<p>注記 画像の一部が見えない場合は、画像上で右クリックして、タイル内の別の位置までドラッグします。</p>



選択したスケーリングモード以外の画像を SecurView で表示すると、表示されている画像の隣に「X」マークの付いたアイコンが表示されます(左図の例を参照してください)。例えば、右側のモニタに View Actual Pixels 以外のスケーリングモードで 4 枚の画像を表示しているときに、左側のモニタに View Actual Pixels モードで画像を表示すると、アイコンが表示されます。



注記

Double Tiling (2 画像タイリング) でより適切な画像表示を行うには、ユーザー設定 **Double Tiling (2 画像タイリング) での画像サイズの調整** を調整します。この設定によっては、上記ルールに記載されているように、画像がビューポートに合わない場合があります。ユーザー設定の詳細については、「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』」を参照してください。

フル解像度での診断画像を表示

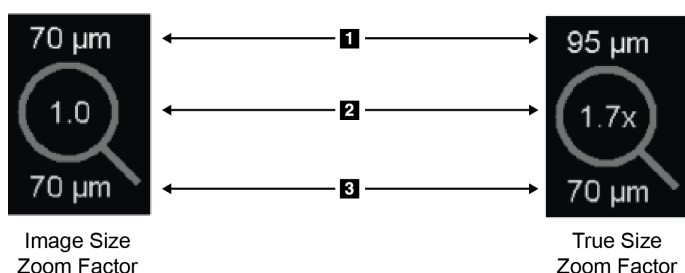
FFDM 画像を読影する際には、ACR ガイドラインを厳守してください。診断情報を最適に表示するため、画像を 1 枚ずつ View Actual Pixels (実際のピクセルの表示) スケーリングモードで確認してください。

SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して 1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。

- ズーム倍率についての詳細は、次ページの「[ピクセルメーター](#) 『63ページ』」を参照してください。
- ReportFlow を作成するときのデフォルトのスケーリングモードとして View Actual Pixels (実際のピクセル表示) を設定する方法については、「[新しい ReportFlow の作成](#) 『160ページ』」を参照してください。

4.2.11 ピクセルメーター

ピクセルメーターには、各画像のサイズに関する情報が表示されます。



ピクセルメーター

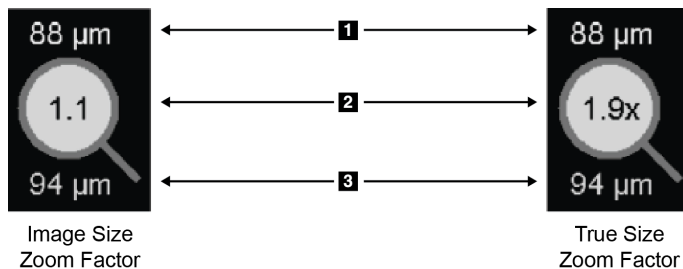
図の凡例

1. 表示解像度
2. 倍率
3. 元の解像度

ユーザー設定でズーム倍率を選択することができます(「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照)。

- **Image Size (画像サイズ)** ズーム倍率は、元の画像のピクセルサイズを規準に拡大します。上記の例では、Image Size ズーム倍率「1.0」に設定されています。つまり、画像は View Actual Pixels モードで表示されます。
- **True Size (実寸)** ズーム倍率は、画像の物理的な実寸を規準に拡大します。上記の例では「1.7x」と表示されています。

SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して 1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。このような場合には、ピクセルメーターの内側の背景が白色になります（下図を参照）。



図の凡例

1. 表示解像度
2. 倍率
3. 元の解像度

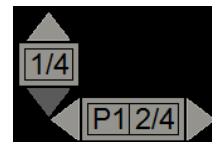
ピクセル値の補間処理を示す白色の背景のピクセルメーター

4.2.12 スタックおよびタイムポイントインジケータ

画像タイルセットに 2 枚以上の画像が含まれている場合、対応するタイルにスタックインジケータが表示されます。ユーザー設定によって、1 つまたは 2 つのインジケータが表示されます（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照）。



スタックインジケータ



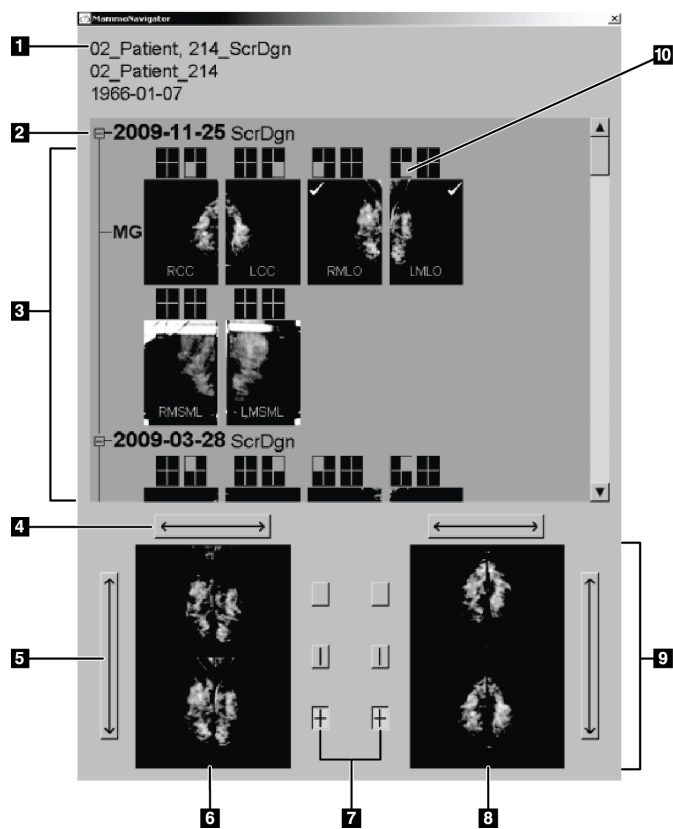
スタックおよびタイムポイントインジケータ

- 上（または下）矢印をクリックすると、スタック内の次の（または前の）画像へ移動します。
- 右（または左）矢印をクリックすると、次の（または前の）時間ポイントへ移動します。

また、インジケータまたは画像をポイントし、マウスホイールまたはキーパッドのスクロールホイールを回して、画像から画像へ移動することができます。必要な場合は、スタックインジケータをクリック & ドラッグして別の表示位置に移動させます。

4.2.13 MammoNavigator

MammoNavigator を使い、現在の患者のすべての画像とケースにすばやくアクセスできます。



図の凡例

1. 現在の患者
2. 使用可能なケース
3. ケース概要表示領域（最新のもの
が先頭）
4. 左右の画像を入れ替える
5. 上下の画像を入れ替える
6. 左側ディスプレイ
7. 1枚、2枚、4枚並べて表示するた
めのボタン
8. 右側ディスプレイ
9. 現在表示されている画像
10. 位置インジケータ

MammoNavigator を開くには :



MammoNavigator

- 右側のツールバーの **MammoNavigator** をクリックします。再びクリックすると、ウィンドウが閉じます。

ReportFlow の機能ステップに **Open** (または **Close**) **Navigator** (ナビゲータを開く (または閉じる)) を追加すると、**MammoNavigator** を自動的に開く (または閉じる) よう **ReportFlows** をカスタマイズできます。

MammoNavigator の下部には、現在表示されている画像のサムネイルが表示されます。上部には、ケースの日付と手順説明を含む、現在の患者のすべてのケース画像の概要が表示されます。また、各画像の側性、ビューコード、変更子も表示されます。対応する画像をシングルタイリングモードで表示すると、サムネイルにチェックマークが付きます。

- 画像全体を見るには、画像を上から下へドラッグします。
- 表示タイリング (1 画像表示、2 画像表示等) を変更するには、**タイリング ボタン** をクリックします。



注記

SecurView バージョン 8.2 以降、ダブルタイリング画像は選択されたサイズ決めモード (**Fit to Viewport** (ビューポートに合わせる)、**Right Size** (適正サイズ)、**Same Size** (同じサイズ)、**True Size** (実サイズ)) に従ってサイズ決めされます。オリジナルの画像サイズおよび選択されたモードに応じて、画像が以前のバージョンよりも低い解像度で表示されることがあります。



注記

SecurView バージョン 8.4 以降、**Double Tiling** (2 画像タイリング) で表示される画像を拡大縮小するために使用されるビューポートのサイズが設定可能になりました。「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』」を参照してください。ユーザー設定、元の画像サイズおよび選択したスケールリングモードによっては、画像がビューポートに合わない場合があります。

- 画像の左右の表示位置を入れ替えるには、水平矢印をクリックします (2 画像表示、4 画像表示の場合)。
- 画像の上下の表示位置を入れ替えるには、垂直矢印をクリックします (4 画像表示のみ)。
- 画面から画像を削除するには、画像の下部をダブルクリックします。

トモシンセシスサムネイルには、従来の 2D マンモグラフィおよび **CE2D** (造影 2D マンモグラフィ) 低エネルギー画像を表す「M」、合成 2D 画像を表す「C」、トモシンセシス再構成スライスを表す「T」、トモシンセシス投影画像を表す「P」、および **CE2D** サブトラクション画像を表す「S」がラベル表示されます。

サムネイルの表示順序はサービスエンジニアが構成することができます。

4.2.14 画像情報

画像に関する詳細な DICOM 情報を表示するには、MammoNavigator を開き、Study Overview（ケース概要）領域に表示されている目的の画像サムネイルを右クリックします。下図に、画像情報の表示例を示します。

Image information	
Name	Value
Modality	MG
Laterality	Left
View Position	LMLO
Institution	HOLOGIC, Inc.
Institution Address	35 Crosby Drive, Bedford, MA 01730
Referring Physician	NWH_913874
Acquisition Date	2009-11-25
Acquisition Time	09:53
Body Part	BREAST
Compression Thick	42.0 mm
kVp	27
Half Value Layer	0.324 mm
Exposure	164 mAs
Exposure Time	1643 ms
AGD	0.00 mGy
ESD	0 mGy
Exposure Index	460
Anode Material	MOLYBDENUM
Filter Material	MOLYBDENUM
Compression Force	125 N
C-Arm Angle	45
Focal Spot	0.3 mm
Grid	HTC_IN
Paddle	18cm x 24cm fast
Exposure Control Mode	AUTO_FILTER
Exposure Control Mode Description	LORAD AUTO AEC
Manufacturer	HOLOGIC, Inc.
Unit	Selenia
Device Serial Number	H1KRHR835b72e2
Model Name	Lorad Selenia
Detector ID	MP1570
UID	1.2.840.113681.2203808482.774.3335080556.154.1
Presentation Intent	FOR PRESENTATION
Software Versions	AWS:3_1_6_0 (AWS 3_1_5_2), PXCM:1.2.9.0, ARR:1.4.2.6, IP:4.5
Last Detector Calibration	2006-08-30
Gantry	n/a
Close	

ウィンドウに表示する情報は、管理者が構成することができます。「[MammoNavigator オーバーレイ](#) 『191ページ』」を参照してください。



注記

MammoNavigator オーバーレイの中で使用することができない DICOM 情報を閲覧するには、画像の上にマウスのカーソルを配置して、[H]をクリックしてください。

4.2.15 患者情報オーバーレイ

患者および画像情報はオーバーレイとして表示され、表示と非表示を切り替えることができます。

患者情報オーバーレイを表示するには：



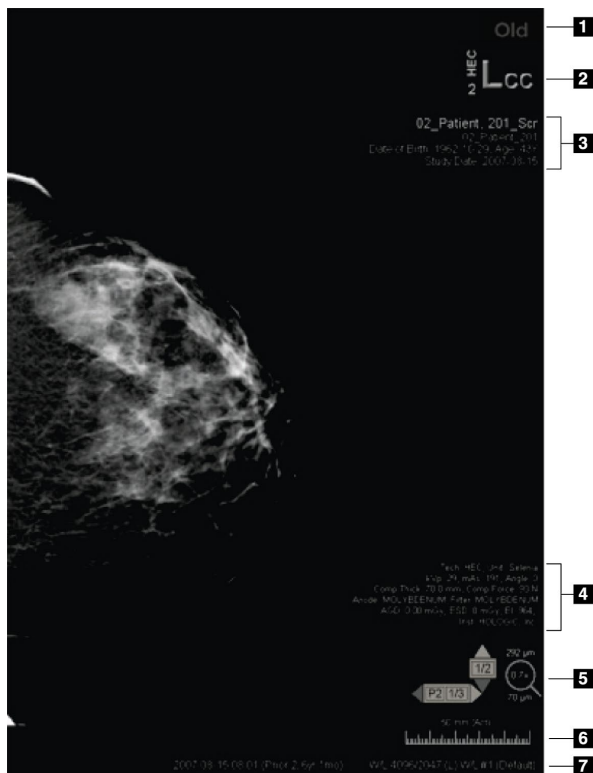
患者情報

- 右側のツールバーの Patient Information（患者情報）をクリックして、患者情報オーバーレイを「縮小モード」で開きます。
- 再びクリックすると、患者情報オーバーレイが「拡張モード」で開きます。
- 再びクリックすると、オーバーレイが閉じます。
- Patient Information（患者情報）をクリックして2秒間押したままにすると、画面からオーバーレイ情報が「すべて消去」されます（ただし、ケース状態とスタックインジケータ以外）。



注記

キーパッドを使用している場合、Clear All（すべてクリア）機能は現行のキーパッド（スクロールホイール付きのもの）でのみ使用できます。



図の凡例

1. 状態インジケータ（Old、Read、Pending など）
2. デジタルマーカ、術者および現在/以前 ID（1 = 以前のケース、2 = さらに以前のケース等）
3. 患者情報（上部）と患者データ
4. 患者情報（下部）と DICOM データ
5. スタックインジケータとピクセルメーター
6. ルーラー
7. 説明

表示される画面要素は、ユーザー設定によっても異なります（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)」『136ページ』）を参照）。また、上部および下部の患者情報オーバーレイ

イに表示される情報は、管理者がカスタマイズできます（「[MG Viewer 画像オーバーレイ](#)『190ページ』」を参照）。

Hologic のサービスエンジニアは、現在の画像と以前の画像をよりはっきりと区別するため、ケースの日付、デジタルマーカ、スタックインジケータのハイライトをカラーまたはグレースケールに設定できます。ハイライトが有効化されている場合、デフォルトでケースの日付にのみ適用されるよう設定されています。

有効化すると、現在の画像と以前の画像のハイライトを、キーボードのショートカット [CTRL+t] でオンとオフに切り替えることができます。ハイライトをオフにした場合でも、システムを再起動するとデフォルトでオンになります。



重要

患者情報オーバーレイが画像データを隠す場合は、Patient Information（患者情報）をクリックしてオーバーレイをオフにします。



注記

サービスエンジニアは、患者のための現在のケースを使用することができないときに警告メッセージを表示するようにシステムを設定することができます。

4.2.16 MG Secondary Capture と MM ScreenCapture



MG Secondary
Capture

「Destinations for an MG Secondary Capture (Annotations and Tagged Tomo Slices)」 (MG Secondary Capture の送信先 (注釈とタグ付き Tomo スライス)) が設定されている場合は、ケースを閉じるときに MG Secondary Capture 画像を作成することができます (詳しくは、*SecurView DX/RT Workstation Installation & Service Manual* を参照してください)。MG Secondary Capture 画像は、送信先 PACS が GSPS に対応していない場合や、PACS で GSPS を表示できない場合に PACS ワークステーションで注釈を見たいときなどに必要となります。SecurView で DICOM 送信元から MG Secondary Capture 画像を読み込むと、受信した画像を識別するアイコン (左図を参照) が表示されます。



MM ScreenCapture

同様に、「Destinations for an MM ScreenCapture (MM ScreenCapture の送信先)」が設定されている場合、ケースを閉じるときに MM ScreenCapture 画像を作成することができます (詳しくは、*SecurView DX/RT Workstation Installation & Service Manual* を参照してください)。SecurView で DICOM 送信元から MM ScreenCapture 画像を読み込むと、受信した画像を識別するアイコン (左図を参照) が表示されます。

詳細については、「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください。

4.3 画像詳細の視覚化

本項では、拡大倍率や輝度／コントラストの調整を含む、画像の詳細を視覚化するためのツールについて説明します。

- [拡大鏡と反転拡大鏡](#) 『73ページ』
- [AIE と拡大鏡ツールバー](#) 『75ページ』
- [連続ズーム](#) 『76ページ』
- [ウィンドウ／レベルとガンマの調整](#) 『78ページ』
- [VOI LUT の適用](#) 『81ページ』
- [MPE 画像](#) 『82ページ』
- [DICOM 6000 オーバーレイ](#) 『83ページ』
- [CLAHE 画像処理](#) 『84ページ』

右側のツールバーには、画像評価ツールがあります。



下表に、各ツールの目的を示します。

アイコン	目的
	Window/Level (ウィンドウ/レベル) : 画像の輝度またはコントラストを調整します。
	Increase / Decrease Gamma Factor (ガンマファクタの増減) : 現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整します。
	
	Reset Window/Level & Gamma (ウィンドウ/レベルとガンマのリセット) : ウィンドウ/レベルおよびガンマ設定に行った変更を初期値にリセットします。
	VOI LUT : 別の VOI LUT を適用します (例: ウィンドウ/レベル設定)。
	Reset (リセット) : 現在の患者の画像に行った変更内容を元に戻し、患者データを開いたときの状態に画像をリセットします (注釈はそのまま変わりません)。
	Magnifier (拡大鏡) : 選択した画像部分を拡大表示します。
	Inverted Magnifier (反転拡大鏡) : 拡大部分を反転表示します。
	Continuous Zoom (連続ズーム) : 連続ズームを有効にします。
	Reset Continuous Zoom (連続ズームのリセット) : ズームしたすべての画像を元の状態にリセットします。

パイメニューには、追加の画像視覚化ツールがあります (「[パイメニューの使用](#)」『52ページ』) を参照)。

4.3.1 拡大鏡と反転拡大鏡

拡大鏡を使い、表示されている画像の一部を2倍に拡大表示できます。(トモシンセシスデータの場合、拡大鏡にはピクセルの複製が使用されます。) 拡大部分の内側には、mm単位のスケールマークが表示されます。

画像部分を拡大するには：



拡大鏡

- **Magnifier (拡大鏡)** をクリックします。ポインタが拡大鏡アイコンに変わります。拡大したい部分にポインタを重ねてクリックします。マウスボタンを押したまま、画像上でポインタを動かすと、拡大部分が動的に更新されます。マウスボタンを放します。拡大部分は現在の位置のままとなります。
- 別の画像にポインタを重ねてクリックして、新しい拡大鏡を画像に配置します。

拡大部分を反転表示するには：



反転拡大鏡

- **Inverted Magnifier (反転拡大鏡)** をクリックします。ポインタが反転拡大鏡アイコンに変わります。反転表示したい部分にポインタを重ねてクリックします。拡大鏡の場合と同様、ポインタを動かして反転表示部分を動的に更新することができます。

画像全体を反転表示するには：

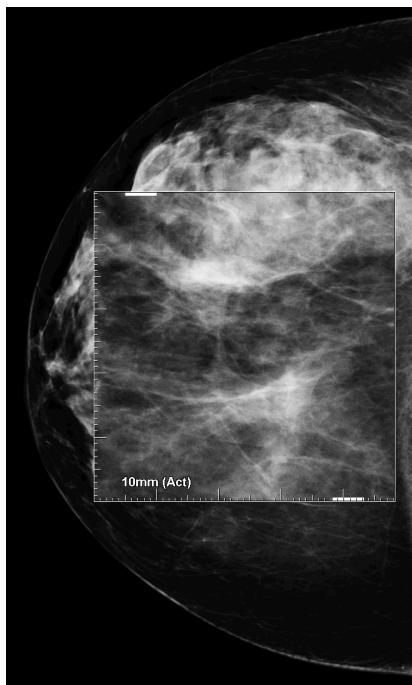


Invert Image (画像の反転表示)

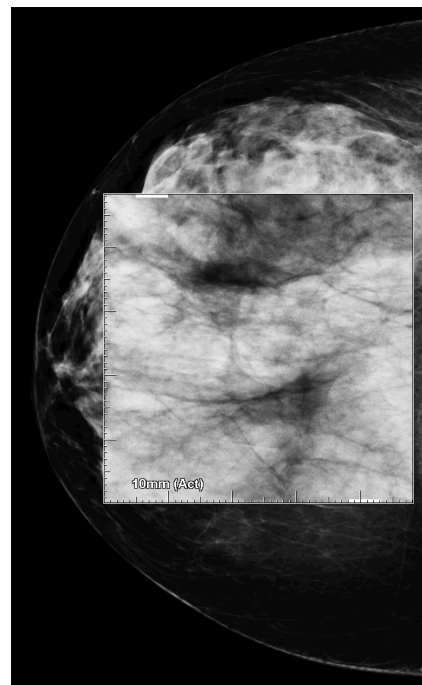
- 画像を右クリックしてパイメニューを開き、**Image Tools (画像ツール)** をポイントしてパイメニューを開きます。次に、**Invert Image (画像を反転)** をクリックします。

表示されている画像をすべて反転表示するには：

- キーボードの[Q]を押します。



拡大鏡



反転拡大鏡

拡大鏡を閉じるには：






- 拡大部分をダブルクリックします（ダブルクリックで1つの拡大鏡を閉じるか、すべての拡大鏡を閉じるか、サービスエンジニアが構成できます）、または
- 画像のタイリングを変更します（または、次のReportFlowステップへ進みます）。

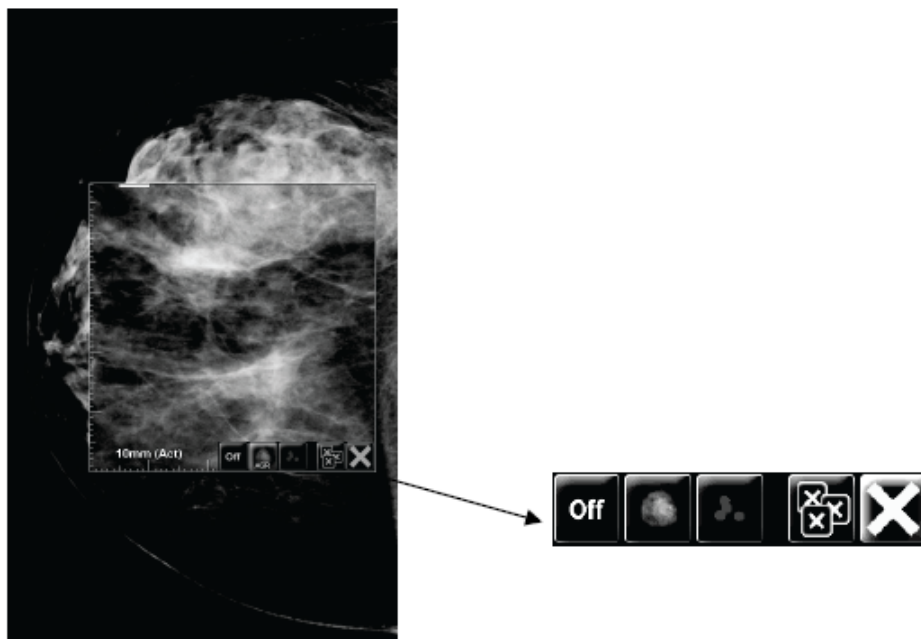
拡大鏡または反転拡大鏡は、MG Viewerを開いたときに初期表示されるツールに指定できます（ユーザー設定）。また、スケールマークの表示と非表示を切り替えることができます。「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)『136ページ』」を参照してください。

4.3.2 AIE と拡大鏡ツールバー

AIE (Advanced Image Enhancement) フィルタリングを使い、腫瘍または石灰化の視覚化を容易にすることができます。AIE 機能は、ご使用のワークステーションで専用ライセンスが取得されており、サービスエンジニアが AIE 機能を構成している場合のみ表示されます。

ポインタを拡大部分の上部または下部に配置して、AIE ツールバーを開きます。下表に、各 AIE ツールの機能について説明します。

アイコン	目的
	AIE On/Off (AIE オン/オフ) – AIE フィルタリングのオン/オフを切り替えます。
	AIE Masses (AIE 腫瘍) – AIE 腫瘍フィルタリングのオン/オフを切り替えます (「AGR」 = aggressive)。
	AIE Calcs (AIE 石灰化) – AIE 石灰化フィルタリングのオン/オフを切り替えます (「MDR」 = moderate)。
	Close All Magnifiers (すべての拡大鏡を閉じる) – 開いている拡大鏡をすべて閉じます。
	Close Magnifier (拡大鏡を閉じる) – 現在選択されている拡大鏡を閉じます。



Magnifier with AIE Tools

4.3.3 連続ズーム

連続ズームを使用すると、表示画像のズーム倍率を連続して増加または減少できます。連続ズームは最大（20倍）および最小（50%）の倍率範囲に制限されています。デフォルトの設定を変更したい場合は、Hologicテクニカルサポートまでご連絡ください。



注記

連続ズームは、ひとつのタイトル内の同じ側性とビューのすべての組み合わせ処置画像に自動的に適用されます。例えば、ある再構成スライスズームして別の再構成スライスにスクロールすると新しいスライスもズームされ、同じタイトル内の2Dまたは合成2D画像に切り替えると、それもズームされます。



注記

画像のズーム倍率を変更すると、注釈もサイズ変更されます。注釈がズームされた画像で作成され、ズーム倍率が変わると、注釈が非常に小さくなるか、放射線医師が見たい画像の部分を覆い隠す場合があります。そのため、注釈はズームした画像で作成しないでください。

連続ズームを有効にするには：



1. ツールバーで **Continuous Zoom (連続ズーム)** をクリックするか、キーボードで [F7] を押します。ポインタが連続ズームアイコンに変わります。
2. ポイントを画像の中心に移動し、マウスボタンを押したまま上または下にドラッグしてズーム倍率を変更します：
 - 上にドラッグ - ズーム倍率が増加します
 - 下にドラッグ - ズーム倍率が減少します

**注記**

ズームアウトして表示された元のサイズより小さくするには、初めに元の表示サイズまでズームアウトしてからマウスボタンを離します。続いてマウスボタンをクリックし、再びドラッグしてより小さな画像サイズを表示します。

3. 希望するサイズになったら、マウスボタンを離します。画像は新しいサイズで表示されたままになります。

**注記**

- 連続ズームモードを有効にすると、ツールバーボタンが連続ズームのリセットアイコンに変わります。
- 連続ズームが有効になっている間は、反転ツールおよび回転ツールは無効になります。
- CAD マーク輪郭のサイズのみが連続ズームに影響されます。RightOn CAD マークはズームされません。

連続ズームをリセットするには：



注記

変更をリセットするには、連続ズームが有効になっている必要があります。



連続ズームのリセット

1. すべてのタイル内の全画像を元の状態にリセットするには、ツールバーで **Reset Continuous Zoom (連続ズームのリセット)** をクリックするか、キーボードで [F7] を押します。



注記

Hologic のサービスエンジニアは連続ズームのリセットコマンドをキーボード/キーボードショートカットとして設定できます。

2. **Reset Continuous Zoom (連続ズームのリセット)** (タイル内に表示) をクリックすると、タイル内のイメージが元の状態にリセットされます。



注記

連続ズームを使用中に行われたすべてのパン操作がリセットされます。ズームを行う前のパン、反転、および回転は維持されます。

MG Viewer (ユーザー設定) を開くと、連続ズームをデフォルトツールとして設定することができます。「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照してください。

4.3.4 ウィンドウ/レベルとガンマの調整

2種類のツールを使い、画像の輝度とコントラストを調整します。

- ウィンドウ/レベルツールを使い、任意の画像の輝度とコントラストを調整します。ユーザー設定で、MG Viewer を開いたときにウィンドウ/レベルツールを初期表示させることができます（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照してください）。
- ガンマ増減ツールを使い、現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整します。

任意の画像の輝度とコントラストを調整するには：



ウィンドウ/レベル

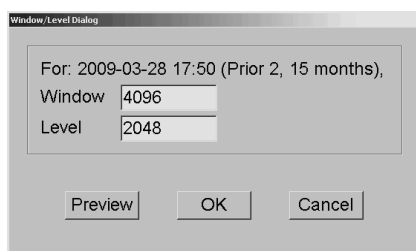
1. **Window/Level (ウィンドウ/レベル)** をクリックし、画像をポイントしてドラッグします。
 - 左または右にドラッグすると、ウィンドウ幅 (コントラスト) が変わります。左にドラッグするとコントラストが大きくなり、右にドラッグするとコントラストが小さくなります。
 - 上または下にドラッグすると、ウィンドウレベル (輝度) が変わります。上にドラッグすると画像が明るくなり、下にドラッグすると画像が暗くなります。
2. 画像を適切に調整できたら、マウスボタンを放します。画像が新しいウィンドウ/レベル値で表示されます。

数値を入力して輝度とコントラストを調整するには：



Window/Level
Numeric (ウィンドウ
レベル 数値)

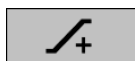
1. 画像を右クリックしてパイ メニューを開き、**Image Tools** (画像ツール) をポイントしてパイ メニューを開きます。次に、**Window/Level Numeric** (ウィンドウ/レベル (数値)) をクリックします。



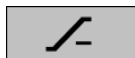
Window (ウィンドウ) フィールドと Level (レベル) フィールドに数値を入力します。

- **Preview** (プレビュー) をクリックして、設定を確かめます。
- 新しい設定が適切であれば、**OK** をクリックします。

現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整するには：



ガンマ増加



ガンマ減少

- 輝度とコントラストを1段階ずつ大きくするには、**Increase Gamma** (ガンマ増加) をクリックします。
- 輝度とコントラストを1段階ずつ小さくするには、**Decrease Gamma** (ガンマ減少) をクリックします。

ウィンドウ／レベルまたはガンマ設定を初期値にリセットするには：



ウィンドウ／レベルのリセット

- **Reset Window/Level** (ウィンドウ／レベルのリセット) をクリックします、または



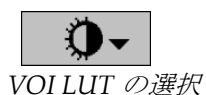
Reset (リセット)

- **Reset** (リセット) をクリックします、または
- 別の患者に切り替えます。

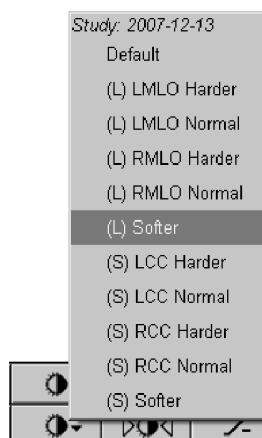
4.3.5 VOI LUT の適用

画像には1つまたは複数の関心値ルックアップテーブル (VOI LUT) が含まれている場合があります。VOI LUT は、事前に定義されたウィンドウ/レベル設定または非線形 LUT です。通常、単一シリーズの画像には同じ VOI LUT が含まれているのに対し、1つのケース内の複数のシリーズには異なる VOI LUT が含まれています。MG Viewer が開くと、SecurView によってデフォルトの VOI LUT が適用されます。また、埋め込まれている他の VOI LUT も使用することができます。デフォルトの VOI LUT は、サービスエンジニアが構成することができます。

デフォルトから別の VOI LUT へ変更するには：



1. **Select VOI LUT (VOI LUT の選択)** をクリックします。画像で使用可能な場合は、VOI LUT のリストが表示されます。



2. リストから LUT を選択して、新しい VOI LUT を適用します。

4.3.6 MPE 画像

Mammography Prior Enhancement™ (MPE) は、従来の二次元デジタルマンモグラフィ X 線画像を処理するソフトウェアモジュールです。MPE は、GE Senographe Full-Field Digital Mammography (FFDM) システムから発生する事前試験のスクリーニングビューで使用するために特に設計されています。ご使用のワークステーションで専用ライセンスが取得されており、サービスエンジニアが構成している場合のみ MPE 画像が表示されます。

MPE モジュールの入力には、画像ピクセル データ、画像情報、画像処理パラメータが含まれています。モジュールは、対数変換、スキライン補正、コントラストの改善により画像の外観を向上させる手順から成るイメージ処理を行ないます。これらは、最小のウィンドウ/レベル調整 操作でマンモグラフィ 画像の最適な表示と調査を行うのに使用される標準の方法です。

用途

Mammography Prior Enhancement は、従来の非 Hologic デジタルマンモグラフィ X 線画像の外観を向上させて、Hologic デジタルマンモグラフィ X 線画像に近づけるためのソフトウェア モジュールです。MPE 加工画像は、あくまでも比較のために使用してください。一次診断に使用することはできません。

MPE は Windows 対応コンピュータで実行します。結果は、マンモグラフィ X 線画像を表示できるワークステーションに表示することができます(例えば、Hologic の SecurView DX ワークステーション)。

MPE 画像の表示

MPE 加工画像を現在のデジタル マンモグラフィ画像と比較する場合、放射線技師は それらを表示します。SecurView DX ワークステーションは自動的に MPE 処理を、MPE 条件に一致するすべての画像に適用し、以前と現在の比較の定義に応じて標準のハンギングプロトコルを使用して画像を表示します。



重要

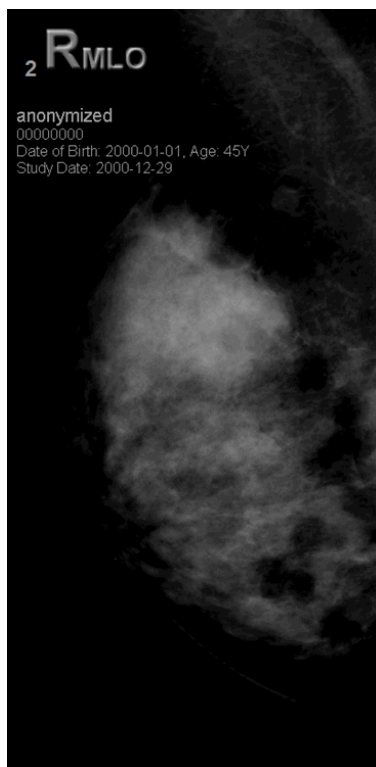
MPE 加工画像だけから臨床決定や診断を行わないでください。常に MPE 加工が適用されていない現在のケース画像での解釈を基本に置いてください。



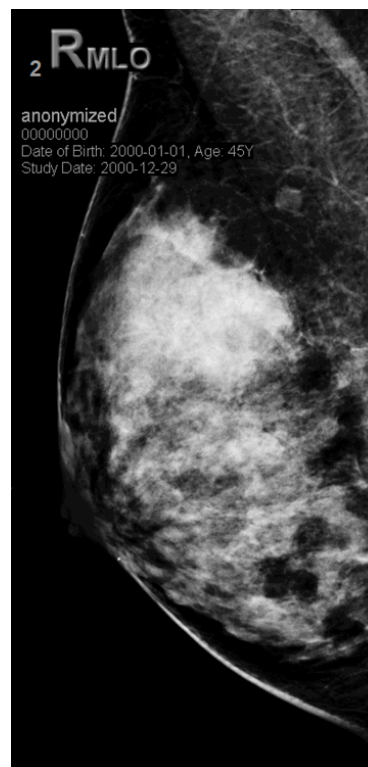
注記

まれな場合では、一部の MPE 加工画像の最初のプレゼンテーションは最適ではない場合があります。手動のウィンドウ/レベル調整を使用して、これら画像の外観を向上させます。

以下は、画像を SecurView DX ワークステーションから取得した画像です。左の画像は MPE 加工前の例題画像です。右側は MPE 加工後の例題画像です。



MPE 加工なし



MPE 加工あり

4.3.7 DICOM 6000 オーバーレイ

SecurView ワークステーションは、DICOM 6000 グループに含まれるオーバーレイを、画像のヘッダ内に表示します。DICOM 6000 オーバーレイを含む画像については、オーバーレイが焼き付けられた画像の内部コピーが、SecurView によって作成されます。

DICOM 6000 オーバーレイの表示が必要でない場合は、サービスエンジニアが当該機能を無効にすることが可能です。

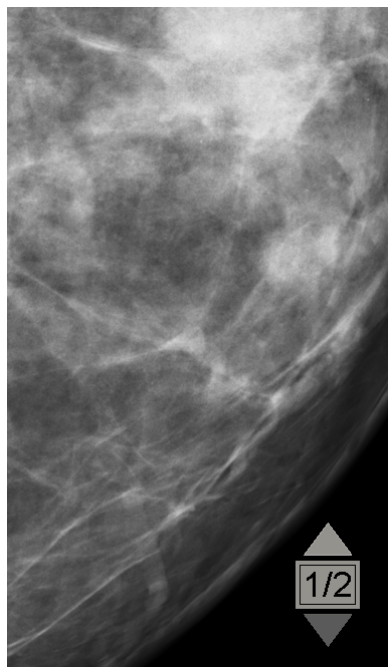
DICOM 6000 オーバーレイの表示

焼き付けられたオーバーレイを持つ画像の内部コピーは、対応する元の画像にスタックされます。

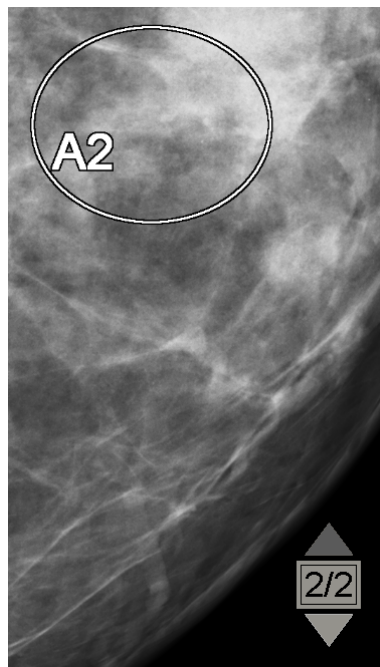


注記

ユーザーがスタック内のすべての画像をスクロールしなかった場合、DICOM 6000 オーバーレイに含まれる注釈が失われる場合があります。



元の画像



DICOM 6000 オーバーレイを使用した画像

SecurView による表示は、元の画像と同じサイズのグラフィックオーバーレイを含む一つの DICOM 6000 グループのみに限定されます。

オーバーレイは、黒色の輪郭に囲まれた白色によって焼き付けられます。オーバーレイの可視性を上げる場合は、サービスエンジニアが厚さと輪郭の幅を設定することが可能です。

SecurView のユーザーが行えるのは、元の画像へのマーキング、注釈および測定の実成のみです。オーバーレイが焼き付けられた画像の内部コピーに注釈を付けることはできません。

4.3.8 CLAHE 画像処理

SecurView ワークステーションは、Contrast Limited Adaptive Histogram Equalization (CLAHE) 画像処理をサポートしています。CLAHE 処理された画像には、「CLAHE」オーバーレイが表示されます。CLAHE 処理が画像に設定されたのにもかかわらず適用に失敗した場合、「画像処理に失敗」というシステムメッセージが元の画像とともに表示されます。

サービスエンジニアが、CLAHE 処理の設定を行うことができます。



注記

まれな場合では、一部の CLAHE 処理済み画像の最初のプレゼンテーションは最適ではない場合があります。手動のウィンドウ/レベル調整を使用して、これら画像の外観を向上させます。

4.4 CAD の使用

SecurView ワークステーションは、Hologic ImageChecker CAD、Hologic Quantra、iCAD SecondLook、その他アプリケーションによって生成されたマンモグラフィ-CAD SR オブジェクトに対応しています。CAD SR に CAD 結果が含まれている場合は、各画像の CAD 結果を SecurView で表示することができます。

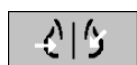
CAD 機能はライセンスによって保護されています。ライセンス下では、ツールバーまたはキーパッドの CAD ボタンを有効にすることで、CAD 機能へのアクセスが管理されます。それぞれの CAD アプリケーションに関する詳細は、該当する CAD 取扱説明書を参照してください。

- [CAD 情報の表示](#) 『85ページ』
- [Hologic ImageChecker CAD](#) 『85ページ』
- [Hologic Imaging Biomarkers](#) 『91ページ』
- [複数の Mammography CAD SR 間の切り替え](#) 『92ページ』

4.4.1 CAD 情報の表示

患者に CAD 結果がある場合は、患者リストの CAD 列に「+」記号が表示されます。また、CAD 結果のある患者をレビューする際に、ツールバーの CAD ボタンが有効になります（グレー表示でなくなります）。ReportFlow のステップの1つとして、CAD 結果が自動的に表示されるよう構成することができます。

CAD 結果を表示するには：



CAD (コンピュータ支援検出)

CAD 結果のあるケースを表示しておき、**Computer Aided Detection (コンピュータ支援検出)** をクリックします。CAD オーバーレイが表示されます。現在表示されている画像に CAD がある場合は、CAD マークが表示されます。

4.4.2 Hologic ImageChecker CAD

Hologic の Citra™ Core ライセンスグループは、Cenova™ デジタルマンモグラフィサーバーでの標準 ImageChecker CAD 機能を提供します。Citra Core には、以下が含まれます。

- RightOn™ CAD マーク
- EmphaSize™ CAD マーク
- PeerView® CAD マーク
- LesionMetrics™

ライセンスを取得している場合、ImageChecker ソフトウェアで CAD SR 出力に CAD 情報が含まれます。

RightOn CAD マーク

ImageChecker ソフトウェアでは、3 種類の RightOn CAD マーク (Mass、Calc、Malc) が提供されています。ユーザー設定で、これら 3 種類のマークから選択して表示させることも、3 種類同時に表示させることもできます。各マークは、関心領域を識別します。



Calc – 石灰化が疑われる領域を示します。

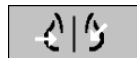


Mass – 腫瘍または構築の乱れが疑われる領域を示します。



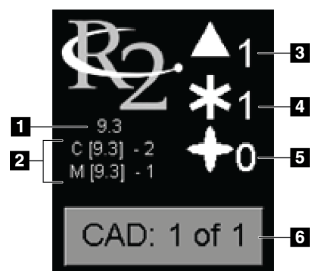
Malc – Calc マークと Mass マークの両方がある領域を示します。

ImageChecker CAD オーバーレイ



CAD (コンピュータ支援検出)

ImageChecker CAD の結果でケースを表示している場合、**Computer Aided Detection (コンピュータ支援検出)** をクリックすると、SecurView は ImageChecker CAD オーバーレイを表示します。現在表示されている画像に CAD がある場合は、CAD マークが表示されます。



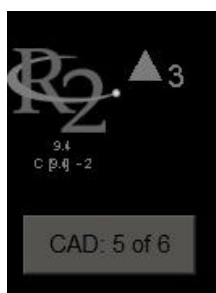
ImageChecker CAD オーバーレイ

図の凡例

1. CAD ソフトウェア バージョン
2. Calc と Mass の動作ポイント
3. Calc マークの数
4. Mass マークの数
5. Malc マークの数
6. CAD 結果の選択

Calc、Mass、Malc のマークが右側に表示されます。左側では、SecurView は ImageChecker CAD アルゴリズム バージョン (9.3) と、石灰化 (C) と腫瘍 (M) で選択したオペレーティングポイントを表示します。

Cenova サーバーソフトウェアが、Calc や Mass の結果を生成するように構成されていない場合、アルゴリズムバージョン、CAD シンボル、およびアルゴリズムに対応する数のマークは表示されません。以下の例題は、ImageChecker CAD Mass アルゴリズムを実行しなかったことを SecurView がどのように特定するかを表しています。



実行していない ImageChecker CAD Mass アルゴリズム

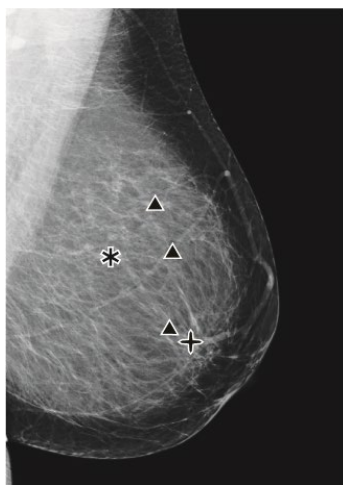
ImageChecker CAD が画像を加工できない場合は、SecurView は CAD 記号の周りに破線を表示し、アルゴリズムに対応する数のマークは表示されません。



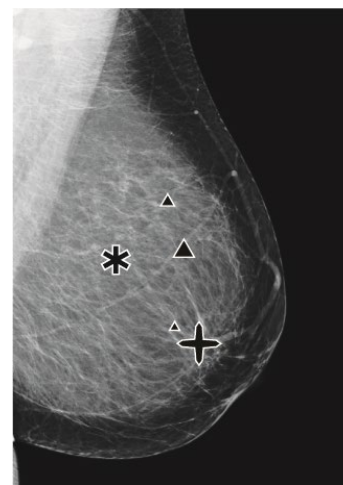
画像を加工できない ImageChecker CAD

EmphaSize CAD マーク

この機能を使い、検出された特徴の程度に応じた可変サイズの ImageChecker CAD マークを SecurView で表示することができます。より顕著な特徴を持つと ImageChecker によって判断された領域には CAD マークが大きく表示され、一層の注意を払って読影すべき領域であることを示します。SecurView システムでは、デフォルトによって EmphaSize マークが表示されます。ユーザー設定で EmphaSize マークをオフに切り替えることができます（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照）。



EmphaSize 不使用の CAD



EmphaSize を使用した CAD

PeerView CAD マーク

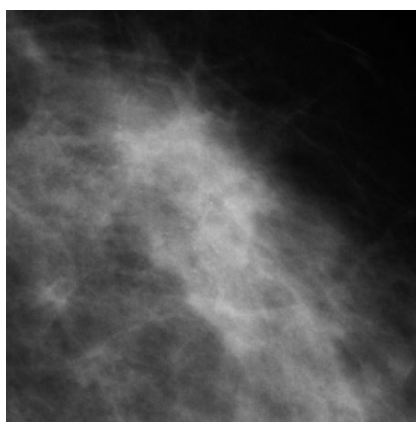
PeerView では、アルゴリズムによって検出された解剖学的所見がハイライト表示されます。下図の例は、同じ領域に PeerView Calc マーク（石灰化を伴う腫瘍）を表示した場合と非表示にした場合です。PeerView を使用した場合、腫瘍の中心濃度を囲む輪郭が示され、クラスターの個々の石灰化がハイライト表示されます。

PeerView 結果を見るには：

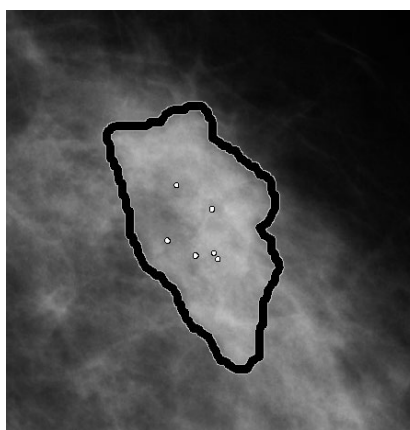
PeerView / RightOn をクリックします。再びクリックすると、RightOn マークが表示されます。



PeerView /
RightOn



PeerView をオフにした場合



PeerView をオンにした場合

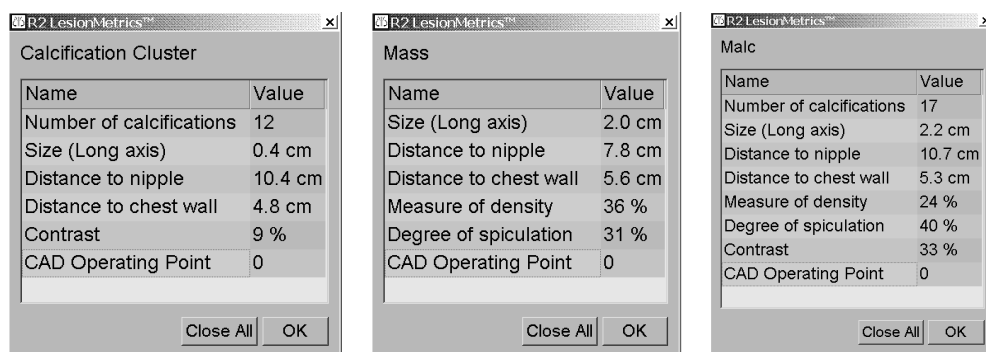
CAD 表示が有効にされており、表示中の画像の少なくとも1つに CAD SR 情報が表示されている場合に、PeerView の結果が表示されます。現在の CAD SR に PeerView 情報がない場合は、RightOn CAD マークのみ SecurView に表示されます。

LesionMetrics

LesionMetrics は、アルゴリズムによりマークを付けられた関心領域ごとに、ImageChecker により演算されたデータを提供します。病変の種類によって、病変のサイズ、乳頭までの距離、胸壁までの距離、スピキュラ、石灰化のコントラスト、石灰化の数、腫瘍の濃度などの計測値をソフトウェアに演算させることができます。

ImageChecker CAD 所見ごとに LesionMetrics を表示するには：

RightOn または PeerView CAD マークをダブルクリックします。選択されている CAD マークの隣に新しいウィンドウが開きます。



4.4.3 Hologic Imaging Biomarkers



注記

バイオマーカーの表示は可用性によって左右されます。詳細については、お客様の地域の営業担当者へご確認ください。

Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムはケース内の各画像を解析し、乳腺密度評価結果を提供します。SecurView は、患者ごと、乳房ごと、画像ごとに評価をレポートします。詳しくは、*Quantra ユーザーガイドの概要*を参照してください（この製品は別売となります）。

Hologic Imaging Biomarkers 結果を表示するには：

Biomarkers をクリックします。ユーザー設定に従い、3つのタブにバイオマーカーの結果が表示されます（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)『136ページ』」を参照）。ユーザー設定を使用することで、（被験者（デフォルト）、乳房、または画像ごとに）最初に表示する結果を設定することができます。



バイオマーカー



注記

バイオマーカーの結果内容は Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムバージョンによって異なる場合があります。

Per Subject		Per Image		Per Breast	
		2004-11-30			
		Total			
Quantra		2.2.2			
QDC				c	

Per Subject		Per Image		Per Breast	
		2004-11-30			
		R	L		
Quantra		2.2.2			
QDC		c	c		

Hologic Imaging Biomarkers の Per Subject タブと Per Breast タブ

何も値がない結果は空白のセルに参照しています。つまり、レポートには目的の測定について値が含まれていません。

Biomarkers 結果の完全な名前を表示するには、以下に示すように省略形の名前にポインタを重ねます。

Per Subject		Per Image		Per Breast	
		2004-11-30			
		Total			
Quantra		2.2.2			
QDC				c	

Quantra Breast Density Category

4.4.4 複数の Mammography CAD SR 間の切り替え

SecurView では、特定の CAD SR のマークが各画像に表示されます。デフォルトの CAD SR は、日付と時刻で識別された、画像に参照する最も新しいオブジェクトです。単一のケース内には、異なる画像に参照している複数の CAD SR がある可能性があります。例えば、新しい CAD SR は、収集ワークステーションでケースを再度開いて新しい画像を追加した後生成される場合があります。

画像上で CAD SR を選択すると、この CAD SR に参照しているすべての画像の内容が表示されます。選択した CAD SR は、患者データが読み込まれている限り、参照されているすべての画像で変わりません。

新しい CAD SR に切り替えるには：

CAD: 1 of 2

CAD 結果の選択

1. CAD 情報オーバーレイで、**Select between CAD results (CAD 結果の選択)** をクリックします。その画像に使用可能な CAD SR のリストがポップアップメニューに表示されます。現在表示されている CAD SR の隣には、チェックマークが付きます。

✓	11-07-2011	16:04	R2 Technology, Inc.
	11-07-2011	16:01	R2 Technology, Inc.

2. リスト内から 1 つ選択して、参照されている CAD SR を読み込み、画像にマークを表示します。

4.5 注釈の作成と表示

注釈は、マーキングと、関心領域に関する説明（オプション）からなります。病変に楕円形、フリーハンド、矢印描画あるいは測定値でマークを付け、関心領域に関する説明を挿入できます。SecurView では、注釈ごとに特定の画像にリンクされます。

- [画像のマーキング](#) 『92ページ』
- [関心領域に関する説明の追加](#) 『96ページ』
- [注釈の表示](#) 『99ページ』

SecurView DX では、注釈作成機能には排他的な改訂および削除権限があります。ただし、他のユーザーは注釈を見ることができ（2 次読影ケースの注釈を除く）、また患者についての自分の注釈を入力することができます。また、注釈を他のスタンドアロン型ワークステーションまたはマルチワークステーション クラスターへ送ることができます。「[通知の送信と表示](#) 『100ページ』」および「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください。

4.5.1 画像のマーキング

楕円形、フリーハンド、矢印、測定ツールを使い、関心領域にマークを付けます。

マーキングを描画するには：

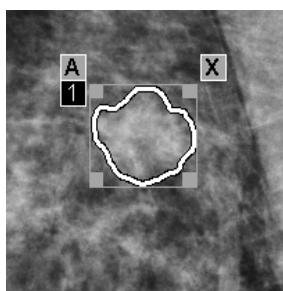


Ellipse (楕円形)

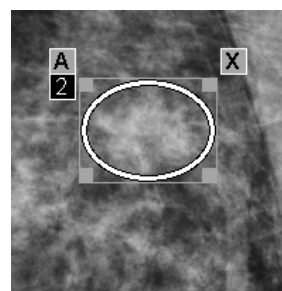
1. **Ellipse (楕円形)**、**Freehand (フリーハンド)**、**Arrow (矢印)**、または **Measurement (測定)** をクリックします。マーキングの始点をクリックし、ドラッグして目的の形状を描き、マウスボタンを放します。(フリーハンドマーキングの場合、SecurViewによって始点と終点が自動的に結合されます。) SecurViewによって、各注釈に番号が付けられます(下図の 1、2、3)。



Freehand (フリーハンド)



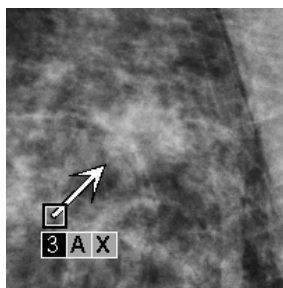
Freehand (フリーハンド)



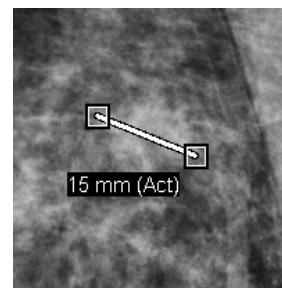
Ellipse (楕円形)



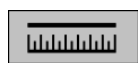
Arrow (矢印)



Arrow (矢印)



Measurement (測定)



Measurement (測定)

- マーキングの大きさを変更するには、四角形のハンドルをクリック&ドラッグします。
- マーキングの位置を移動するには、境界ボックスの内側をクリックしてマウスボタンを押したまま(または、測定線をクリックして)、マーキングを新しい位置までドラッグします。
- 楕円形、フリーハンド、または矢印のマーキングの説明を入力するには、**A** をクリックします(次ページを参照)。
- 楕円形、矢印、またはフリーハンドマーキングを削除するには、**X** をクリックします(または、境界ボックス内でクリックして、**Backspace (バックスペース)** を押します)。測定線を削除するには、四角形のハンドルをクリックします(または、**Backspace (バックスペース)** を押します)。

2. 別のツールをクリックして（または、別の画像へ移動して）、マーキングを所定の位置にロックします。（マーキングのロックを解除するには、マーキングの作成に使用したツール（楕円形、フリーハンド、測定）を最初にクリックします。）



重要

拡大ビューでの測定マーキング時には注意してください。場合によっては、ピクセル間隔変換係数が正しくエンコードされない場合があります。利用可能な場合は、拡大以外のビューで測定を行ってください。

ルーラーを表示して測定するには :

各画像に表示されているルーラーをクリック&ドラッグします。ルーラーを 90 度回転させるには、ルーラーを右クリックしてドラッグします。



注記

測定の長さは、データソースが提供したピクセル間隔変換係数を使用して計算します。精度については、データソースのガイドを参照してください。

4.5.2 関心領域に関する説明の追加

画像のマーキングを終えたら、病変の属性を選択し、テキストを入力するか、事前に定義されているテキスト文字列を挿入して、関心領域に関する説明を入力することができます。

注釈の説明を入力するには：



Ellipse (楕円形)



Freehand (フリーハンド)



Arrow (矢印)

1. **Ellipse (楕円形)**、**Freehand (フリーハンド)**、または **Arrow (矢印)** をクリックし、マーキングをクリックして境界ボックスを開きます。
2. **A** をクリックして (または、境界ボックス内でダブルクリックして)、注釈ダイアログを開きます。

Annotation

Mass

Shape

- Round
- Oval
- Lobular
- Irregular

Margins

- Circumscribed
- Microlobulated
- Obscured
- Indistinct (Ill defined)
- Spiculated

Density

- High
- Equal
- Low
- Radiolucent

Architectural distortion

Special cases

- Tubular Density / Solitary Dilated Duct
- Intramammary Lymph Node
- Asymmetric Breast Tissue
- Focal Asymmetric Density

Calcification

Typically benign

- Skin
- Vascular
- Coarse
- Large Rod-Like
- Round
- Lucent-Centered
- Eggshell / Rim
- Milk of Calcium
- Suture
- Dystrophic
- Punctate

Intermediate concern

- Amorphous / Indistinct

Higher probability of malignancy

- Pleomorphic / Heterogeneous (Granular)
- Fine, Linear / Fine, Linear, Branching

Distribution

- Grouped / Clustered
- Linear
- Segmental
- Regional
- Diffuse / Scattered

Associated finding

- Skin Retraction
- Nipple Retraction
- Skin Thickening
- Trabecular Thickening
- Skin Lesion
- Axillary Adenopathy
- Architectural Distortion
- Calcifications

Other | Magnification needed

Magnify. Add XCCL

OK Reset Cancel

3. 病変のチェックボックスを1つまたは複数選択して、下部のフィールドにテキストを入力します (または、事前に定義されたテキスト文字列を挿入します)。終了したら、**OK** をクリックして説明を保存します。

ユーザー設定で、注釈ダイアログにチェックボックス領域を表示するか非表示にするか指定できます (「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照)。

注釈の説明のためにテキスト文字列を事前に定義するには：



New (新規)



Insert (挿入)



Edit (編集)



Delete (削除)

1. Annotation (注釈) ダイアログで、**New (新規)** をクリックして Enter New Text (新規テキストの入力) ダイアログを開きます。
2. テキストを入力し、**OK** をクリックして新しいテキスト文字列をドロップダウンリストに追加します。



テキスト文字列を定義しておくこと、ドロップダウンリストから選択して以下の操作を行えます。

- **Insert (挿入)** をクリックして、テキストを注釈の説明に追加する、または
- **Edit (編集)** をクリックしてテキスト文字列を編集する、または
- **Delete (削除)** をクリックしてテキスト文字列を削除する。

4.5.3 注釈の表示



Annotations Present (注釈あり)

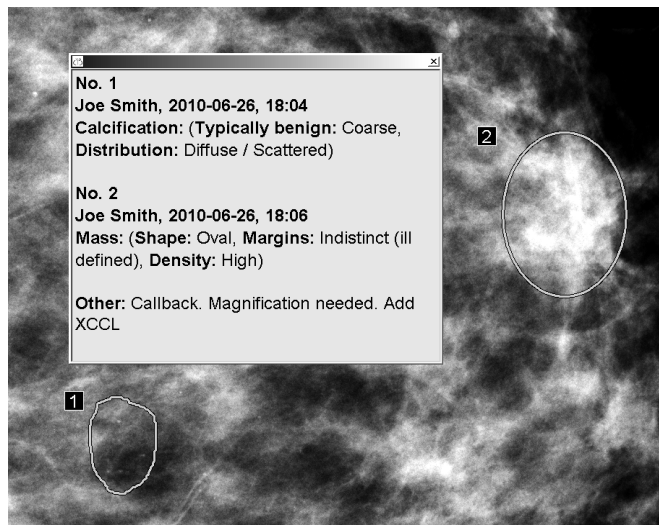
MG Viewer で患者データを開くと、デフォルトにより注釈は非表示にされています。画像に1つまたは複数の注釈がある場合は、アイコン（左図を参照）で示されます。

現在表示されているすべての画像の注釈を見るには：



注釈ユーザーフィルタ

Annotation User Filter（注釈ユーザーフィルタ）をクリックして、現在表示されている画像の注釈を表示します。



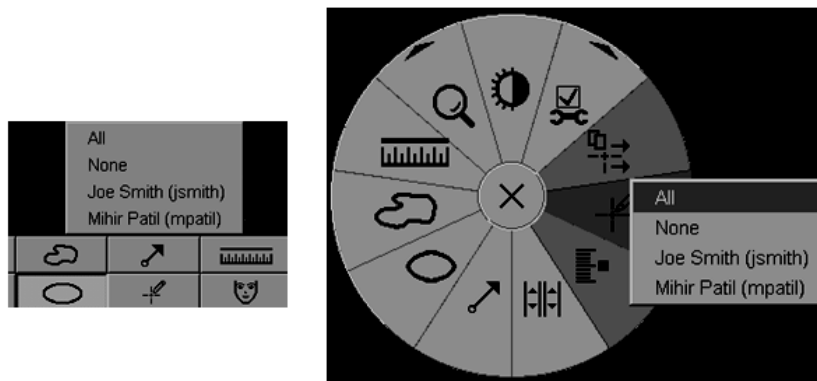
- 注釈ウィンドウを閉じるには、右上の X マークをクリックします。
- 注釈を非表示にするには、**Annotation User Filter**（注釈ユーザーフィルタ）を再びクリックします。

1 枚の画像の注釈を見るには：

画像を右クリックしてパイプメニューを開き、**Annotation User Filter**（注釈ユーザーフィルタ）を選択して注釈を表示または非表示にします。

読影者を選択するには :

複数の読影者からの注釈がある場合は、読影者リストが表示されます。表示したい注釈を作成した放射線専門医の名前を選択します（または、**All (すべて)** を選択してすべての注釈を表示します）。注釈を非表示にするには、**None (なし)** を選択します。

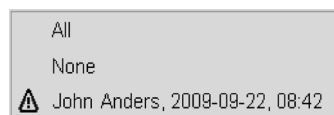


他社製 GSPS 注釈を見るには :



GSPS Annotations Present (GSPS 注釈あり)

SecurView では、他社製 GSPS 注釈を表示することができます。画像に他社製 GSPS 注釈がある場合、左図のようなアイコンが表示されます。**Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ)** をクリックすると、GSPS 注釈に  アイコンが表示されます。



注記

SecurView はサードパーティ GSPS のすべてのコンテンツに対応していません。特定のメーカーや装置モデルの GSPS 注釈が SecurView で適切に表示されない場合は、サービスエンジニアに依頼してこのような注釈を表示しないよう SecurView を設定することができます。

4.6 通知の送信と表示

「GSPS 通知」とは、別の Hologic スタンドアロン型ワークステーションまたはマルチワークステーションクラスターからのメッセージで、これには画像についてのすべての注釈が現在のウィンドウ/レベル値、ユーザー名、作成日時と共に含まれています（ただし、ケースの読影状況は含まれていません）。Tomosynthesis 画像に基づく通知には、対応する画像種類（投影画像または再構成画像）のすべてのスライスの注釈がすべて含まれています。

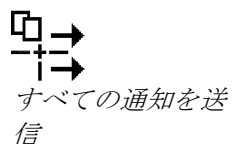
患者データの表示時、設定されている他の Hologic スタンドアロン型ワークステーションまたはマルチワークステーションクラスターへ通知を送ることができます。受信すると、他のユーザーが注釈を表示することができます。ほとんどの場合、術者ユーザーに注釈を見てもらうために放射線専門医ユーザーが通知を送ります。通知の送信先はサービスエンジニアが構成する必要があります。

- [通知の送信](#) 『101ページ』
- [通知の表示](#) 『102ページ』

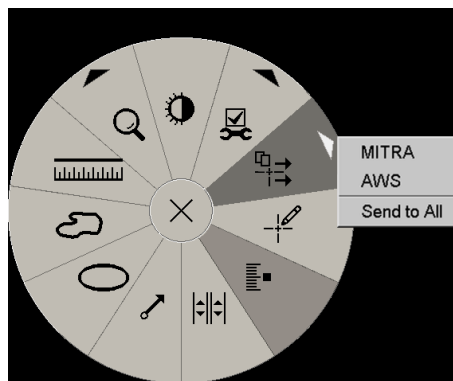
4.6.1 通知の送信

通知の送信は3通りの方法で行えます。(1) 現在のケースのすべての通知を以下の説明に従い送信する、(2) ケースを閉じるときにすべての通知を送信する（「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照）、(3) 現在選択されている画像の通知を送信する（次ページを参照）。

すべての通知を送信するには：



1. 右クリックしてパイメニューを開き、**Send All Notices (すべての通知を送信)** を選択します。
 - 通知の送信先が1ヵ所構成されている場合は、SecurView によって通知が作成され、すぐに送信されます。通知には、(1) 現在の放射線専門医によって未読影のケースについて作成された注釈、または(2) 現在の術者 (SecurView RT) によって新規のケースについて作成された注釈がすべて含まれています。
 - 通知の送信先が2つ以上設定されている場合は、サブメニューが表示されます。



2. 通知を送信するには、送信先または「Send to All (すべての送信先)」を選択します。



注記

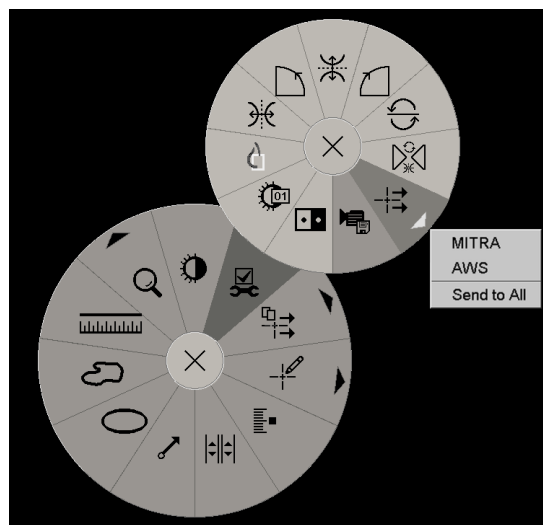
「Send to All (すべての送信先)」は、未読のケースにのみ適用されます。Read (読影済み)、Old (既存) または Changed (変更あり) のケースの通知を送信するには、「Send Image Notice (画像通知の送信)」または「Close Study (ケースを閉じる)」を使用します（「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照）。

画像通知を送信するには :

画像を右クリックしてパイ メニューを開き、**Image Tools** (画像ツール) をポイントしてパイ メニューを開きます。次に、**Send Image Notice** (画像通知の送信) をクリックします。



Send Image Notice
(画像通知の送信)



SecurView によって通知がすぐに送信されるか、または通知の送信先が複数構成されている場合はサブメニューが開き送信先を選択することができます。この通知には、作成者またはケース状態に関わらず、選択されている画像についてのすべての注釈が含まれています。

4.6.2 通知の表示



Notice Present (通知あり)

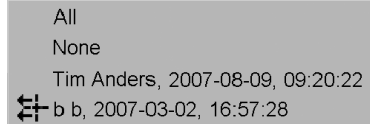
ワークステーションが患者の通知を受けた場合、患者リストの「Notice (通知)」列に「+」が表示されます。MG Viewer で被検者データを開くと、デフォルトにより通知は非表示にされています。画像に1つまたは複数の通知がある場合は、左図のようなアイコンで示されます。

現在表示されている画像の通知を見るには :



注釈ユーザーフィルター

1. **Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルター)** をクリックします。各通知の隣に、Notice Present (通知あり) アイコンが表示されます。



2. 表示したい通知を作成した放射線専門医の名前を選択します (または、**All (すべて)** を選択してすべての注釈を表示します)。注釈を非表示にするには、**None (なし)** を選択します。

4.7 ケースを閉じる

通常、患者のレビューの最終ステップとして、ケースを閉じる操作、つまり現在読み込まれているケースのレビューを完了する操作を行います。

- [放射線専門医としてケースを閉じる](#) 『104ページ』
- [術者としてケースを閉じる](#) 『107ページ』
- [外部アプリケーションからケースを閉じる](#) 『108ページ』

4.7.1 放射線専門医としてケースを閉じる

被検者のレビューを終えたら、放射線専門医ユーザーは SecurView DX 上で Close Study (ケースを閉じる) ダイアログを開き、1つまたは複数のケースの読影状況を変更します (通常、「Not Read (未読影)」から「Read (読影済み)」に変更)。ケースがまだ未読影の場合や、2次読影が必要な場合、放射線専門医は読影状況を変更せずにロック状態を割り当てることができます。

Close Study (ケースを閉じる) により、通知を送信、注釈、タグ付けした Tomosynthesis スライスおよび Multimodality ScreenCaptures を保存、または二次読影をキャンセルすることもできます。

Close Study (ケースを閉じる) ダイアログは、患者の読影状況に応じて、最後の ReportFlow ステップに達したとき、または **Close Study (ケースを閉じる)** をクリックしたときに自動的に開きます。

- Close Study (ケースを閉じる) ダイアログは、読影状況が現在「Not Read (未読影)」、「Read Once (1次読影済み)」、または「Changed (変更あり)」である場合に使用することができます。Close Study (ケースを閉じる) ダイアログは、「Read (読影済み)」または「Old (既存)」ケースの新規または変更された注釈、測定、またはタグ付けされた Tomosynthesis スライスにも使用できます。
- Close Study (ケースを閉じる) ダイアログは、読影状況が現在「Locked (ロック)」、「Read (読影済み)」、または「Old (既存)」で、新規または変更された注釈、測定、あるいはタグ付けされた Tomosynthesis スライスがない場合には使用できません。ただし、患者がロックされている場合は、ロックを解除できます。詳しくは、「[ショートカットメニューの使用](#) 『37ページ』」を参照してください。

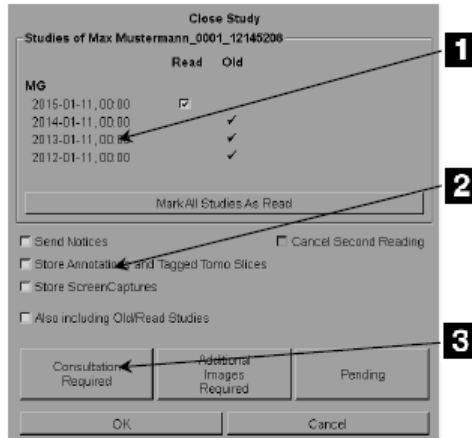
読影状況に関する詳細は、「[読影状況](#) 『35ページ』」を参照してください。

放射線専門医としてケースを閉じるには：



ケースを閉じる

1. **Close Study** (ケースを閉じる) をクリックします (または、最後の ReportFlow ステップへ進みます)。



図の凡例

1. 現在の患者のケースリスト (MG、US、MR、OT、DX、CR、CT、PT が含まれている可能性があります)
2. ケースを閉じる際に実行できるオプション
3. ロックオプション

2. 必要に応じて、ケース設定を調整します。SecurView では、ダイアログを閉じる際に以下のオプションを選択して実行することができます。
 - a. ケースリストから、1 つまたは複数のチェックボックスをクリックしてケースの読影状況を「Read (読影済み)」に設定し、チェックボックスを未選択のままにするか、**Mark All Studies As Read (すべてのケースを読影済みとしてマーク)** をクリックします。
 - b. OK をクリックしてダイアログを閉じるときに、設定されている送信先に送りたい場合は、Notices (通知)、Annotations (注釈)、ScreenCaptures (画面取り込み) のオプションを選択します。(これらのオプションのデフォルト設定については、「[ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』」を参照してください。)

Send Notices (通知の送信) – 未読影のケースの場合、OK をクリックすると、現在のユーザーのマーキングが含まれている GSPS 通知が送信されます(「注釈とタグの付いた Tomo スライス」)。ただし、読影状況はこれに含まれません。

Store Annotations and Tagged Tomo Slices (注釈とタグ付き Tomo スライスの保存) – OK をクリックすると、(1) ケースの読影状況と現在のユーザーによるマーキングが含まれている GSPS レポート(「注釈とタグ付き Tomo スライス」)、および/または (2) 現在のユーザーがマークを付けた画像とタグの付いた Tomosynthesis スライスの MG Secondary Capture 画像が送信されます。このオプションは、該当する以下のオプションで有効化されている場合、「Read (読影済み)」とマークされているケース、またすでに「Read (読影済み)」および「Old (既存)」であるケースにも適用されます。

Store ScreenCaptures (画面取り込みの保存) – OK をクリックすると、Multimodality ScreenCapture 画像が送信されます。このオプションは、該当する以下のオプションで有効化されている場合、「Read (読影済み)」とマークされているケース、またすでに「Read (読影済み)」および「Old (既存)」であるケースにも適用されます。

Also including Old/Read Studies (既存/読影済みケースも含む) – **Send Notices, Store Annotations and Tagged Tomo Slices (通知の送信、注釈およびタグ付けした Tomo スライスの保存)** または **StoreScreenCaptures (ScreenCaptures の保存)** でそれぞれ「Read (読影済み)」または「Old (既存)」であるケースの新しいまたは変更した注釈、タグ付けした Tomosynthesis スライスまたは Multimodality ScreenCapture を含める場合にこのオプションを選択します。



注記

「Also including Old/Read Studies (既存/読影済みケースも含む)」を選択すると、新しいまたは変更した注釈、タグ付けした Tomosynthesis スライスまたは Multimodality ScreenCapture のみ設定した宛先に送信されます。以前保存/送信した通知、GSPS レポート、MG Secondary Captures または MM ScreenCaptures は影響を受けません。

詳細は、「[MG Secondary Capture と MM ScreenCapture](#) 『70ページ』」を参照してください。

- c. ケースの読影状況を「Read Once (1次読影済み)」から「Read (読影済み)」に変更するには、**Cancel Second Reading (2次読影のキャンセル)** をクリックします。



重要

このチェックボックスは、2重読影が構成されており、ケースを

「Read (読影済み)」に設定した場合のみ有効になります (手順 2a を参照してください)。2次読影をキャンセルして読影状況を「Read (読影済み)」に変更した後で、

読影状況を「Not Read (未読影)」または「Read Once (1次読影済み)」に戻すことは

できません。

- d. 患者をロックするには、**Consultation Required (診察が必要)**、**Additional Images Required (追加画像が必要)**、または **Pending (保留)** を選択します。ロックボタンをクリックすると、すべての新しいケースが「Not Read (未読影)」としてマーキングされる点に注意してください。



注記

Close Study (ケースを閉じる) ダイアログを終了した後で患者のロックを解除する方法については、「[ショートカットメニューの使用](#) 『37ページ』」を参照してください。

3. 設定を保存して設定済みの送信先ヘータを送るには、**OK** または **Next Patient (次の患者)** をクリックします。



注記

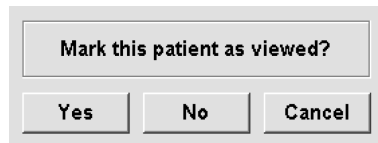
ケースを閉じるときに1画像 (または2画像) タイリングモードですべての画像をレビューしていない場合に警告メッセージを表示させるようシステムを設定できます (「[ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』」の「見落としたビューに関する安全警告」を参照してください)。

4.7.2 術者としてケースを閉じる

SecurView RT では、現在開いている患者データに使用できる GSPS 通知が少なくとも1つある場合、Close Study (ケースを閉じる) ボタンが有効になります。1つまたは複数の通知を受け取っているケースは、患者リストの「Notice (通知)」列でプラス記号 (+) が付いて示されます。

被検者について1つまたは複数の通知を SecurView RT で受け取っている場合、術者ユーザーはケースを閉じて「Viewed (表示済み)」としてマークを付けることができます。

術者が通知を受け取っている患者データを閉じようとする、以下のようなメッセージが表示されます。



- 患者データの状態を表示済みにして次の操作に進むには、**Yes** をクリックします。
- 現在の患者データにマークを付けずに次の操作へ進む場合は、**No** をクリックします。
- 現在の患者データを再表示する場合は、**Cancel (キャンセル)** をクリックします。

患者リストの **Viewed** (表示済み) 列では、受信した通知を術者がすでに表示している患者データが識別されます。

4.7.3 外部アプリケーションからケースを閉じる

放射線専門医は、アプリケーション同期を使用して外部アプリケーションから SecurView で現在開いている患者のケースを「Read (読影済み)」と自動的にマークすることができます。外部アプリケーションは Update Patient State (患者状態の更新) メッセージの送信に対応していなければなりません。外部アプリケーションから Update Patient State (患者状態の更新) メッセージを受信したら、SecurView は識別したケース (またはユーザー設定に従いすべての未読影のケース) を「Read (読影済み)」とマークし、選択したユーザー設定に従って、設定した宛先にすべての通知、注釈、タグ付けした Tomo スライスを送信します (「[ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』」を参照)。

SecurView ケースを閉じる際に一時的に送信した出力を変更するには、SecurView で **Close Study (ケースを閉じる)** ダイアログを開き、外部アプリケーションから Update Patient State (患者状態を更新) メッセージがトリガされる前に設定を変更します。

4.8 印刷オプション

DICOM 印刷機能は、表示権限のあるすべてのユーザーが使用することができます。患者情報、注釈など他のデータと共に、画像を DICOM フィルムプリンタで印刷できます。トモシンセシス再構成スライスの印刷については、「[Tomosynthesis 再構成スライスの印刷](#) 『130ページ』」を参照してください。

MG Viewer には 2 つの印刷モードがあります。

- **Screen Capture (画面取り込み)** モードでは、左側と右側のディスプレイの表示通りに画像が印刷されます。表示されている画像は、印刷に望ましい形式である必要があります (通常、ディスプレイあたり画像 1 枚の 1 画像表示)。SecurView では、すべての補足情報 (オーバーレイ、マーキング、拡大部分等) もディスプレイの表示通りに印刷されます。ただし、テキスト注釈は胸壁の反対側に囲みが付いて印刷されます。
- **Diagnostic (診断用)** モードでは、選択されているケースのすべての MG 画像が印刷されます。ACR レビュー用の画像を印刷するには、このモードを使用します。背側 (右乳房胸壁が右側)、または腹側 (右乳房胸壁が左側) の 2 つの方向から選択する

ことができます。診断用印刷は、MG 画像 (MG-MG、DX-MG、CR-MG、または SC-MG) のある患者にのみ有効になります。



注意：

印刷画像のテキストメッセージ「Printed in reduced resolution (低解像度での印刷)」は、プリントアウトが診断のために使用するものではないことを示しています。このメッセージを上書きしたり、他のテキスト情報に重ね合わせることが可能です。



注記

診断用印刷に使用されるフィルムのサイズが True Size (実寸) 印刷に必要なサイズより小さい場合、「Image not printed in True Size (この画像は実寸大ではありません)」という文字がフィルムに印字されます。

印刷する画像が拡大されている場合 (例えば、ビューの修飾子に拡大 (M)、スポット圧縮 (S) を含む場合、または ERMF 値が大きすぎる場合)、適合するようサイズが変更され、「Image adjusted to film size (この画像はフィルムサイズに合わせて調整されています)」という文字が印字されます。



注記

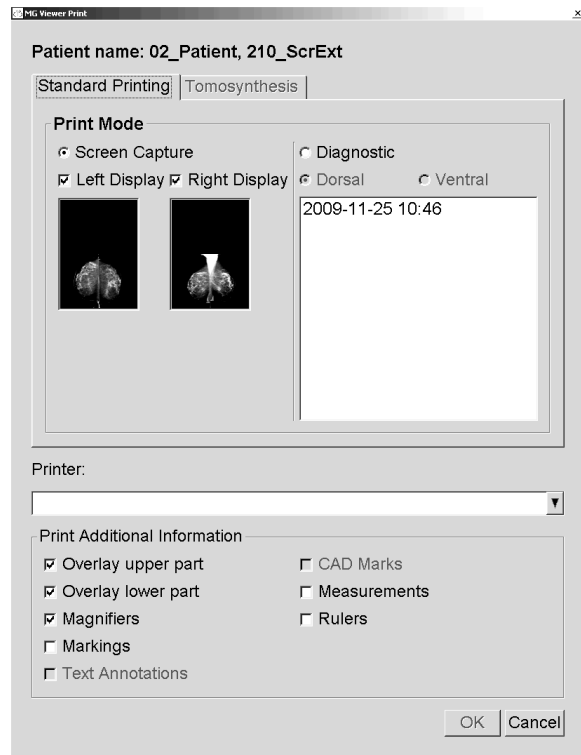
診断用印刷は、検体画像には対応していません。

現在表示している患者画像を印刷するには：



DICOM Print (DICOM 印刷)

1. ツールバーで、**DICOM Print (DICOM 印刷)** をクリックして「印刷」ダイアログを表示します。



2. Print Mode (印刷モード) で、**Screen Capture (画面取り込み)** または **Diagnostic (診断用)** を選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、**Left Display (左側ディスプレイ)**、**Right Display (右側ディスプレイ)**、または両方を選択します。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、**Dorsal (背側)** または **Ventral (腹側)** を選択します。
3. プリンタドロップダウンリストからプリンタを選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、フィルムサイズが含まれているプリンタ名を選択する必要があります。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、画像の大きさに基づき、SecurView によって自動的にフィルムサイズと DICOM プレゼンテーションサイズが選択されます。
4. Print Additional Information (追加情報の印刷) セクションで、1つまたは複数のオプションを選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、印刷画像オーバーレイ、拡大鏡、マーキング、説明テキスト、CAD マーク、測定値、ルーラーを含めることができます。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、オーバーレイのみ印刷できます。

**注記**

オーバーレイの設定方法については、「[印刷画像オーバーレイ](#) 『192ページ』」を参照してください。

5. **OK** をクリックして、選択されている画像と情報を印刷します。

必要な場合は、すぐに **DICOM Print (DICOM 印刷)** をクリックして、以前の印刷ジョブが完了する前に新しい印刷ジョブを開始します。

4.9 外部アプリケーションとの患者の同期

この機能が構成されている場合、数通りの方法で、SecurView ワークステーションで患者を外部アプリケーションと同期させることができます。

- 手動による同期
- ユーザー設定に従い自動的に同期
- SecurView がメッセージを受け取ったら自動的に同期

外部アプリケーションとの同期設定については、「[同期インタフェースの構成](#) 『181ページ』」を参照してください。

4.9.1 手動による同期

患者リストや患者レビューの際に手動で患者を同期することができます。



Synchronize (同期)

- 患者リストで、患者を右クリックして、ショートカットメニューから **Synchronize (同期)** を選択します。
- 患者のレビュー時に、ツールバーの **Synchronize (同期)** をクリックするか、キーボードの[R]を押します。

これに応答して、SecurView から外部アプリケーションへ Open Patient (患者を開く) メッセージが送られます。

4.9.2 自動同期

ReportFlows およびユーザー設定に従い、患者を自動的に同期させることができます(「[ユーザープロファイルの設定](#) 『141ページ』」を参照してください)。

- **Synchronization with a ReportFlow (ReportFlow と同期)** – ReportFlows の Synchronize (同期) ステップを使用します。ワークフローで Synchronize (同期) が現在のステップになると、SecurView から外部アプリケーションへ Open Patient (患者を開く) メッセージが送られます。
- **Synchronization when you open a patient (患者データを開いたら同期)** – MG Viewer で患者データを開いたらその都度、SecurView から外部アプリケーションへ Open Patient (患者を開く) メッセージを送るようユーザー設定で設定することができます。



注記

アクセッション番号にバーコードを付けて患者を開く場合、デフォルトでは、Open Patient（患者を開く）メッセージではバーコードを付けたアクセッション番号のケースのみが送信されます。

- **Synchronization when marking a study as 'Read'**（ケースが「Read（読影済み）」とマークされているときに同期） - 少なくとも1つのケースが「Read（読影済み）」としてマーキングされている場合に、ケースを閉じる際にその都度、SecurView から外部アプリケーションへ Update Patient State（患者状態の更新）メッセージを送るようユーザー設定で設定することができます。
-



注記

現時点では、Hologic MultiView ワークステーションのみがケースを閉じる際の同期に対応しています。

4.9.3 メッセージ受信時に同期

放射線専門医ユーザーとしてログインしている場合、SecurView ワークステーションが外部アプリケーションから Open Patient（患者を開く）メッセージを受け取り次第、自動的に MG Viewer で患者データを開くことができます。

第5章 Tomosynthesis 画像の使用法

- [Tomosynthesis イメージングの概要](#) 『114ページ』
- [Tomosynthesis 画像のナビゲート](#) 『116ページ』
- [ImageChecker 3D Calc CAD 結果の表示](#) 『126ページ』
- [Tomosynthesis 再構成スライスのタギング](#) 『129ページ』
- [Tomosynthesis 再構成スライスの印刷](#) 『130ページ』

この章では、Tomosynthesis 画像の表示方法と使用方法について説明しています。乳房 Tomosynthesis（トモシンセシス）は、異なる角度から撮像された静止圧迫乳房の複数の投影画像に基づく3次元イメージング（画像表示）技術です。投影画像は一連の薄い高解像度画像スライスに再構成され、個別に表示したり、ダイナミック「シネ」モードで表示することができます。



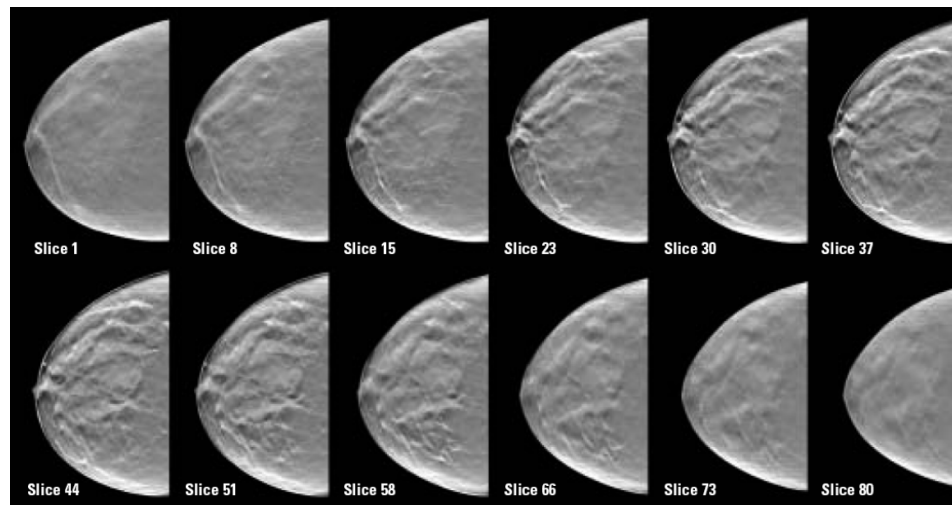
注記

Tomosynthesis 画像の表示や印刷には、特別のライセンスが必要となります。

5.1 Tomosynthesis イメージングの概要

Tomosynthesis の典型的な組合せでは、ビューごとに画像セットがある以下の種類の画像を使用します。

- 1枚または複数枚のマンモグラフィー画像（従来のマンモグラフィーまたは合成2D画像）
- Tomosynthesis 投影画像数枚（通常15枚）
- 再構成された Tomosynthesis スライス数枚。画像の枚数は、圧迫乳房の厚みによって異なります。



Tomosynthesis（トモシンセシス）：再構成スライス（概略図）

Tomosynthesis（トモシンセシス）画像は、1画像、2画像、または4画像を並べて表示されます。組み合わせ手順の同一側性とビューに属する Hologic 投影画像セット、再構成されたスライスセット、従来のマンモグラフィーまたは合成2D画像は、1つのタイル内にスタックとして表示されます。CE2D（造影2Dマンモグラフィー）が組み合わせ処理でトモシンセシスと組み合わせられる場合、同一側性およびビューに属する CE2D 低エネルギーおよびサブトラクション画像がスタックに表示されます。



重要

ケースを慎重に確認してください。組み合わせ処理の1つ以上のスライスや画像を表示すると、SecurView は非表示画像があることを通知しません（つまり、「Missed View Safety Warning（損失している表示の安全警告）」は表示されません。



注記

SecurView は、Hologic Secondary Capture 画像（プライベート ピクセル データ）で再構成した Tomosynthesis スライス、Breast Tomosynthesis 画像、および CT 画像フォーマットを受け取ります。再構成した Tomosynthesis スライスが1つのフォーマットですでに利用可能で、同じ再構成されたスライスが別のフォーマットで提供された場合、システムは最初に受け取った再構成されたスライスを除き、すべてのスライスを破棄するように設計されています。



注記

Tomosynthesis（トモシンセシス）は、拡大ビューに適用されません。



注記

SecurView は、Digital Mammography X-Ray 画像の合成 2D 画像 – For Presentation（プレゼンテーション用）フォーマットおよび Breast Tomosynthesis Image（乳房断層合成画像）フォーマットを受け入れます。合成 2D 画像が既に1つのフォーマットで使用でき、同じ合成 2D 画像がもう一方のフォーマットで来た場合は、両方の画像を表示に使用できます。

5.2 Tomosynthesis 画像のナビゲート

- [Tomosynthesis ナビゲーションボタン](#) 『117ページ』
- [Tomosynthesis スライスを表示](#) 『118ページ』
- [スラブ厚の変更](#) 『119ページ』
- [Tomosynthesis 画像の注釈付け](#) 『120ページ』
- [シネモードの使用](#) 『120ページ』
- [ローカルシネモードの使用](#) 『121ページ』
- [フォーカス](#) 『122ページ』
- [リンクされたタイルのスクロール](#) 『123ページ』
- [動画のエクスポート](#) 『124ページ』

5.2.1 Tomosynthesis ナビゲーションボタン

タイトルまたはビューポート内に Tomosynthesis 画像データセットが表示されているときに、3 種類の画像を選択することができます。

- Hologic 投影画像
- マンモグラフィ画像 (Hologic 従来型マンモグラフィ、合成 2D、I-View™ CE2D 低エネルギー、または CE2D サブトラクション画像)
- Hologic 再構成スライス



Tomosynthesis ナビゲーションボタン

上図のナビゲーションボタンは、Tomosynthesis 画像と共に表示されます。必要な場合は、ボタングループをクリック&ドラッグして別の表示位置に移動させることができます。サービスエンジニアは、ナビゲーションボタンや垂直スライダーの周辺の有効な領域を必要に応じて拡大することができます。

Tomosynthesis 再構成スライスから生成されたスラブは、最大値投影法 (Maximum Intensity Projection: MIP) で表示されます。

アイコン	目的
	Projection (投影) – Hologic 投影画像を表示します。
	MG Images (MG 画像) – Hologic 従来型マンモグラフィ、合成 2D、I-View CE2D 低エネルギー、または CE2D サブトラクション画像を表示します。複数の画像が利用可能な場合は、アイコンの下に画像の数が表示されます (例: 「1/2」)。このボタンを繰り返しクリックしてマンモグラフィ画像を切り替えます。
	MG / Tomosynthesis Toggle (MG / トモシンセシスの切り替え) – マンモグラフィ画像と再構成スライスを切り替えます。
	Reconstruction (再構成) – Hologic 再構成スライスを表示します。
	Cine (シネ) – 再構成したスライスの連続表示を開始 / 停止します。

ハンギングスナップショットの構成で、Hologic 従来型マンモグラフィー (I-View CE2D 低エネルギーを含む)、合成 2D、および CE2D サブトラクション画像の表示の順番を構成できます (「[ハンギングスナップショットの作成と編集](#) 『147ページ』」を参照)。

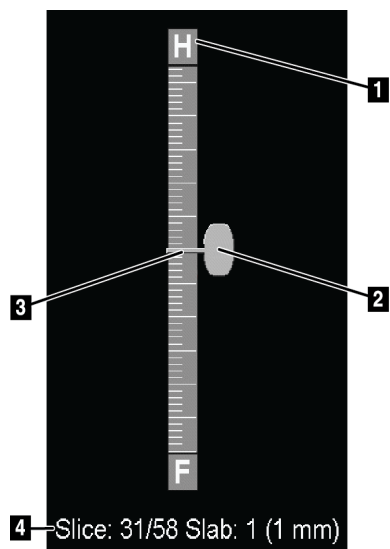
Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像の表示に使用する初期スライスをユーザー設定で構成することができます (「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』」を参照)。

5.2.2 Tomosynthesis スライスの表示

スライダーツールを使い、スライスを表示したり、スラブの厚みを変更します。マウスまたはキーパッドホイールを使い、スライスをスクロールします。

Tomosynthesis スライスを表示するには :

Reconstruction (再構成) (Tomosynthesis ナビゲーション ボタンの1つ) をクリックして、再構成されたスライスを表示します。垂直スライダーツールが表示されます。



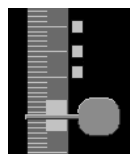
図の凡例

1. 方向インジケータ (H、F、L、M)
2. スライダーハンドル
3. スラブ厚バー
4. 現在のスライス、スライス総数、スラブ厚

スライダーツール

ルーラーの上部と下部の方向インジケータは、画像の現在のビュー方向 (ML、MLO、LM、LMO、CC、SIO、ISO、XCCL、XCCM) によって異なります。「H」は頭部、「F」は足、「M」は内側、「L」は外側を示します。

スライダーツールを別の位置に表示したい場合は、ルーラーをポイントしてスライダーツールを新しい表示位置までドラッグします。



Tagged Slices (タグを付けたスライス)

「Tomo 画像タギング」ツールを使って再構成スライスを指定し、印刷、外部メディアへのエクスポート、ケースを閉じるときに設定済みの送信先へ保存することができます。タグを付けた再構成スライスは、垂直スライダーツールの隣に小さなマークが付いて示されます。このマークはデータベースに保存されており、SecurView ワークステーション上に患者データがある限り表示されます。「[Tomosynthesis 再構成スライスのタギング](#)『129 ページ』」を参照してください。



SecurView では、受信した MG Secondary Capture Tomosynthesis (トモシンセシス) 注釈は左図のようなカメラ アイコンで示されます。MG Secondary Capture がタグを付けた Tomosynthesis スライスを表わす場合、そのスライスの場所に関する情報も表示されます。

スライスをナビゲートするには：

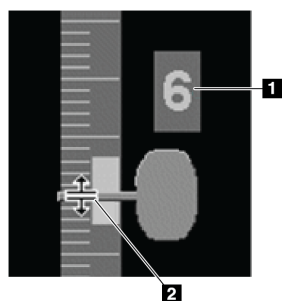
- スライダーツール上で目的の表示箇所をクリックします（または、スライダーハンドルをポイントして上下に動かします）。対応する再構成スライスが表示されます。
- マウスまたはキーパッドのスクロールホイールを回して表示箇所を変更します。
- スラブ厚バーを使い、表示するスライス数を調整します（「[スラブ厚の変更](#)『119 ページ』」を参照）。

ユーザー設定で、マウス/キーパッドホイールのモードを Sequential (シーケンシャル、1 スライスずつスクロール) または Advanced (アドバンスド、一度にスライス数枚をスクロール) に設定することができます。「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)『135 ページ』」を参照してください。

5.2.3 スラブ厚の変更

スラブ厚バーを使い、表示するスライス数を変更します。

1. マウスでポインタをスラブ厚バーに重ねて V-Split カーソルを表示します。



V-Split カーソル

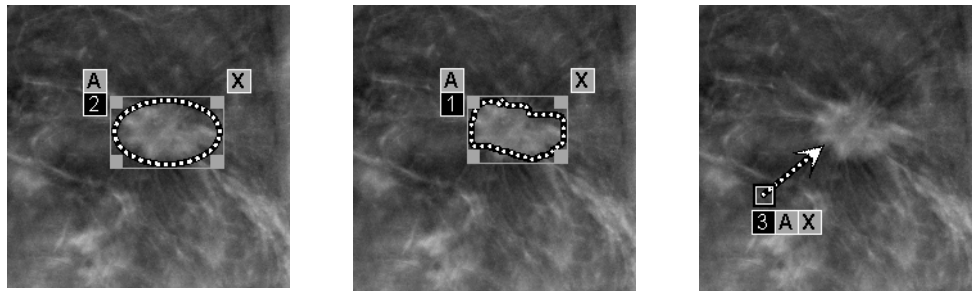
図の凡例

1. 現在のスラブ厚
 2. V-Split カーソル
2. スラブ厚を増減するには、ポインタをクリックして上下にドラッグします。現在のスラブ厚 (スライス数) がスライダーツールの右側に表示されます。
 3. スラブ厚をデフォルトにリセットするには、V-Split カーソルが有効なときにダブルクリックします。

デフォルトのスラブ厚は、ユーザー設定で設定します（「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』」を参照）。

5.2.4 Tomosynthesis 画像の注釈付け

Tomosynthesis（トモシンセシス）画像に注釈を付けるには、従来のMG画像と同じ方法で行います（「[注釈の作成と表示](#) 『92ページ』」を参照してください）。ただし、注釈を付けている Tomosynthesis 画像のスラブ厚を増すと、画像で示すとおり、スラブの中央スライスにフリーハンド、楕円形、矢印のマークが点線で表示されます。



注記

Hologic GSPS-Report（GSPS レポート）または GSPS-Notice（GSPS 通知）は、特定の DICOM 画像対象上のユーザーが作成した注釈を参照します。同じ再構成スライスまたは合成 2D の画像が複数の DICOM フォーマットで存在する場合（例えば、Hologic Secondary Capture Image、Breast Tomosynthesis Image および再構成スライスの CT Image、Digital Mammography X-Ray Image – 合成 2D の For Presentation および Breast Tomosynthesis Image など）は、その注釈は GSPS で参照された DICOM フォーマットに一致する画像でのみ表示されます。

5.2.5 シネモードの使用

1つのタイルで Tomosynthesis 投影画像セットまたは再構成スライスを「シネ」表示することができます。シネモードは、リンクされているすべてのタイルに同時に適用されます。単一タイリングのハンギングスナップショットを含む ReportFlow の手順を開始する場合に再構成された Tomosynthesis スライスにシネモードの自動有効かを設定する場合は、「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』」を参照してください。



注記

ReportFlow に含まれるハンギングスナップショットの場合にのみ、シネモードが自動的に開始されます。

シネモードを開始するには：



Cine (シネ)

1. **Cine (シネ)** をクリックするか、ワークフロー キーパッドの **Cine** を押します。SecurView によって、現在のスライスから順番にシネ表示されます。最後 (または最初) のスライスに達すると、シネ表示の方向が反転します。

**注記**

ImageChecker 3D 石灰化マークが表示されている場合、現在選択されている石灰化クラスタのスライスのみ順番にシネ表示されます。

2. シネモードを停止するには、**Cine (シネ)** を再びクリックするか、マウスまたはキーパッドのスクロールホイールを回します。

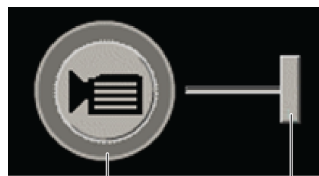
シネ表示速度を変更するには :

1. Cine (シネ) ボタンの**外縁**をクリックすると、速度コントローラが表示されます (表示されていない場合)。
2. **スライダーハンドル**を動かして、速度を低速 (左側) (毎秒5フレーム) から高速 (右側) (毎秒30フレーム) まで調整することができます。

**注記**

デフォルトの速度は、ユーザー設定で設定されています。遅いプロセッサのシステムでは、毎秒30フレームでシネ表示できない場合があります。

3. 必要に応じて Cine ボタンの**外縁**を再びクリックすると、速度コントローラが閉じます。



シネボタンと速度コントローラ

図の凡例

1. 外縁
2. 速度コントローラ

5.2.6 ローカルシネモードの使用

ローカルシネモードを使い、特定のスライス範囲を1つのタイルに表示します。スライス範囲の設定については、「[画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)『135ページ』」を参照してください。

ローカルシネモードを使用するには :

1. ローカルシネモードを開始するには、以下の3つの方法で行えます。
 - ワークフローキーパッドの **Cine** を押し続ける。
 - キーボードの **[F6]** ボタンを押し続ける。
 - マウスで **Cine (シネ)** を押したままにします。

SecurView によって現在のスライスを起点に前後のスライスが指定した数だけ表示されます。例えば、現在のスライスが25、範囲が20の場合、スライス15~35がスクロールされます。

ローカル シネ モードを起動時に正常なシネ モードが実行している場合、SecurView はローカル シネ範囲に変更します。

- ローカル シネモードの実行中、マウスホイールかキーパッドスクロールホイールを前後に回転させてローカルシネセンタースライスを変更します。センタースライスは上または下に移動しますが、スライスの範囲は変わりません。
- ローカルシネモードを停止するには、以下の3つの方法で行えます。
 - ワークフローキーパッドの **Cine** を押す。
 - キーボードの **[F6]** ボタンを押し続ける。
 - Cine (シネ)** をクリックします。

5.2.7 フォーカス

Focus (フォーカス) を使用すると、Hologic Intelligent 2D™画像の関心部位から最も代表的な再構成スライスまでの相関関係を簡単に視覚化できます。Focus (フォーカス) は1画像および2画像のタイリングで使用できます。



注記:

Focus ボタンは、Intelligent 2D 画像および対応する再構成スライスが横並びの場合にのみ、Intelligent 2D 画像のタイルに表示されます。2画像タイリングでは、左側または右側の近接するタイルに表示する必要があります。



注記:

「Omit Tomosynthesis Tools (Tomosynthesis ツールの除外)」がタイルに設定されている場合でも、Focus ボタンは表示されます (「[新しいハンギングスナップショットの作成](#)」『149ページ』) を参照してください)。

Focus を使用するには:



フォーカス

- Intelligent 2D 画像を表示しているタイルで **Focus** ボタンをクリックするか、キーボードで**[V]**キーを押して、タイルの Focus モードを有効にします。ポインタが十字線に変わり Focus モードが有効になったことを示します。



注記:

Focus モードは **Focus** ボタンがクリックされたタイルでのみ有効になります。



注記:

Focus モードは無効にしない限り、有効のまま維持されます (手順3を参照)。機能を有効にせずに単一事例で Focus を適用するには、キーボードの**[CTRL]**を押した状態で Intelligent 2D 画像内をマウスの左ボタンでクリックします。

- Intelligent 2D 画像内の関心部位をクリックします。関連する再構成スライスのタイルが最も代表的なスライスに切り替わります。

**注記:**

Focus データが破損している場合は、表示されたスライス是最も代表的なスライスにならない場合があります。

- a. ポインタが Intelligent 2D 画像のタイル内にある場合は、スクロール（例えば、スクロースホイールを使用する）が対応する再構成スライスのタイルに適用されます。
- b. シネモードがフォーカスした再構成スライスに適用されている場合は、ローカルシネモードがフォーカスされた再構成スライスにセンタースライスとして自動的に適用されます。

**注記:**

拡大鏡内をクリックすると、Focus モードは有効になりません。

**注記:**

画像の背景をクリックすると、対応するフォーカスされた再構成スライスは割り当てられません。現在表示されている再構成スライスは変更されません。

3. Intelligent 2D 画像を表示しているタイルで **Focus** ボタンをクリックするか、**[V]**キーを押して、タイルの Focus モードを無効にします。

**注記:**

Focus モードは、別の画像評価ツールを選択しても無効になりません。

**注記:**

ReportFlow の次のステップまたは前のステップに移る、別の画像を MammoNavigator から手動でドラッグする、Tomosynthesis Navigation ボタンを使用するか事前定義したハンギングボタンをクリックして別の画像に切り替えるなどにより現在のハンギングが変更されると、Focus モードは自動的に無効になります。

5.2.8 リンクされたタイルのスクロール

タイルがリンクされている場合、1つのタイルで再構成スライスまたは投影画像をスクロールすると、リンクされている他のタイルの再構成スライスも自動的にスクロールします。リンクされたスクロールは、同じ間隔または異なる間隔の再構成スライス、スラブ、投影画像で動作します。

**注記**

連動スクロールは、異なるタイルに同じ種類の画像（Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像）が表示されている場合にのみ使用できます。

連動スクロールを使用するには：

1. リンクスクロールを開始するには、1つまたは複数のタイルに再構成スライス（または投影画像）を表示します。
2. 画像を右クリックして、パイメニューから **Link Tile (タイルをリンク)** を選択します。リンクする各タイルで上記手順を繰り返します。インジケータアイコンが各リンクタイルに表示されます。



Link Tile (タイルのリンク)



注記

また、ハンギングスナップショット設定からリンクのオンとオフを切り替えることもできます。

3. リンクスクロールを実行するには：
 - マウスホイールを回します。または
 - リンクタイルのスライダーハンドルを移動します。または
 - シネモードを開始します。

マウスホイールやスライダーを使用する場合は、**Shift** キーを押したまま一時的にリンクスクロールをオフにすることができます。

5.2.9 動画のエクスポート

Tomosynthesis 再構成スライスまたは Tomosynthesis 投影画像のスクロール動画をエクスポートすることができます。

動画をエクスポートするには：

1. 画像を右クリックしてパイメニューを開き、**Image Tools (画像ツール)** をポイントしてサブパイメニューを開きます。



動画のエクスポート

2. **Export Movie (動画をエクスポート)** をクリックして **Export Movie (動画をエクスポート)** ダイアログを開きます。このボタンは、ビューアーに Tomosynthesis 投影画像または再構成スライスが表示されているときのみ使用できます。

Export Tomosynthesis Movie

Video Settings

Resolution: Width 768 pixel

Height 1024 pixel

Speed: 6 fps

Initial Slice

Top

Middle

Bottom

Dorsal/Ventral

Right Breast on Left Side (Dorsal)

Left Breast on Left Side (Ventral)

Rocking Loop

Burn in Frame Number

Cancel Export

- **Video Settings (ビデオ設定)** で、**Resolution (Width, Height)** (解像度 (幅、高さ)) と **Speed (速度、fps: 毎秒フレーム数)** を選択します。最大解像度は 2048 × 2460 ピクセル、最大速度は 120 fps です。
 - **Initial Slice (最初のスライス)** で、動画の開始スライスを選択します。中央スライスを選択した場合 (Middle)、下にある **Rocking Loop (ロッキンググループ)** モードも選択します。
 - **Dorsal/Ventral (背側/腹側)** で、動画の方向を選択します。
 - **Rocking Loop (ロッキンググループ)** を選択すると、動画が中央スライスから開始され、最上部のスライスまでスクロールしてから最下部のスライスまでスクロールし、中央スライスに戻ります。
 - **Burn in Frame Number (フレーム番号を記録)** を選択すると、スライス番号とスライス総数が各スライスに示されます。
3. **Export (エクスポート)** をクリックして、**Save as (名前を付けて保存)** ダイアログを開きます。パスを選択し、動画のファイル名を入力して確定します。動画のエクスポートが完了するまで、進行状況バーが表示されます。

5.3 ImageChecker 3D Calc CAD 結果の表示



注記

ImageChecker 3D Calc CAD は米国で使用することはできません。

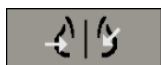
ImageChecker 3D Calc CAD は、Hologic Tomosynthesis スライスで関心領域を識別するソフトウェアアルゴリズムです。ImageChecker 3D Calc CAD 結果を生成して表示するには、以下の両方が必要となります。

- Hologic の ImageChecker 3D Calc CAD ライセンスを取得している Cenova デジタルマンモグラフィーサーバー、および
- Hologic の Tomosynthesis CAD 表示ライセンスを取得している SecurView DX ワークステーション (バージョン7.2 以上)。

患者に CAD 結果がある場合は、患者リストの CAD 列に「+」記号が表示されます。また、CAD 結果のある患者をレビューする際に、ツールバーの CAD ボタンが有効になります (グレー表示でなくなります)。

ReportFlow のステップの1つとして、CAD 結果が自動的に表示されるよう、管理者が構成することができます。

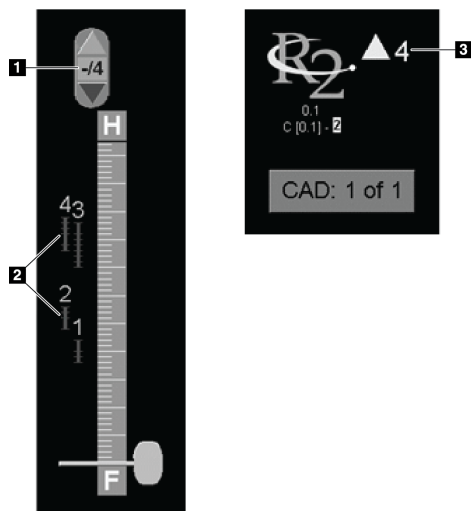
ImageChecker 3D Calc CAD 結果を表示するには :



CAD (コンピュータ支援検出)

1. Tomosynthesis スライスを表示しているときに、**Computer Aided Detection (コンピュータ支援検出)** をクリックします。

使用可能な Tomosynthesis CAD 結果がある場合、Tomosynthesis スライダーツールの隣に一連の CAD インジケータバーが表示されます。各バーは、少なくとも1つの顕著な石灰化があるスライスを示します。また、CAD オーバーレイも表示されます。



図の凡例

1. CAD ナビゲーションツール (クリックして最初の CAD マークを選択します)
2. CAD マークインジケータバー
3. CAD マークの数

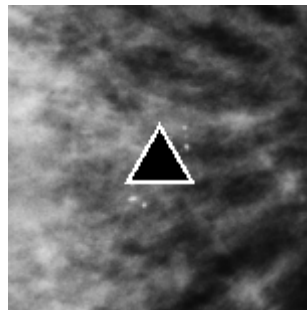
ImageChecker 3D Calc CAD インジケータ、R2 ロゴが表示されたスライダーツール

2. 最初のマークを表示するには、CAD ナビゲーションツールの **Up (上)** 矢印をクリックするか、キーボードの[W]を押します。

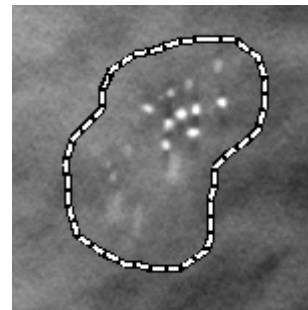
SecurView によって、最初の CAD マークおよび対応する「関心スライス」が表示されます。関心スライスは関心領域全体を最も良く表わし、一般的に石灰化を最も多く含むスライスです。また、選択されているクラスターおよび対応する CAD インジケータバーがハイライト表示されます。その他のクラスターはグレー表示されます。

CAD マークの初期表示は、表示タイリングと各ユーザーのデフォルト設定によって異なります(「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)『136ページ』」を参照)。

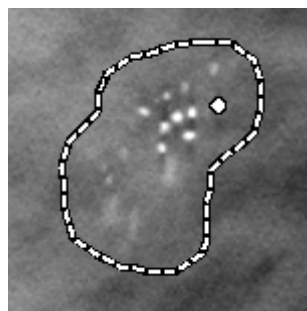
- 4 画像表示の場合、結果は RightOn CAD マークとして表示されます。
- 2 画像または 1 画像表示の場合、関心領域を点線で囲む境界線または個々の石灰化の輪郭線として CAD マークが表示されます。



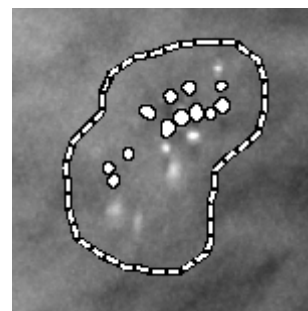
RightOn CAD マーク



CAD マーク境界線



PeerView (1 スライス)



PeerView (4 スライス)

ImageChecker 3D Calc CAD マーク

- 1 画像または2 画像表示で、以下の要領で CAD マークの表示を調整します。
 - 境界線の表示と非表示を切り替えるには、キーボードの[B]を押します。
 - PeerView マークの表示と非表示を切り替えるには、[C]を押します。
 - クラスター内の石灰化を完全な範囲で表示するには、スラブの厚みを増します（「[スラブ厚の変更](#) 『119ページ』」を参照）。
- 別の CAD マークを選択するには：
 - CAD ナビゲーションツールの **Up (上)** 矢印または **Down (下)** 矢印をクリックします。
 - 次のマークへ移動するには、キーボードの [w] を押します。
 - 前のマークへ移動するには、[S] を押します。
 - 任意の CAD インジケータバーをクリックします。選択したマークの関心スライスが表示されます。



Cine (シネ)

- シネモードを使用するには、CAD マークを選択して、**Cine (シネ)** ボタンをクリックします（または、パイメニューの **Cine** をクリックします）。現在のスライスから順番に CAD マークに対応するスライスが表示されます。クラスターの最初または最後のスライスに達すると、シネ表示の方向が反転します。
- シネモードを停止するには、**Cine** を再びクリックします。

5.4 Tomosynthesis 再構成スライスのタギング

以下に説明する方法でスライスを指定し、印刷や外部メディアへエクスポートしたり、ケースを閉じるときに設定済みの送信先へ保存します。スライスにタグを付けたら、以下を参照してください。

- [Tomosynthesis 再構成スライスの印刷](#) 『130ページ』
- [現在表示中の画像ファイルのエクスポート](#) 『201ページ』

Tomosynthesis 再構成スライスにタグを付けるには：

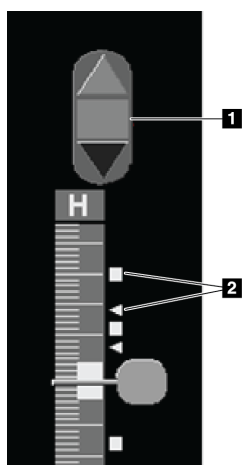
スライスを表示して、以下の操作を行います。



Tag Tomo Images (Tomosynthesis 画像にタグを付ける)

- パイメニューの **Tag Tomo Images (Tomosynthesis 画像にタグを付ける)** をクリックするか、または
- キーボードの **Spacebar (スペースバー)** を押します。

SecurView によって、対応するスライスにタグが付けられます。スライダーツールの右側に、タグを付けたスライスが小さなマークで示されます。



図の凡例

1. タグを付けた画像のナビゲーションツール
2. タグインジケータ

タグインジケータが表示されたスライダーツール



少なくとも 1 枚の再構成スライスに印刷またはエクスポートのタグを付けると、タグを付けた画像のナビゲーションツールが表示されます。また、左図のようなアイコンが表示されます。

- 次または前のタグ付けされたスライスを表示するには、ナビゲーションツールの **Arrow Up (上矢印)** または **Arrow Down (下矢印)** をクリックします。
- タグインジケータを削除するには、タグを付けたスライスを表示して、**Spacebar (スペースバー)** を押します (または、**Tag Tomo Images (Tomosynthesis 画像にタグを付ける)** を再びクリックします)。

三角形のタグインジケータの使用法：

受信した GSPS オブジェクトの別の読影者のタグマークは、三角形のタグで示されます。三角形のマークを編集することはできません。ただし、すでに三角形のマークが付いているスライスにタグを付けると、以前の三角形が上書きされて四角形のタグインジケータとして表示されます。

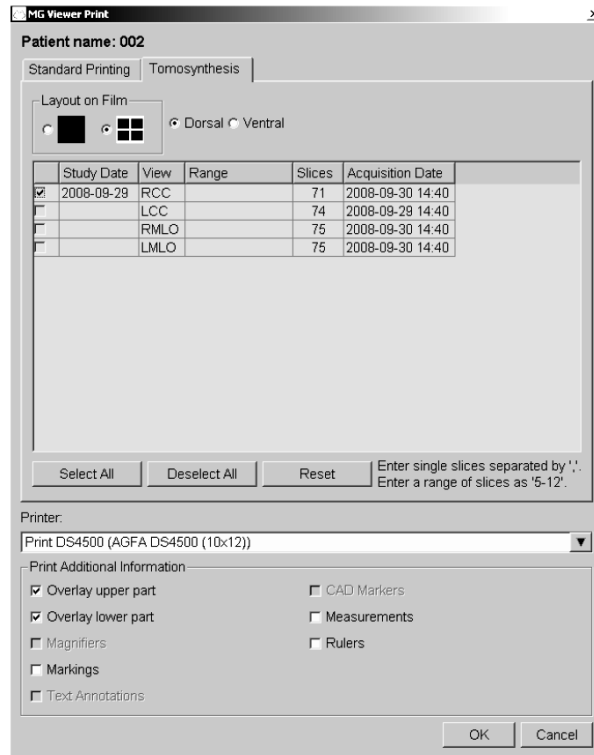
5.5 Tomosynthesis 再構成スライスの印刷

Tomosynthesis 再構成スライスを印刷するには、スライスにタグを付けるか（「[Tomosynthesis 再構成スライスのタギング](#) 『129ページ』」を参照）、または Print（印刷）ダイアログで指定して（以下の説明を参照）、印刷するスライスを最初に指定しておく必要があります。



DICOM Print (DICOM 印刷)

1. ツールバーで、**DICOM Print (DICOM 印刷)** をクリックして「印刷」ダイアログを表示します。



2. **Layout on Film** (フィルムのレイアウト) を選択し、**Dorsal** (背側) または **Ventral** (腹側) を選択します。
 - 4 画像表示を選択すると、選択したフィルムサイズに従い、対応する 4 分画に合わせて画像が印刷されます。
 - 1 画像表示を選択すると、可能であれば実寸で画像が印刷されます。実寸印刷ができないフィルムサイズの場合には、フィルム部分に合わせて印刷されます。
 - 印刷する再構成スライス数が 1 枚のフィルムに印刷しきれない場合は、SecurView によって画像が数枚のフィルムに配分されます。
 - 側性とビューが新しくなると、新しいフィルムに印刷されます。
3. 1 番目の列のチェックボックスを選択すると、**reconstructed views of a study** (ケースの再構成ビュー) が選択されます。**Range** (範囲) の列には、印刷のためタグが付けられているスライス数が表示されます。
4. ボックスをクリックして、個々のスライス番号、スライス範囲 (ハイフンで示す。例「10-15」)、個々のスライス (カンマで区切り昇順で示す。例「10,12,20,25」) を入力します。
5. すべての再構成ビューを選択する場合は、**Select All** (すべて選択) をクリックします。選択内容をすべて消去するには、**Deselect All** (すべて選択解除) をクリックします。Tomosynthesis (トモシンセシス) タブに行った変更をすべてリセットするには、**Reset** (リセット) をクリックします。
6. 下部で、印刷する追加情報を選択します。
7. **OK** をクリックして画像を印刷します。(必要な場合は、すぐに **DICOM Print** (DICOM 印刷) をクリックすると、以前の印刷ジョブが完了する前に新しい印刷ジョブを開始できます。)

第6章 ユーザー設定

- [ワークフローのユーザー設定](#) 『134ページ』
- [画像プレゼンテーションのユーザー設定](#) 『135ページ』
- [ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』
- [ユーザープロファイルの設定](#) 『141ページ』

この章では、ユーザーごとに設定を定義する方法について説明しています。SecurView では、ワークフローを最適化するため放射線専門医および検査技師ユーザーがインタフェースをカスタマイズすることができます。新しい SecurView ユーザーとして管理者によって追加された後に、自分のシステム プロファイルを構成することができます。

ユーザー設定はデフォルト設定である点に留意してください。患者データを表示する際に、必要に応じていつでも表示オプションを変更することができます。

User Preferences (ユーザー設定) タブを表示するには

メイン画面で、**Administration (管理)** をクリックします。次に、**User Preferences (ユーザー設定)** をクリックして Workflow (ワークフロー) タブを表示します (下図は一部分です)。

Patient Manager		User Preferences		About	
Workflow		Image Presentation		Tools and Overlays	
Image Presentation		Tools and Overlays		User Profile	
Review and Session Worklist Sorting <input checked="" type="radio"/> Click Order in Patient List <input type="radio"/> Study Date <input type="radio"/> Alphabetically Automatic Worklist Sorting		Sending Annotations, Tagged Tomo, ScreenCaptures In the Close Study Dialog, check the following options by default: <input checked="" type="checkbox"/> Send Notices <input checked="" type="checkbox"/> Store Annotations and Tagged Tomo Slices <input checked="" type="checkbox"/> Store ScreenCaptures			



注記

ここに示されている User Preferences (ユーザー設定) タブは、放射線専門医ユーザー用のものです。

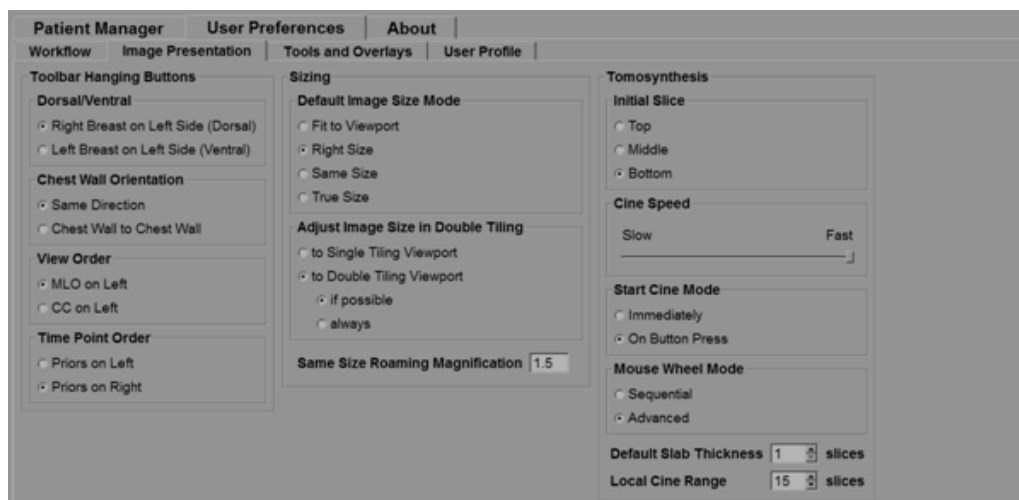
4 つの User Preferences (ユーザー設定) タブについて以下に説明します。各タブで、必要な設定を選択します。終了したら、**Apply (適用)** (ウィンドウの右下) をクリックして選択内容を保存します。

エディター)を開きます (『SecurView Advanced Multimodality Option User Guide』を参照してください。)

- **Sending Notices, Annotations, Tagged Tomo, ScreenCaptures, Also including Old/Read Studies** (注釈、タグ付き Tomo、スクリーンキャプチャ、既存/読影済みケースの送信) – SecurView DX では、それぞれの送信先をサービスエンジニアが設定している場合に、これらのオプションを使用できます。その場合、これらのオプションのいずれかを選択しておく、Close Study (ケースを閉じる) ダイアログを開いたときに SecurView によって自動的に確認されます。これらの設定は、Close Study ダイアログで患者ごとに変更することができます (「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください)。
- **Missed View Safety Warning (見落とししたビューに関する安全警告)** – SecurView DX の場合、ケースを閉じる際にすべての画像を 1 画像 (または 2 画像) タイリングモードでレビューしていない場合に警告メッセージを表示させることができます (「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください)。
- **Receiving Notices (受信通知)** – ワークステーションが別の Hologic ワークステーションから通知を受信したら、SecurView に知らせたい場合にこのオプションを選択します (「[通知の送信と表示](#) 『100ページ』」を参照してください)。
- **Patient Search Default Focus (PACS/Local、患者検索デフォルト フォーカス)** – 患者検索を実行する時に、患者 ID または患者名をデフォルトの入力フィールドとして設定します (「[患者の検索](#) 『39ページ』」を参照)。

6.2 画像プレゼンテーションのユーザー設定

Image Presentation (画像プレゼンテーション) タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

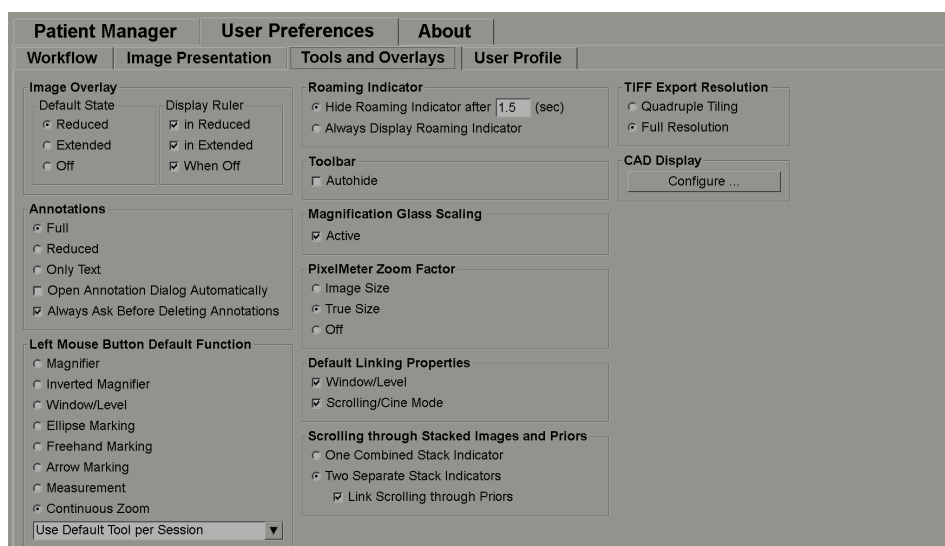


選択を終えたら、**Apply (適用)** (画面右下) をクリックして設定を保存します。

- **Toolbar Hanging Buttons (ツールバーのハンギングボタン)** : 画像ハンギングボタンを使用するときの画像の配置、方向、順序を指定します。「画像ハンギング」を参照してください。
- **Sizing (サイジング)** :
 - デフォルトの**画像サイズモード**によってデフォルトの画像スケーリングモードが設定されます。
 - **Double Tiling (2 画像タイリング)**での**画像サイズの調整**によって、Double Tiling (2 画像タイリング) で表示される画像を拡大縮小するために使用されるビューポートのサイズが設定されます。ビューポートに合わせるスケーリングモード、**Right Size (適正サイズ)**、**Same Size (同じサイズ)**に適用されます。詳しくは、「[スケーリングモード](#)『62ページ』」を参照してください。SecurView バージョン 8.2 以前で表示される動作を有効にするには、**ビューポートを Single Tiling (1 画像タイリング)** するオプションを使用してください。
 - **Same Size Roaming Magnification (同じサイズでローミング拡大)** を選択すると、この画像サイズモードのデジタル拡大倍率が設定されます(1.0~2.0 の少数)。「[スケーリングモード](#)『62ページ』」を参照してください。
- **Tomosynthesis (トモシンセシス)** : SecurView が Tomosynthesis 組み合わせ研究の画像を表示方法を設定するのに使用します。「[Tomosynthesis 画像の使用方法](#)『113ページ』」を参照してください。
 - **Initial Slice (最初のスライス)** — Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像を表示するときに最初に表示されるスライスを設定します。
 - **Cine Speed (シネ表示速度)** — SecurView でのシネモードで表示される Tomosynthesis 画像シーケンスの表示速度を設定します。範囲は、毎秒 5~30 フレーム数です。
 - **Start Cine Mode (シネモードの開始)** — で単一タイリングの ReportFlow ハンギングスナップショットの再構成された Tomosynthesis スライスのシネモードの自動開始または手動による開始を設定できます。
 - **Mouse Wheel Mode (マウスホイールモード)** — Tomosynthesis スライスをスクロールするときのマウスホイールの動作を、Sequential (シーケンシャル、1 スライスずつスクロール) または Advanced (アドバンスト、一度に数枚スクロール) に設定します。
 - **Default Slab Thickness (デフォルトのスラブ厚)** — 画像を表示するときに単一の表示可能なエンティティに組み合わせるデフォルトのスライス数を設定します。
 - **Local Cine Range (ローカルシネ範囲)** — ローカルシネモードで表示するスライスの数を設定します。範囲は、毎秒 3 ~ 99 スライス数です。

6.3 ツールとオーバーレイのユーザー設定

Tools and Overlays（ツールとオーバーレイ）タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



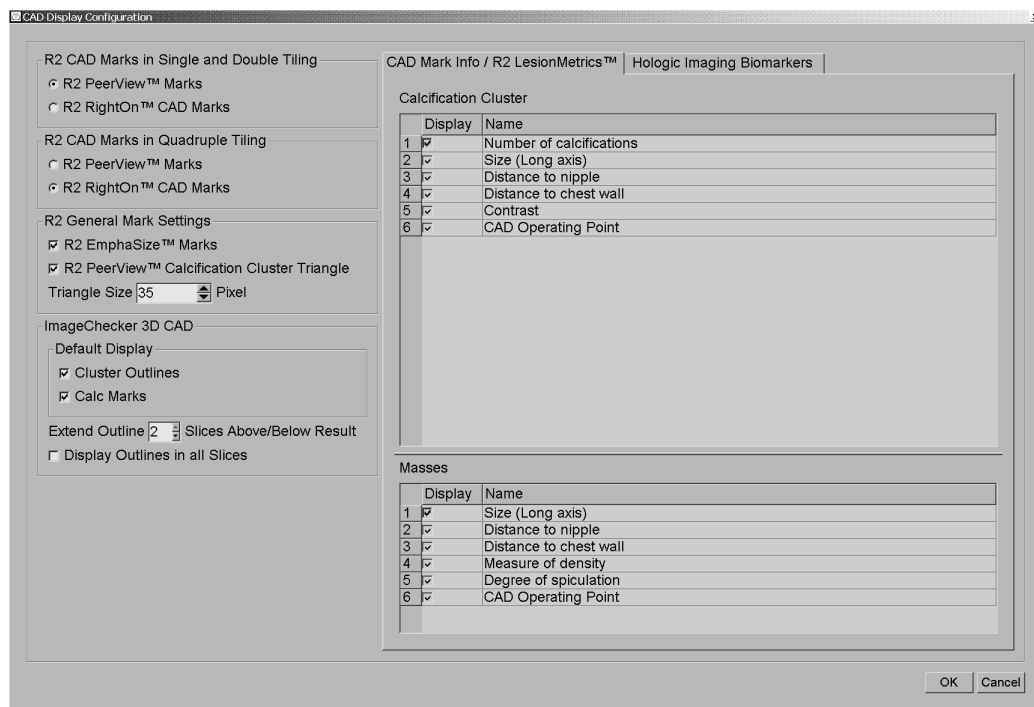
選択を終えたら、**Apply（適用）**（画面右下）をクリックして設定を保存します。

- Image Overlay（画像オーバーレイ）**：レビューのときに、画像オーバーレイを使い、現在表示されている画像の患者情報を表示できます。Reduced（縮小）または Extended（拡張）モードでは、管理者がそのモードに構成した情報が表示されます（「[患者情報オーバーレイ](#)『68ページ』」を参照してください）。
- Annotations（注釈）**：楕円形、フリーハンドまたは矢印のマーキングに説明テキストを追加したときの SecurView の動作を指定します。例えば、事前に定義された分類の Full（フル）セットまたは Reduced（縮小）セットから選択する、作成しておいた事前定義のテキストから選択する、テキストを入力できるスペースをダイアログに表示する、といった具合に設定できます（「[注釈の作成と表示](#)『92ページ』」を参照してください）。
- Left Mouse Button Default Function（マウスの左ボタンのデフォルトの機能）**：マウスの左ボタンに割り当てるデフォルトの画像ツールを指定します。
 - Use Default Tool per Session（セッション毎にデフォルトのツールを使用）** - 患者レビュー セッションで新しい左マウス ボタン ツールを選択した場合、あなたが次の患者をレビューしている時も選択されたツールが選択されたままで残ります。
 - Use Default Tool per Patient（患者毎にデフォルトのツールを使用）** - 患者レビューセッションで新しい左マウス ボタン ツールを選択した場合でも、あなたが次の患者をレビューしている時に、ツールがユーザーデフォルトに戻ります。
- Roaming Indicator（ローミングインジケータ）**：ローミングインジケータの動作を指定します。「[インテリジェント ローミング](#)『59ページ』」を参照してください。

- **Toolbar (ツールバー)** : MG Viewer ツールバーを表示するかどうか指定します。ツールバーを非表示する場合は、キーパッドやキーボードを使用してコマンドを入力する必要があります。ツールバーを表示 (非表示) するには、**【*】** を押します。
- **Magnification Glass Scaling (拡大鏡のスケールリング)** : 拡大鏡ツールを使用するときに、メートル法のスケールリング線を表示するかどうか指定します (「[拡大鏡と反転拡大鏡](#) 『73ページ』」を参照してください)。
- **Pixel Meter Zoom Factor (ピクセルメーターのズーム倍率)** : ピクセルメーターのズーム倍率を、Image Size (画像サイズ、元の画像のピクセルサイズを基準とする) または True Size (実寸、物理的な実寸を基準とする) に指定します。また、ピクセルメーターをオフにすることもできます (「[ピクセルメーター](#) 『63ページ』」を参照)。
- **Default Linking Properties (デフォルトのリンクプロパティ)** : 指定するすべてのタイルがリンクされて動作するよう設定します。

Window/Level (ウィンドウ/レベル) を選択すると、リンクされているすべてのタイルでウィンドウ/レベルパラメータを同時に変更できます (「[ウィンドウ/レベルとガンマの調整](#) 『78ページ』」を参照)。

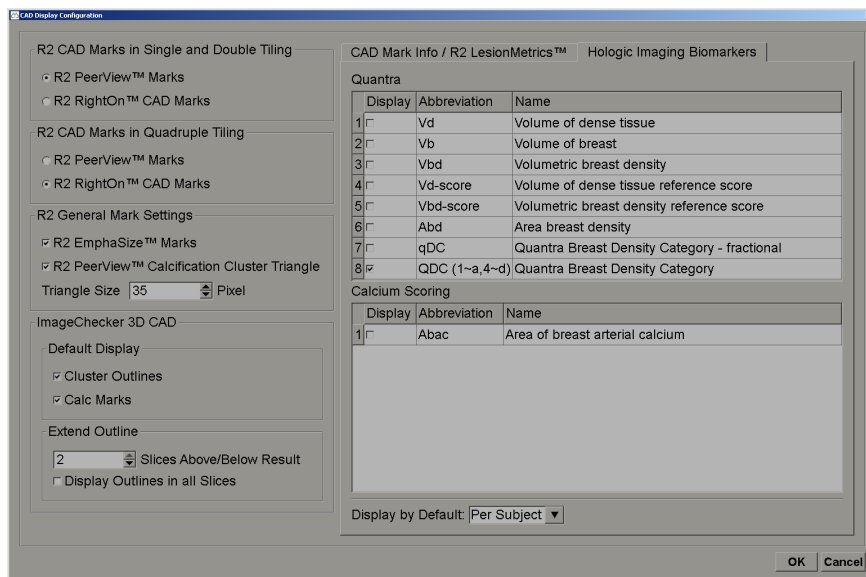
Scrolling/Cine Mode (スクロール/シネモード) を選択すると、リンクされているすべてのタイルをシネ表示できます (「[シネモードの使用](#) 『120ページ』」を参照)。
- **Scrolling through Stacked Images and Priors (画像と以前の画像スタックのスクロール)** : 1つのタイルに複数の画像が表示されている場合、スタックインジケータを1つまたは2つ表示することができます (「[スタックおよびタイムポイントインジケータ](#)」を参照してください)。**Link Scrolling through Priors (以前の画像を連動スクロール)** を選択すると、スタック インジケータを使い、すべてのタイルスタックを同時にスクロールすることができます。
- **TIFF Export Resolution (TIFF エクスポート解像度)** : エクスポートする Tiff 画像の解像度を指定します (「[現在表示中の画像ファイルのエクスポート](#)」を参照してください)。
- **CAD Display (CAD 表示)** : MG Viewer で CAD マークをどのように表示するか指定します。**Configure... (構成)** をクリックすると、以下のような画面が表示されます。



注記

製品ライセンスがある場合のみ ImageChecker 3D CAD セクションが表示されます。

Hologic Imaging Biomarkers (Hologic イメージング バイオマーカー) タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



**注記**

バイオマーカーの表示は可用性によって左右されます。詳細については、お客様の地域の営業担当者へご確認ください。

**注記**

バイオマーカーの結果内容は Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムバージョンによって異なる場合があります。

6.4 ユーザープロファイルの設定

User Profile (ユーザープロファイル) タブを選択すると、下図の表な画面が表示されます。

設定を終了したら、**Apply (適用)** (画面右下) をクリックします。

- User Profile (ユーザープロファイル)** : 自分の名前、パスワード、また必要な場合は電子メールアドレスを入力できます。User Name (ユーザー名) フィールドは管理者が設定する必要があります。
- Auto Log-off (自動ログオフ)** : ここで設定した時間内に何か操作を行わないと、自動的にログオフされます。
- Synchronization Credentials (同期証明書)** : 外部アプリケーションにおける読影者のユーザー名とパスワードを入力します (SecurView で使用されているものと異なる場合で、ログイン/ログアウト同期がサポートされている場合)。ログイン/ログアウト同期がサポートされている場合、Active Directory のユーザーは、レビューする人のユーザー名およびパスワードを入力する必要があります。

- **Synchronize with External Application (外部アプリケーションとの同期)** : 外部アプリケーションとの同期に関するユーザー設定を行います。「[外部アプリケーションとの患者の同期](#)『111ページ』」を参照してください。
- **On login and logout (ログインおよびログアウト)** : 外部アプリケーションがログインおよびログアウトのメッセージの受信に対応している場合にのみ、この設定は適用します。ボックスが選択されていて、SecurView にログイン (またはログアウト) すると、ワークステーションは外部アプリケーションにログイン (ログアウト) するように同期メッセージを送信します。
- **When opening a patient (患者データを開く場合)** : 外部アプリケーションが Open Patient (患者データを開く) メッセージの受信に対応している場合にのみ、この設定は適用します。ボックスが選択されていて、SecurView で患者データを開くと、ワークステーションは外部アプリケーションに患者データを開くように同期メッセージを送信します。
- **When marking a study as 'Read' (ケースを「Read (読影済み)」としてマークする場合)** : 外部アプリケーションが Update Patient State (患者状態を更新) メッセージの受信に対応している場合にのみ、この設定は適用します。このボックスが選択されていて、SecurView でケースを閉じると、ワークステーションは外部アプリケーションで患者状態を更新するように同期メッセージを送信します。



注記

現時点では、Hologic MultiView ワークステーションのみがケースを閉じる際の同期に対応しています。

- **Ask me to select the study to synchronize (同期するケースを選択するメッセージを表示)** : 外部アプリケーションが Open Patient (患者データを開く) メッセージの受信に対応している場合にのみ、この設定は適用します。ボックスが選択されていて、SecurView で患者データを開くと、ワークステーションはダイアログを開いて SecurView で患者に使用可能なケースの一覧を表示します。一覧からケースを選択すると、ワークステーションは外部アプリケーションに同じケースを開くように同期メッセージを送信します。患者の複数の未読ケースが通常起きる場合 (例えば、マンモグラフィと超音波) で、アクセッション番号にバーコードを付けて患者を開かず、送信するケースを制御する場合にこの設定は便利です。
- **Incoming Synchronization Requests (受信同期要求)** :
 - **When opening a patient (患者データを開く場合)** : 外部アプリケーションが Open Patient (患者データを開く) メッセージの送信に対応している場合にのみ「Notify if patient not available (患者が有効でないかどうかを通知する)」設定が適用されます。SecurView で利用不可能な患者の Open Patient (患者データを開く) メッセージの受信時に SecurView にエラー メッセージを表示する場合は、このボックスを選択します。
 - **When Updating the Patient State (患者状態を更新する場合)** : 外部アプリケーションが Update Patient State (患者状態を更新) メッセージの送信に対応している場合にのみ、この設定は適用します。
 - **Mark only specified studies as read (指定したケースのみ「Read (読影済み)」としてマークする)** : 外部アプリケーションから受信する同期要求の基準が一致するケースのみ「Read (読影済み)」としてマークされます。外部アプ

リケーションがケースレベルの情報を提供しない場合、患者のすべてのケースが「Read (読影済み)」とマークされます。

- **Mark all studies of the patient as read (患者のすべてのケースを「Read (読影済み)」とマークする)** : 患者の該当するすべてのケースが「Read (読影済み)」とマークされます。外部アプリケーションから受信したケースレベルの情報は無視されます。

**注記**

放射線専門医のユーザーがログインした場合にのみ、SecurView は受信した Open Patient (患者を開く) メッセージに対応します。識別された患者またはケースが SecurView がない場合、ビューアが閉じます。

**注意 :**

放射線専門医のユーザーがログインした場合にのみ SecurView は受信した Update Patient State (患者状態の更新) メッセージに対応し、識別された患者がビューアで開き、識別された患者は別のユーザーにロックされません。SecurView は受信した Update Patient State (患者状態の更新) メッセージを拒否または無視した場合、ケース状態は変更されず、外部アプリケーションと同期できません。

第7章 ハンギングスナップショットと ReportFlows

- [ReportFlow の表示](#) 『145ページ』
- [ハンギングスナップショットの表示](#) 『146ページ』
- [ハンギングスナップショットの作成と編集](#) 『147ページ』
- [ReportFlows](#) 『156ページ』
- [ReportFlow を手順にリンクさせる](#) 『159ページ』
- [新しいReportFlow の作成](#) 『160ページ』
- [ReportFlow のユーザー設定](#) 『162ページ』

この章では、ハンギング スナップショットと ReportFlows の概要と、放射線専門医が日常的な使用のために特定の ReportFlows をどのように選択できるか、またハンギング スナップショットと ReportFlows の作成方法と変更方法について説明しています。

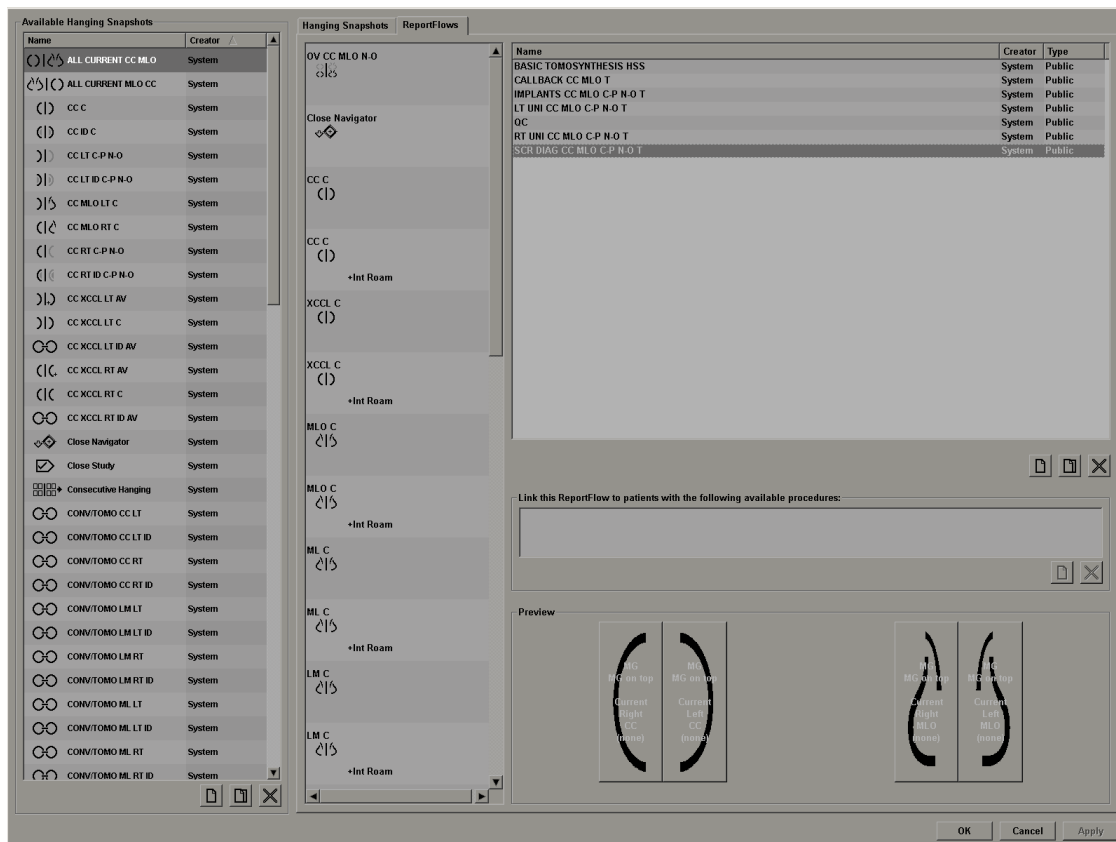
7.1 ReportFlow の表示

SecurView で提供されているデフォルトの ReportFlow セットを使い、多くの共通タイプのケースを表示することができます。

使用可能な ReportFlow を見るには：

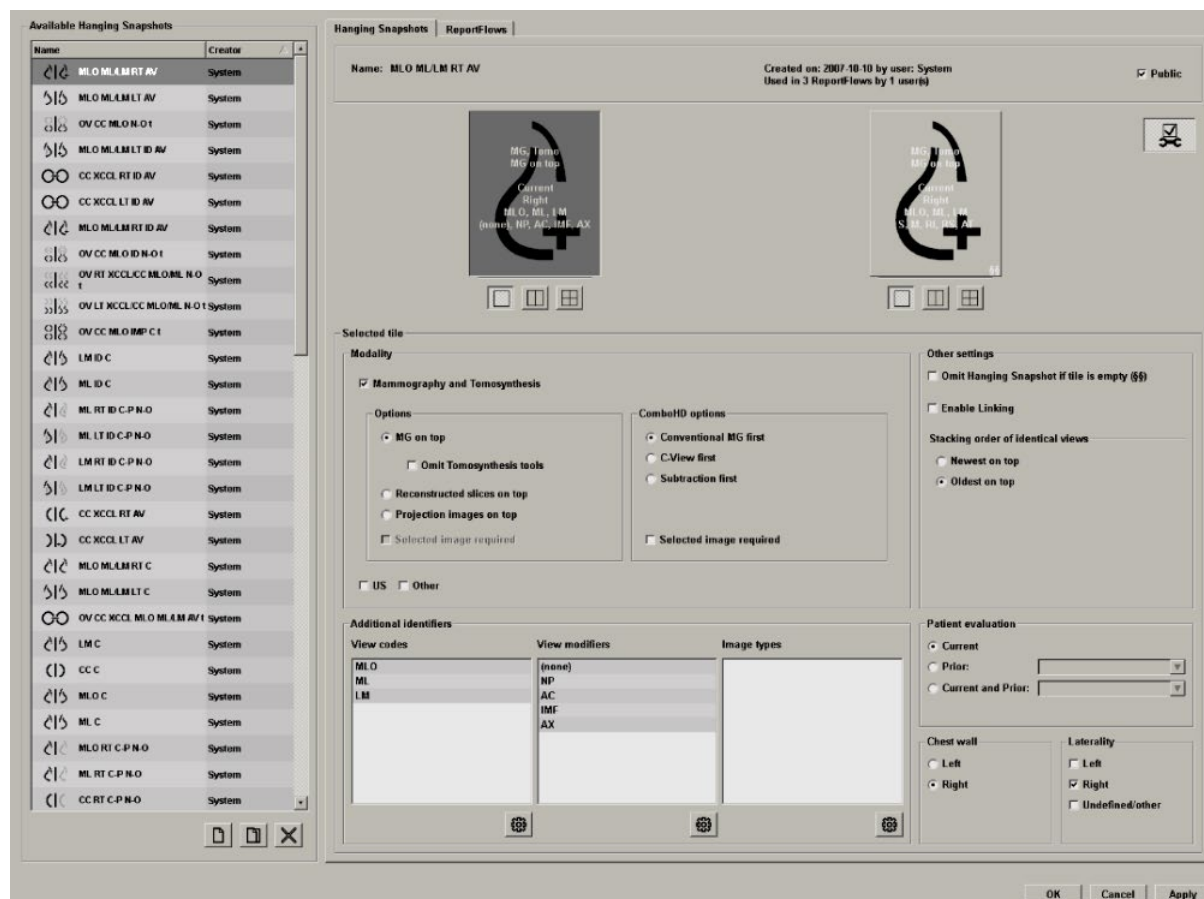
1. Administration (管理) モジュールで、**User Preferences (ユーザー設定)** を選択し、**Workflow (ワークフロー)** を選択します。
2. Hanging Snapshots and ReportFlows (ハンギングスナップショットと ReportFlows) グループで、**Configure... (構成)** をクリックすると構成ウィンドウが開き、ReportFlows タブが初期表示されます。

最上部には、Hanging Snapshots (ハンギングスナップショット)、ReportFlows (レポートフロー)、Preferences (ユーザー設定) の3つのタブがあります。使用可能なハンギングのリストが左側に表示されます。ReportFlow の現在のリストが右側に表示されます。



7.2 ハンギングスナップショットの表示

ハンギングスナップショットとは、1つまたは複数のディスプレイに指定されたレイアウトで表示される画像セットです。Hanging Snapshots（ハンギングスナップショット）タブをクリックすると、現在選択されているハンギングスナップショットの編集ウィンドウが表示されます（下図の例を参照）。



ハンギングスナップショットごとに以下が表示されます。

- 名称と種類が最上部に表示されます。
- その下に個々のタイリングが表示されます（大きなタイルは1つのディスプレイを表わします）。プレビューに、モダリティ、時間ポイント（現在または以前）、側性、ビューコード、ビューコードのアイコン、ビュー変更子、画像タイプ、ハンギングスナップショット変更子が表示されます。
- 選択されているタイルのプロパティが最下部に表示されます。

7.3 ハンギングスナップショットの作成と編集

SecurView ワークステーションには、2つのレベルのハンギングスナップショットがあります。

- システムレベルのハンギングスナップショットは、システムに最初から備わっているか、管理者ユーザーによって作成されたものです。これらのハンギングスナップショットの編集は、管理者ユーザーだけが行えます。
- ユーザー定義のハンギングスナップショットは、放射線専門医であるユーザーにより作成され、以下のいずれかに向けて設定されます。

- すべてのユーザー - デフォルトでは、「Public」が選択されています。
- 個々のユーザー - 「Public」を選択することはできません。

新しいハンギングスナップショットを作成すると、使用可能なハンギングリストのCreator（作成者）列に作成者の名前が表示されます。

以降で説明するように、ハンギングスナップショットを作成したり編集することができます。

- [新しいハンギングスナップショットの作成](#) 『149ページ』
- [ハンギングスナップショットのコピーと編集](#) 『153ページ』
- [ハンギングスナップショットの名前変更](#) 『153ページ』
- [ハンギングスナップショットのアイコンの変更](#) 『155ページ』

7.3.1 新しいハンギングスナップショットの作成

新しいハンギングスナップショットを作成するには、**New** (新規) ボタンを使用します。または、**Copy** (コピー) ボタンを使い、既存のハンギングスナップショットをコピーして編集します (「[ハンギングスナップショットのコピーと編集](#) 『153ページ』」を参照してください)。

ハンギングスナップショットを新規作成するには：



New (新規)

1. **Hanging Snapshot** (ハンギングスナップショット) タブをクリックします。次に、使用可能なハンギングリストの下にある **New** (新規) をクリックします。

New Hanging Snapshot

Enter name for this Hanging Snapshot:

New Hanging Snapshot

OK Cancel

2. 新しいハンギングスナップショットの名前を入力して、**OK** をクリックします。使用可能なハンギングリストの一番下に、新しいハンギングスナップショットのアイコンが追加されます。新しいハンギングスナップショットの名称の右側に、作成者のユーザー名が表示されます。



デフォルトによって、SecurView では「カスタム」ハンギングが左上の図のようなアイコンで示されます。



注記

カスタムハンギングの名称を変更する、または別のアイコンを割り当てるには、**Available Hangings** (使用可能なハンギング) 列でハンギングスナップショットの名称を右クリックします。



1 画像タイリング



2 画像タイリング



4 画像タイリング

3. **Single Tiling (1 画像タイリング)**、**Double Tiling (2 画像タイリング)**、または **Quadruple Tiling (4 画像タイリング)** をクリックして、プレビュー領域の表示ごとのタイリングを選択します。
4. 指定したいタイルをクリックして、**Selected tile (選択したタイル)** 領域からプロパティを割り当てます。

Modality (モダリティ) – マンモグラフィー (Tomosynthesis を含む)、超音波、その他です。Hologic マンモグラフィー画像の場合、どの画像タイプを最初にビューポートに表示するかを構成できます。

- **Options (オプション)** — *MG on top (Mg を最上部に)*、*Reconstructed slices on top (再構成スライスを最上部に)*、または *Projection images on top (投影画像を最上部に)*。設定した画像を最上部に表示します。
- **Omit Tomosynthesis Tools (Tomosynthesis ツールの除外) (MG on top (MG を最上部に) と組み合わせる場合のみ)** — Tomosynthesis 画像と Tomosynthesis ツールは表示されません。MG 画像はスタックされます。MG 画像は、最初に表示する画像を定義する ComboHD オプションにしたがってスタック内でグループ化されます。
- **Selected image required (選択した画像が必要) (Reconstructed slices on top (再構成スライスを最上部に) または Projection images on top (投影画像を最上部に) と組み合わせる場合のみ)** — このオプションは、再構成スライスまたは投影画像が最上部に表示される場合にのみ選択することができます。このオプションが選択されると、最上部に表示するように選択されている画像タイプが利用できない場合、対応するタイルは空になります。このオプションが選択されないと、選択されている画像タイプが利用できない場合は、MG 画像が最上部に表示されます。

- **ComboHD options (ComboHD オプション)** – 構成された Hologic MG 画像が次の順序で最初に表示されます。



注記

ComboHD オプションでは、トモシンセシスライセンスが必要です。

- **従来型 MG** (ソート順序: MG、合成 2D、サブトラクション)
- **C-View 2D** (ソート順序: 合成 2D、MG、サブトラクション)
- **サブトラクション** (ソート順序: サブトラクション、MG、合成 2D)
- **Selected image required (選択した画像が必要)** – このオプションを選択すると、最上部に表示するよう選択されている MG 画像タイプが利用できない場合、対応するタイルは空になります。このオプションを選択しないと、選択されている MG 画像タイプが利用できない場合は、利用可能なトモシンセシス画像が最上部に表示されます。



注記

Selected image required (選択した画像が必要) を選択しないで **Omit Tomosynthesis Tools (Tomosynthesis ツールの除外)** を選択すると、選択されている MG 画像タイプが利用できない場合には、利用可能な MG 画像が表示されます。

Patient evaluation (患者評価) – 画像表示の時間ポイントを設定します。「Current (現在)」は、直近のケースを表します。特定の以前の時間ポイントの画像を表示する場合や、以前の画像をすべて表示する場合は、「Prior (以前)」を選択します。「Current and Prior (現在および以前)」により、1つの画像スタックで現在と以前の画像を表示できます。表示順は、最も新しい画像から最も古い画像 (*Current, Prior All (Newest) (現在、以前の画像すべて (最新))*) または最も古い画像から最も新しい画像 (*Prior All (Oldest), Current (以前の画像すべて (最も古い画像)、現在)*) です。

Laterality (側性) – Left (左側)、Right (右側)、Undefined/other (不確定/その他) から選択します。

Chest Wall (胸壁) – MG 画像の方向を指定します。

Omit Hanging Snapshot if tile is empty (タイルが空白の場合にハンギングスナップショットを省略する) – このオプションを選択すると、タイルに何も表示されていない場合にこのハンギングスナップショットが ReportFlow から省略されます。

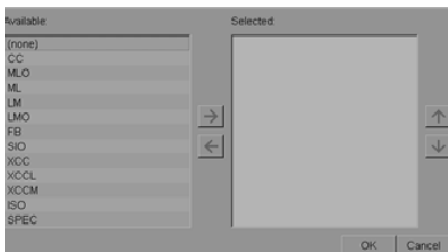
Enable Linking (リンクを有効にする) – MG 画像の場合、この設定を使用すると、リンクされているタイルのウィンドウ幅/センター値を同時に調整できます。Tomosynthesis 画像の場合、この設定を使用すると、タイルが同期され、リンクされている他のタイルと連動して自動的にスクロールします。(この設定は、パイメニューの Link Tile (タイルのリンク) オプションに対応しています。) 「[リンクされたタイルのスクロール](#) 『123ページ』」を参照してください。

Stacking order of identical views (同一ビューのスタック順序) – 同じタイル内の同一のビューを、撮像時の時間シーケンス別にスタックにまとめます。

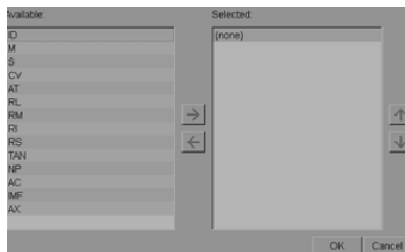


Edit (編集)

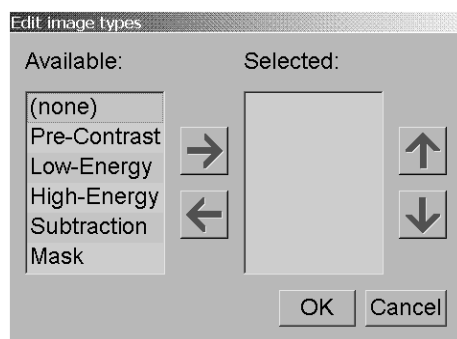
5. タイルの Additional identifiers (追加の識別子) を選択します。
 - a. View Codes (ビューコード) の下にある **Edit (編集)** をクリックして、Edit Views (ビューの編集) ダイアログを開きます。



ビューの編集



ビュー編集変更子



画像タイプの編集

- b. **Available** (使用可能なビュー) 列で目的のビューをクリックします (2つ以上クリックできます)。次に、ビューを **Selected** (選択) 列までドラッグするか、矢印を使い移動します。
 - タイル内の任意のビューまたはすべてのビューをスタックにまとめることができます。ここで選択した順序でスタックが作成されます。
 - 順序を変更するには、ビューを選択して、右側の矢印ボタンをクリックします。
 - 「(none) (なし)」を選択すると、ビューまたはビュー変更子識別子のない画像がタイルにハンクされます。
 - c. **OK** をクリックして、Edit Views (ビューの編集) ダイアログを閉じます。
6. 手順5の順序に従って繰り返し、タイルの **View Modifiers (ビュー変更子)** を選択します。
7. 手順5の順序に従って繰り返し、タイルの **Image Type (画像タイプ)** を選択します。
8. このハンギングスナップショットの他のタイルでも手順4~7を行います。
9. ハンギングスナップショットを表示するタイルをすべて定義したら、以下の操作を行います。
 - **Apply (適用)** をクリックして新しいハンギングスナップショットを保存します。(必要な場合は、編集を続けます。)
 - **OK** をクリックして、新しいハンギングスナップショットを保存し、Hanging Snapshot (ハンギングスナップショット) タブを閉じます。

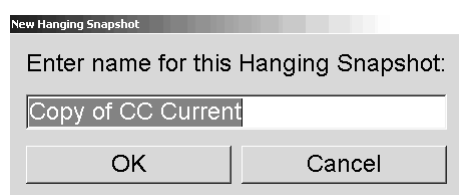
7.3.2 ハンギングスナップショットのコピーと編集

既存のハンギングスナップショットを元にして新しく作成するには、Copy (コピー) ボタンを使用します。



Copy (コピー)

1. 使用可能なハンギングリストで目的のハンギングスナップショットをクリックします。
2. **Copy (コピー)** をクリックして、コピーしたハンギングスナップショットの新しい名前を入力します。



3. 上記の手順3~9に従い、ハンギングスナップショットのプロパティを編集します。

7.3.3 ハンギングスナップショットの名前変更

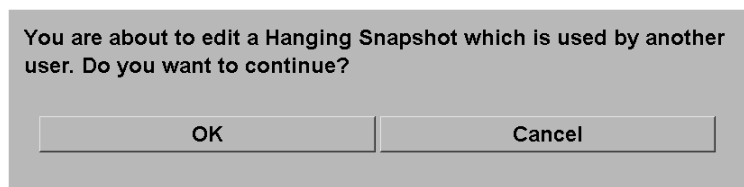
ハンギングスナップショットの名前を変更することができます(ただし、制約があります)。

- 放射線専門医ユーザーは、自分のカスタム ハンギングスナップショットの名前を変更できます。
- 管理者ユーザーは、一部のシステムレベルのハンギングスナップショットの名前を変更できます。

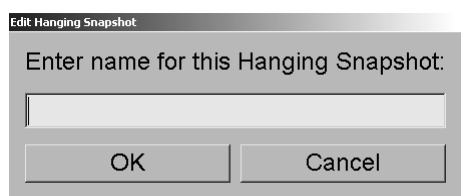
一部のシステムレベルのハンギングスナップショットは名前を変更できません。ハンギングスナップショットの名前を変更するには：

Rename
Assign icon
ショートカットメ
ニュー

1. Available Hangings (使用可能なハンギング) リストで、ハンギングスナップショットを右クリックし、ショートカットメニューから **Rename (名前の変更)** を選択します。システムレベルのハンギングスナップショットの名前を変更する場合、以下のようなメッセージが表示されます。



2. **OK** をクリックして、新しい名前を入力します。



3. 終了したら、**OK** をクリックします。

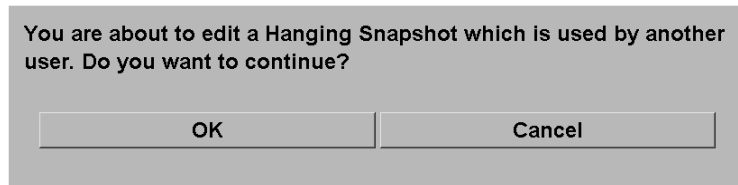
7.3.4 ハンギングスナップショットのアイコンの変更

管理者ユーザーは、システムレベルのハンギングスナップショットに指定されているアイコンを変更できます。放射線専門医ユーザーは、自分のカスタム ハンギングスナップショットに指定されているアイコンを変更できます。

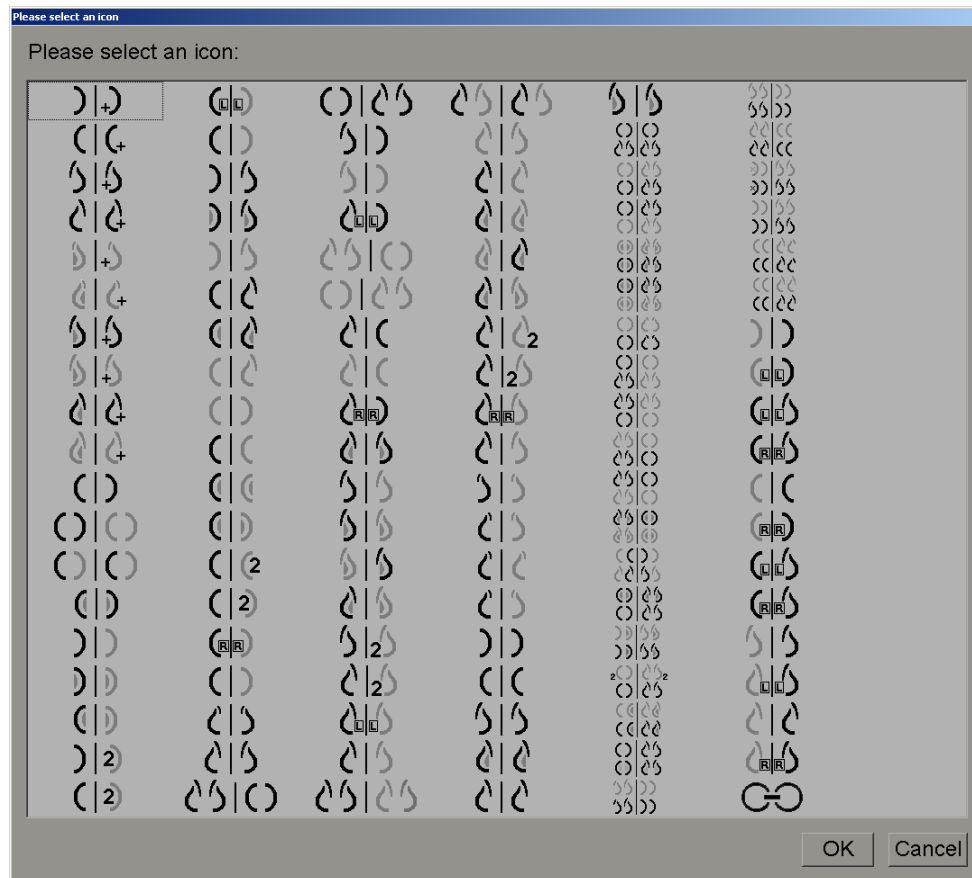
ハンギングスナップショットのアイコンを変更するには :

Rename
Assign icon
ショートカットメ
ニュー

1. Available Hangings (使用可能なハンギング) リストで、ハンギングスナップショットを右クリックし、ショートカットメニューから **Assign icon (アイコンの指定)** を選択します。システムレベルのハンギングスナップショットを編集する場合、以下のようなメッセージが表示されます。






2. **OK** をクリックして、新しいアイコンを選択します。



3. 終了したら、**OK** をクリックします。

7.4 ReportFlows

ReportFlow とは、ハンギングスナップショットとレビューステップのシーケンスです。下図でハイライト表示されている部分は、ReportFlow の例です（部分）。

Hanging Snapshots		ReportFlows	Preferences
OV MLO CC N 		Name	Enabled Creator Type
Close Navigator 		SCR DIAG MLO CC P-C O-N	✓ System Public
MLO C 		SCR DIAG MLO CC P-C N-O	✓ System Public
		SCR DIAG MLO CC C-P O-N	✓ System Public
		SCR DIAG MLO CC C-P N-O	✓ System Public
		SCR DIAG CC MLO P-C O-N	✓ System Public
		SCR DIAG CC MLO P-C N-O (1)	✓ System Public
		SCR DIAG CC MLO P-C N-O	✓ System Public
		SCR DIAG CC MLO C-P O-N	✓ System Public
		RT UNI MLO CC P-C O-N	✓ System Public
		RT UNI MLO CC P-C N-O	✓ System Public
		RT UNI MLO CC C-P O-N	✓ System Public
		RT UNI CC MLO P-C O-N	✓ System Public

ReportFlow 「SCR DIAG MLO CC C-P N-O」は、スクリーニングまたは診断用マンモグラムに使用される ReportFlow を表し、以下に説明されている画像が表示されます。

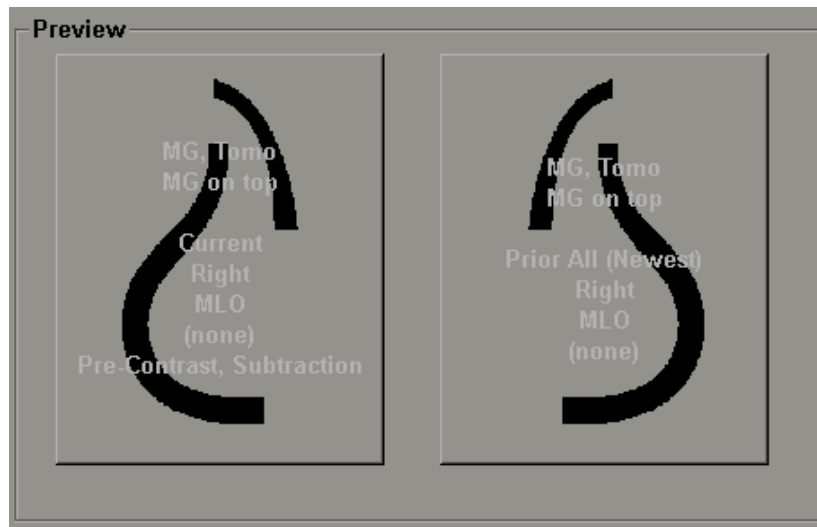
- 左側に MLO 画像、右側に CC 画像を表示。
- 最初に現在の画像を表示してから、以前の画像を表示。
- スタックの上部に新しい画像、下部に古い画像を表示。

SecurView のインストール時に一連の ReportFlow もインストールされ、ほとんどの用途に適したハンギングが提供されており、すべての放射線専門医が使用できます。放射線専門医と管理者は、必要に応じて新しい ReportFlow を作成することができます（「[新しい ReportFlow の作成](#) 『160ページ』」を参照）。患者データを開いたときに、最適な ReportFlow が自動的に選択されるよう SecurView を設定することができます（「[ReportFlow のユーザー設定](#) 『162ページ』」を参照）。また、患者レビューの際に使用可能な ReportFlow を手動で選択することもできます。

ReportFlow のステップは、左上の列に順番に表示されます。ステップをクリックすると、下図に示すように、そのハンギングの詳細が右下のプレビュー領域に表示されます。

ReportFlow の ReportFlow 手順を選択するときは、ハンギングのリストから対応するハンギングスナップショットが選択されます。

別のユーザーの個人ハンギングが、ReportFlow の ReportFlow ステップのリスト内にロックアイコンとともに表示されます。このハンギングはハンギングのリストには表示されません。選択されているハンギングは変更されません。



ReportFlow リストの右側には、3つの列があります。

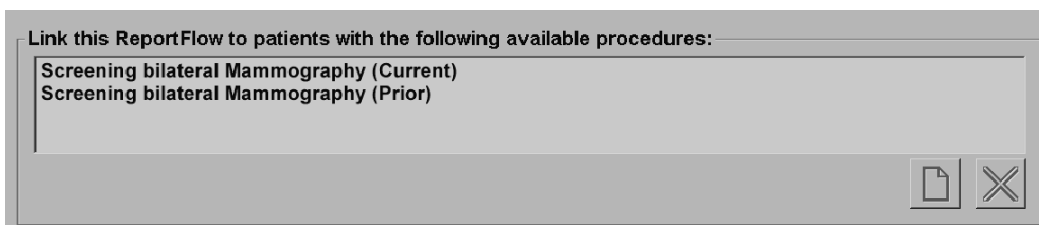
Enabled	Creator	Type
✓	System	Public
✓	System	Public
✓	System	Public
✓	System	Public
✓	System	Public

- **Enabled (有効)** : チェックボックスを選択すると、現在の放射線専門医がこの ReportFlow を使用できることを示します。
- **Creator (作成者)** : ReportFlow が管理者によって定義されたものであるか (「System (システム)」)、放射線専門といったユーザーによって定義されたものであるかを示します。新しい ReportFlow を作成すると、ReportFlow の名称の隣の Creator (作成者) 列に作成者の名前が表示されます。
- **Type (種類)** : ReportFlow の使用をすべてのユーザーに許可する「Public (共有)」か、作成者だけ「Private (個人)」に限定するかを示します。「System (システム)」レベルの ReportFlows は常に「Public (共有)」です。つまり、すべての放射線専門医ユーザーが使用できます。

Enabled (有効) 列内で右クリックして、(1) 使用または除外する ReportFlows の選択と選択解除を切り替える、(2) ReportFlow を Public (共有) または Private (個人) に設定することができます。

7.5 ReportFlow を手順にリンクさせる

ReportFlow リストのすぐ下に、**Link this ReportFlow** (この ReportFlow のリンク) ウィンドウが表示されます。



特定の ReportFlow を、マンモグラフィー画像取り込みワークステーションで検査技師が選択した手順にリンクさせることができます。各手順は、ケースの種類に関連する事前に定義された画像セットに対応しています。患者画像の DICOM ヘッダ内の情報と暗号化された手順名に基づく ReportFlow が SecurView によって使用されます。

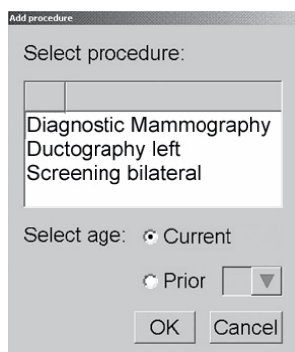
この機能を使用するには、管理者ユーザーが手順の名称を SecurView に構成する必要があります (「[検査手順の名前の構成](#) 『187ページ』」を参照してください)。また、ReportFlow Preferences (ユーザー設定) 画面で、**Select ReportFlow, based on procedure names** (手順名に基づき ReportFlow を選択する) オプションが選択されている必要があります。(「[Workflow Selection \(ワークフローの選択\)](#) 『163ページ』」を参照してください。)

ReportFlow を手順にリンクさせるには :

1. 上部の Name (名前) 列で、ReportFlow の名称をクリックします。
2. Link this ReportFlow (この ReportFlow のリンク) ウィンドウで、**New (新規)** (上図) をクリックして処置名のリストを表示します。



New (新規)



3. ReportFlow をリンクさせる手順を選択して、**Current** (現在) または **Prior** (以前) の画像を指定し、**OK** をクリックします。

7.6 新しい ReportFlow の作成

ReportFlows タブで、ReportFlow の作成、編集、削除を行うこともできます。システムレベルの ReportFlow の作成と編集は管理者が行いますが、放射線専門医ユーザーは Private (個人) または Public (共有) 用の ReportFlow を作成したり編集することができます。

新しい ReportFlow を作成するには :



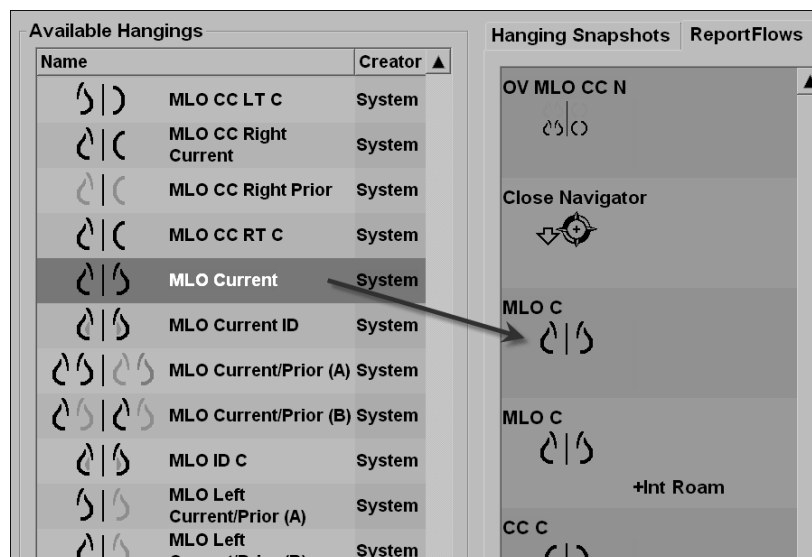
New (新規)

1. **ReportFlows** タブを選択します。次に、ReportFlow 名称リストの下にある **New (新規)** をクリックします。



Copy (コピー)

2. 新しい ReportFlow の一意の名前を入力して、**OK** をクリックします。新しい ReportFlow がリストに追加され、作成者のユーザー名が「**Creator (作成者)**」に表示され、「**Enabled (有効)**」、「**Private (個人)**」に設定されます。
 - 今作成した ReportFlow を他のユーザーも使用できるようにするには、ReportFlow の名称を右クリックして、**Public (共有)** を選択します。
 - Private (個人) に設定した ReportFlow の名前を変更するには、ReportFlow の名称を右クリックして、**Rename (名前の変更)** をクリックします。
3. ハンギングスナップショットを Available Hangings (使用可能なハンギング) リストからドラッグして、ReportFlow ステップのリストに入れます。

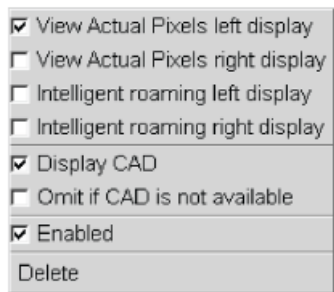


4. ReportFlow で必要なハンギングスナップショットごとに、手順を繰り返します。以下のことを行えます。
 - ハンギングスナップショットを新しい位置までドラッグして移動する。
 - ハンギングスナップショットを Available Hangings (使用可能なハンギング) リストにドラッグして戻し ReportFlow から削除する。

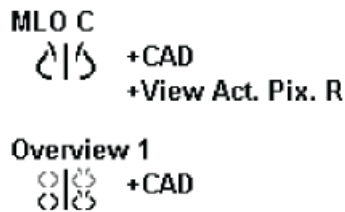
Available Hangings (使用可能なハンギング) 領域には、幾つかの機能 ReportFlow ステップもあり、ReportFlow で使用することができます。

アイコン	ReportFlow ステップ
	MammoNavigator を開く
	MammoNavigator を閉じる
	連続ハンギング - 現在の ReportFlow に含まれていない追加の画像が表示されるハンギングスナップショットです。
	外部アプリケーションとの同期
	ケースを閉じる
	Hologic Imaging Biomarkers ダイアログを開きます。次の、または前の ReportFlow のステップに変更すると、このダイアログが自動的に閉じます。

5. 必要に応じて追加のプロパティを ReportFlow 内のハンギングスナップショットに割り当てます。ハンギングスナップショットを右クリックすると、ショートカットメニューが開き、選択を行えます。



Shortcut Menu



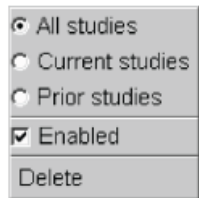
Hanging Snapshots with Modifiers



注記

ハンギングディスプレイがシングルタイリングで設定されている場合、Intelligent Roaming (インテリジェント ローミング) と View Actual Pixels を使用することができます。Intelligent Roaming または View Actual Pixels を有効化した後は、ハンギングタイリングを変更する必要はありません。

6. ReportFlow に連続ハンギングが含まれている場合は、ステップを右クリックしてショートカットメニューを開き、編集することができます。



7. ステップの定義を終えたら、
 - **Apply (適用)** をクリックして新しい ReportFlow を保存します。(必要な場合は、編集を続けます。)
 - **OK** をクリックして、新しい ReportFlow を保存し、ReportFlow タブ を閉じます。

7.7 ReportFlow のユーザー設定

Preferences (ユーザー設定) タブを使い、手順に最適な ReportFlows が選択されるようシステムを構成します。

7.7.1 Workflow Selection (ワークフローの選択)

3つのラジオボタンから1つ選択します。選択したボタンによって、患者データを開いたときに自動的に適用される ReportFlow を SecurView がどのように選択するか決まります。

- **Select ReportFlow, based on procedure names (手順名に基づき ReportFlow を選択する)** – 使用可能なケースに関連する手順記述子から ReportFlow が選択されます (「[ReportFlow を手順にリンクさせる](#) 『159ページ』」を参照)。
- **Select best matching ReportFlow, based on all images (すべての画像に基づき最適の ReportFlow を選択する)** – SecurView によって、使用可能なケースに含まれている画像やビューに基づき ReportFlow が選択されます。
- **Always use this ReportFlow by default (この ReportFlow を常に使用する)** – リスト内の手順の種類ごとに、使用可能なすべての ReportFlow が表示されるドロップダウンリストからユーザーが選択した ReportFlow が SecurView によって使用されます。



注記

患者のレビューを行う際に、必要に応じて別の ReportFlow を選択することができます。

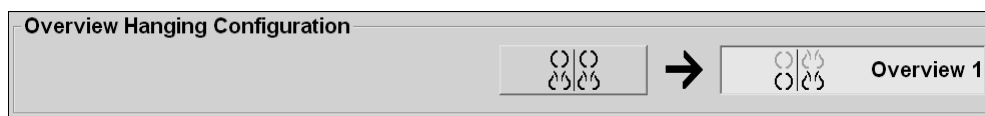
7.7.2 Overview Hanging Configuration (オーバービュー ハンギングの構成)



自分専用のオーバービューとして表示するハンギングスナップショットを選択することができます。構成された設定は、MG Viewer の左側ツールバーにある **Overview** ボタンと、専用キーボードの **Overview** キーにリンクされます（「画像ハンギング」を参照）。

自分専用のオーバービュー表示を選択するには：

Available Hangings（使用可能なハンギング）リストで、ハンギングスナップショットをクリックし、構成ボタンにドラッグします。



第8章 管理者タスク

- [管理モジュールを開く](#) 『166ページ』
- [ユーザー プロファイルの管理](#) 『167ページ』
- [管理者ユーザー プロファイル](#) 『170ページ』
- [システムレベルの設定の構成](#) 『171ページ』
- [システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成](#) 『186ページ』
- [検査手順の名前の構成](#) 『187ページ』
- [画像オーバーレイの構成](#) 『190ページ』
- [データベースのメンテナンス](#) 『193ページ』

この章では、SecurView システムの管理者が行えるユーザー管理、システムレベルの設定の構成、データベースのバックアップ作成または回復について説明します。

8.1 管理モジュールを開く

管理モジュールを使い、ユーザープロファイルの管理、システムレベルの設定、データベースのバックアップ作成や回復を行います。

管理モジュールを開くには：

1. 「**admin**」（管理者）として SecurView にログインします。
2. **Administration（管理）** タブをクリックして User Setup（ユーザー設定）ウィンドウを表示します。

Patient Manager		User Setup	User Preferences	Settings	ReportFlow	Maintenance
User Name	Name	Groups	Rights			
admin	admin admin	Administrator	User Setup			
application	application application	Administrator	User Setup			
jsmith	jsmith jsmith	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading			
mpatil	mpatil mpatil	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading			
msmith	Michael Smith	Technologist	Diagnostic Setup, Screening Setup			
r2reader	r2reader r2reader	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading			
review	User Review	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading			
service	service service	Service				
tzhang	tzhang tzhang	Case Administrator				
Add		Edit	Delete			
Help		08-11-2011 04:23:33 pm User Name: admin				OK

管理モジュールには以下のタブがあります。

- **Patient Manager（患者マネージャ）** – 現在データベースにあるすべての患者 ID、患者のケース、シリーズを患者リストに表示します。システム管理者は、新しいセッションの作成、マージ、患者の同期を行えるオプションは使用できません。
- **User Setup（ユーザー設定）**（デフォルトではこのタブが開きます）– ユーザーの追加、編集、削除に使用します。「[ユーザー プロファイルの管理](#)『167ページ』」を参照してください。
- **User Preferences（ユーザー設定）** – システム管理者のユーザー プロファイルを表示します。「[管理者ユーザー プロファイル](#)『170ページ』」を参照してください。
- **Settings（設定）** – ディスク空き容量の監視、外部アプリケーションとの同期など、システム構成を設定するために使用します。「[システムレベルの設定の構成](#)『171ページ』」を参照してください。
- **ReportFlow** – 放射線専門医ユーザーのために手順の名前を定義し、システムレベルの画像ハンギングを構成する場合に使用します。「[システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成](#)『186ページ』」を参照してください。また、ReportFlow タブでも手順の名前を設定できます。「[検査手順の名前の構成](#)『187ページ』」を参照してください。
- **Maintenance（メンテナンス）** – データベースのバックアップ、回復、メンテナンスで使用します。「[データベースのメンテナンス](#)『193ページ』」を参照してください。

- **Overlay (オーバーレイ)** – 放射線専門医のために画像オーバーレイ情報を構成する場合に使用します。「[画像オーバーレイの構成](#)『190ページ』」を参照してください。
- **About (バージョン情報)** – アプリケーションに関する情報を表示します。Hologic ヘルプデスクへお問い合わせの際は、この情報を参照してください。

8.2 ユーザー プロファイルの管理

User Setup (ユーザー設定) ウィンドウには、登録ユーザー全員のプロフィール情報が表示されます。3つのボタンを使い、ユーザー プロファイルの追加、編集、削除を行えます。

User Setup		User Preferences	Settings	ReportFlow	Maintenance	Overlay	About ◀▶
User Name	Name	Groups	Rights				
admin	admin admin	Administrator	User Setup				
application	application application	Administrator	User Setup				
jsmith	jsmith jsmith	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
mpatil	mpatil mpatil	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
msmith	Michael Smith	Technologist	Diagnostic Setup, Screening Setup				
r2reader	r2reader r2reader	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
review	User Review	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
service	service service	Service					
tzhang	tzhang tzhang	Case Administrator					

Add Edit Delete

Help 08-11-2011 04:24:33 pm User Name: admin OK

新しいユーザー プロファイルを追加するには：

1. User Setup (ユーザー設定) ウィンドウで、Add (追加) をクリックして以下のようなダイアログを表示します。

User Name:
Last Name:
First Name:
Password:
Confirm Password:

Authentication
 Use Active Directory

Groups
 Administrator
 Radiologist
 Technologist
 Service
 Case Administrator

Rights
Diagnostic
 Setup
 Reading
Screening
 Setup
 Reading
User
 Setup

OK Cancel



注記

SecurView RT の場合、Rights（権限）オプションは表示されません。

2. ユーザー名、名、姓を入力します。次に以下を入力します。
 - Password（パスワード）と Confirm Password（パスワードの確認）のフィールドにパスワードを入力します。または
 - 「Use Active Directory（Active Directory を使用する）」を選択して、Active Directory サーバーからユーザーを認証します。



注記

Active Directory 認証を使用するサイトの場合：

- Active Directory は新規ユーザーを追加する前に設定する必要があります。「[Active Directory Setup \(Active Directory のセットアップ\)](#)」『177ページ』を参照してください。
 - ユーザー名にバックスラッシュ（¥）文字は使用できません。
 - ユーザー名@ドメインの形式でのみ「@」文字を使用してください。特定ドメインに対して認証するようにユーザーを制限します。同じ名前の別のユーザーが別のドメインに存在する場合に便利です。
 - ドメインをユーザー名に追加する要件はありません。ドメインが指定されていない場合は、システムはすべてのドメインのユーザーを認証できます。
-

3. ユーザーをグループに割り当てます。（特殊なケースとして、1人のユーザーを放射線専門医グループと術者グループの両方に割り当てることができます。）

- Administrators (管理者) は、システム設定を構成する権限を持ちます (本章の説明を参照)。
 - Radiologists (放射線専門医) は、SecurView DX 上で患者画像をレビューし、診断ケースやスクリーニングケースのセッションを設定する権限を持ちます (「[セッションの作成](#) 『40ページ』」を参照)。
 - Technologists (術者) は、診断ケースやスクリーニングケースのセッションを設定する権限を持ちます (「[セッションの作成](#) 『40ページ』」を参照)。
 - Service (サービス) ユーザーは、一定のシステム設定を構成する権限を持ちます (『SecurView Workstation Installation & Service Manual』を参照してください)。
 - Case Administrators (ケース管理者) は、1 人の患者の複数の記録をマージしたり、患者を患者リストから削除する権限を持ちます (「[ケース管理者タスク](#) 『197ページ』」を参照)。
4. アクセス権限のカスタマイズ(管理者、放射線専門医、SecurView DX 上の術者のみ)。
- Diagnostic or Screening Setup (診断またはスクリーニング設定) : このオプションを選択すると、放射線専門医と術者ユーザーがセッションを作成することができます。「[セッションの作成](#) 『40ページ』」を参照してください。
 - Diagnostic or Screening Reading (診断またはスクリーニング読影) : このオプションを選択すると、放射線専門医が患者画像をレビューできます。
 - User Setup (ユーザー設定) : このオプションを選択すると、管理者ユーザーにユーザー プロファイル情報を作成および編集する権限を与えます。
5. OK をクリックして新しいユーザー設定を保存します。

ユーザー プロファイルを編集するには :

1. 以下のいずれかの操作を行います。
 - User Setup (ユーザー設定) ウィンドウでユーザー名を 1 つ選択し、Edit (編集) をクリックします。または、
 - User Setup (ユーザー設定) ウィンドウに表示されているユーザー名をダブルクリックします。
2. ユーザープロファイルを編集し、OK をクリックして保存します。

ユーザープロファイルを削除するには :

1. User Setup (ユーザー設定) ウィンドウでユーザー名を 1 つ選択し、Delete (削除) をクリックします。「Do you want to delete this user? (このユーザーを削除しますか?)」というメッセージが表示されます。
2. OK を選択してユーザープロファイルを削除します。



注記

アプリケーションおよびサービス ユーザーを User Setup (ユーザー設定) リストから削除することはできません。

8.3 管理者ユーザー プロファイル

User Preferences (ユーザー設定) タブを選択して、現在ログインしている管理者ユーザーの **User Profile (ユーザープロファイル)** ウィンドウを表示します。自分のユーザー プロファイルを編集し、**Auto Log-Off (自動ログオフ)** 時間 (現在のユーザーを自動的にログオフするまでの何も操作が行われない時間) を設定することができます。

The screenshot shows a software window titled "User Preferences" with several tabs: "User Setup", "User Preferences", "Settings", "ReportFlow", "Maintenance", "Overlay", and "About". The "User Profile" section is active and contains the following fields:

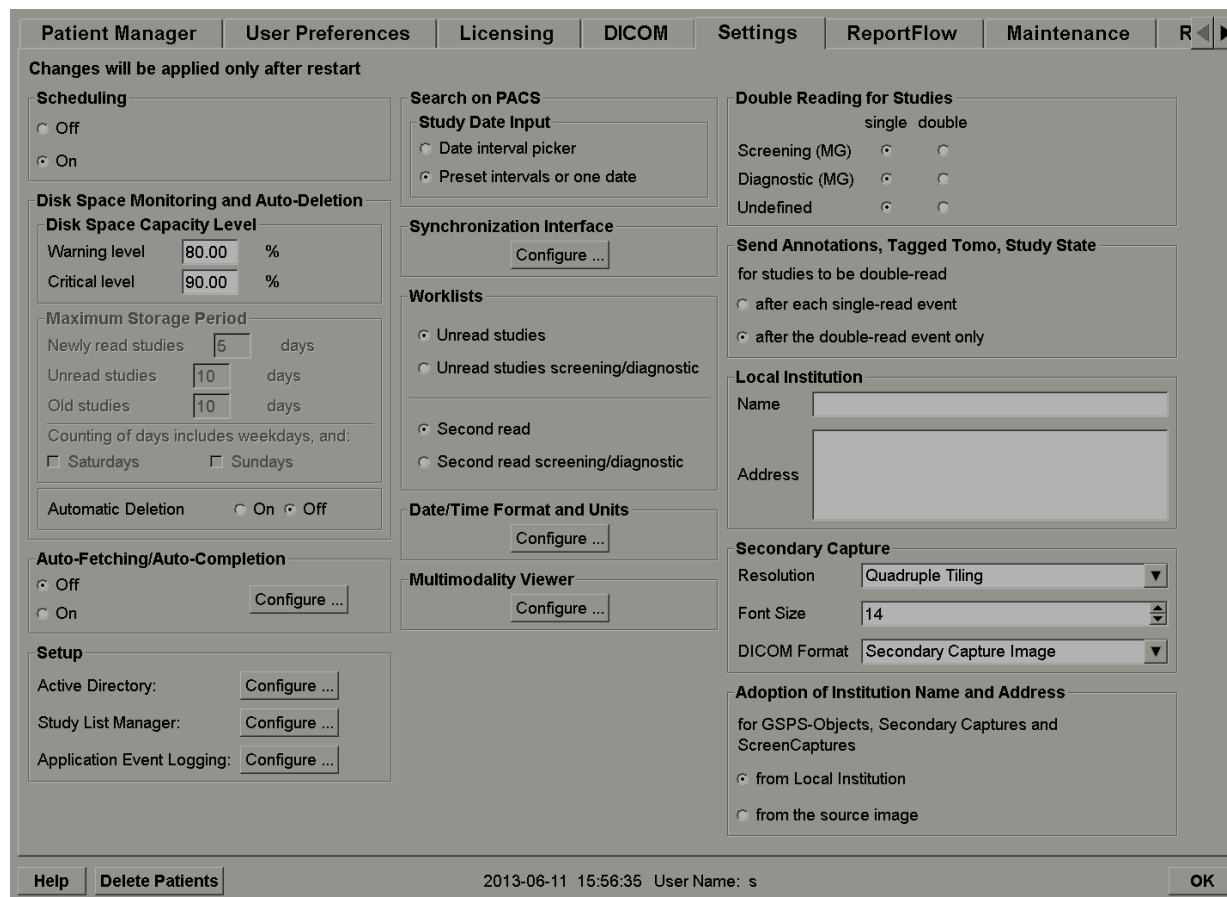
- User Name (*): admin
- Last Name (*): admin
- First Name (*): admin
- E-mail Address: 1
- Password (*): *****
- Confirm Password (*): *****

The "Auto Log-off" section contains a dropdown menu for "Auto Log-off Time" set to "30 min".

At the bottom of the window, there is a status bar with "Help", "OK", "Cancel", and "Apply" buttons. The status bar also displays "08-11-2011 04:25:37 pm User Name: admin".

8.4 システムレベルの設定の構成

Settings (設定) ウィンドウを使い、システムレベルの設定を構成します。(以下に示す画面は SecurView DX 用ですのでご注意ください。いくつかの設定内容は、SecurView RT に該当しません。)



以降の説明に従い、設定を調整します。選択をしたら、**OK** をクリックして設定を保存します。設定によっては（例、スケジューリング、ワークリスト、日付/時刻の形式と単位等）、SecurView を再起動して変更内容を保存する必要があります。

- [Scheduling \(スケジューリング\)](#) 『172ページ』
- [Disk Space Monitoring \(ディスク空き容量の監視\) と Auto-Deletion \(自動削除\)](#) 『172ページ』
- [自動取得/自動完了の構成](#) 『175ページ』
- [Active Directory Setup \(Active Directory のセットアップ\)](#) 『177ページ』
- [Study List Manager \(ケースリストマネージャ\) \(SLM\) の設定](#) 『178ページ』
- [アプリケーションイベントログ](#) 『179ページ』
- [PACS の検索](#) 『181ページ』

- [同期インタフェースの構成](#) 『181ページ』
- [ワークリスト](#) 『183ページ』
- [日付/時刻の形式と単位](#) 『183ページ』
- [Multimodality Viewer \(マルチモダリティ ビューアー\)](#) 『183ページ』
- [ケースの二重読影](#) 『184ページ』
- [注釈、タグ付き Tomo、ケース状態の送信](#) 『184ページ』
- [ローカル医療機関](#) 『185ページ』
- [Secondary Capture \(セカンダリキャプチャ\)](#) 『185ページ』
- [医療機関の名前と住所の選択](#) 『186ページ』

8.4.1 Scheduling (スケジューリング)

SecurView DX 上で、この設定を使い Create Session (セッションの作成) オプションを有効にします (「[セッションの作成](#) 『40ページ』」および「[患者リストのボタン類](#) 『32ページ』」を参照)。

- **Off (オフ)** : Create Session (セッションの有効化) オプションを使用することはできません。
- **On (オン)** : Create Session (セッションの有効化) オプションを使用できます。スクリーニングまたは診断設定権限を持つユーザーはセッションを作成することができます。

8.4.2 Disk Space Monitoring (ディスク空き容量の監視) と Auto-Deletion (自動削除)

これらの設定で、SecurView のデータベースに患者データが保存される期間を指定し、ハードディスクの保存容量がいっぱいになった場合に何を行うかを指定します。

Disk Space Monitoring and Auto-Deletion	
Disk Space Capacity Level	
Warning level	<input type="text" value="80.00"/> %
Critical level	<input type="text" value="90.00"/> %
Maximum Storage Period	
Newly read studies	<input type="text" value="5"/> days
Unread studies	<input type="text" value="10"/> days
Old studies	<input type="text" value="10"/> days
Counting of days includes weekdays, and:	
<input type="checkbox"/> Saturdays	
<input type="checkbox"/> Sundays	
Automatic Deletion <input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off	

Disk Space Capacity Level (ディスク空き容量レベル)

ディスクの保存容量が、指定した各限界に達すると警告メッセージが表示されます。また、以下の2つのレベルのディスク容量に達すると、アラートメッセージが表示されます。

- **Warning Level (警告レベル)** : デフォルトの閾値は80%です。ディスク空き容量が確保されるまで、20分おきにメッセージが表示されます。
- **Critical Level (重大レベル)** : デフォルトの閾値は90%です。ディスク空き容量が確保されるまで、システムは情報の送付(例、DICOMメッセージや画像)を受け付けません。

Maximum Storage Period (最大保存期間)

これらの設定は、Automatic Deletion (自動削除) が **On (オン)** の場合のみ使用できます。「最大保存期間」とは、SecurView で設定されている基準を満たす患者データが自動的に削除されるまでの患者データの保存期間です。保存期間は、SecurView が所定のケースの最後の画像を受け取った日付と時刻に基づきます。

SecurView RT ワークステーションの場合、Newly Read (新規読影) および Unread (未読影) ケースの設定の代わりに、New (新規) ケースという1つの設定があります。

Automatic Deletion (自動削除)

On (オン) に設定すると、事前定義の規準に従い患者(画像データとその他のオブジェクト)が自動的に削除されます。自動削除は2通りの方法で機能します。

- **Ongoing automatic deletion (継続的自動削除)** – 保存期間を過ぎた患者データを削除します。使用可能なディスク容量は影響を受けません。SecurView DX の場合の一例として、患者データの読影状況が *Read (読影済み)* の場合に *新規読影* ケースの保存期間が過ぎると、その患者データに保存期間が過ぎていない古いケースが含まれていても患者データが削除されます。
- **Forced automatic deletion (強制的自動削除)** – 使用可能なディスク容量が警告レベルに達すると、SecurView は読影状況が *Read (読影済み)* の最も古い患者データを削除し、ディスクの空き容量が警告レベル以下になるまで続けます。最大保存期間の設定に影響はありません。

以下の表に、システムの動作の概要を示します。

イベント	自動削除オン	自動削除オフ
1時間ごとにチェック	継続的自動削除を実行	何もしない
システムが警告レベルに到達	強制的自動削除を実行	警告レベルメッセージを表示
システムが重大レベルに到達	重大レベルメッセージを表示。それ以上の DICOM データ受信を停止。ユーザーがログインされていない場合、強制自動削除を実行します。	重大レベルメッセージを表示。それ以上の DICOM データ受信を停止。Patient Manager (患者マネージャ) ウィンドウで Cleanup (クリーンアップ) をクリックして、強制自動削除を実行します。

以下の場合には、患者データは自動削除されません。

- ユーザーが現在その患者データを表示している。
- ユーザーがマルチワークステーションシステム上でログインしている。
- 患者データに保留中の注釈保存ジョブまたは印刷ジョブがある。
- 患者データがロックされている (例、保留)、または自動削除に対して保護されている (SecurView DX のみ)。
- 患者データに、「通知」付きの画像があり、ケースが「viewed (表示済み)」にされていない (SecurView RT のみ)。
- 患者は、非ローカルケースのみを持っています。

マージした患者データを削除する場合、主患者と副患者の両方のケースが対象となります。

ローカルケースと非ローカルケースの両方を持つ患者は、自動的に削除することができます。その後、SLM 同期により、非ローカルケースのみを持つ患者のリストに患者を追加することができます。

マルチワークステーション構成での自動削除

マルチワークステーション構成での自動削除機能は、スタンドアロン型システムとは異なる働きをします。

- **Manager (マネージャ)** 上では、最大保存期間はグローバルです。警告レベルおよび重大レベルの設定はローカルです。自動削除を **On (オン)** にした場合、マネージャは時間ごとにチェックを実行し、継続的な患者削除 (すべてのクライアントにも実行) とクリーンアップ手順を実行します。クリーンアップの際に、準備された画像のコピーをクライアントから削除します。(クライアントの自動削除設定は影響を与えません。)
- **Client (クライアント)** 上では、自動削除設定はローカルです。他のクライアントまたはマネージャに影響を与えません。自動削除を **On (オン)** にしている場合、警告レベルに到達すると、そのクライアントに保存されている患者データだけを削除します。ローカルシステムから削除されたデータセットは、マネージャ上にまだ保存されています。

マルチワークステーションのクライアントのクリーンアップ

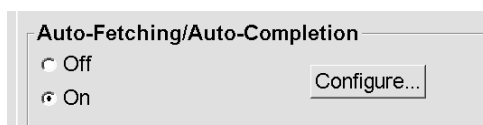
クライアントでは、**Cleanup (クリーンアップ)** ボタンを使用して患者データを削除します。**Cleanup (クリーンアップ)** をクリックすると、Automatic Deletion (自動削除) 関数を開始するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。「Yes (はい)」をクリックすると、SecurView はシステムをログオフして、強制的に自動削除を実行します。

- 放射線専門医のユーザーの場合は、重大レベル以上の場合に **Cleanup (クリーンアップ)** ボタンが Patient Manager (患者マネージャ) ウィンドウに表示されます。
- 管理者とサービスのユーザーの場合は、**Cleanup (クリーンアップ)** ボタンは常に利用できます。利用可能なディスク容量が警告レベル以下の場合、Cleanup (クリーンアップ) 関数は事前に定義された患者数を削除します (デフォルトは 50 です) 。

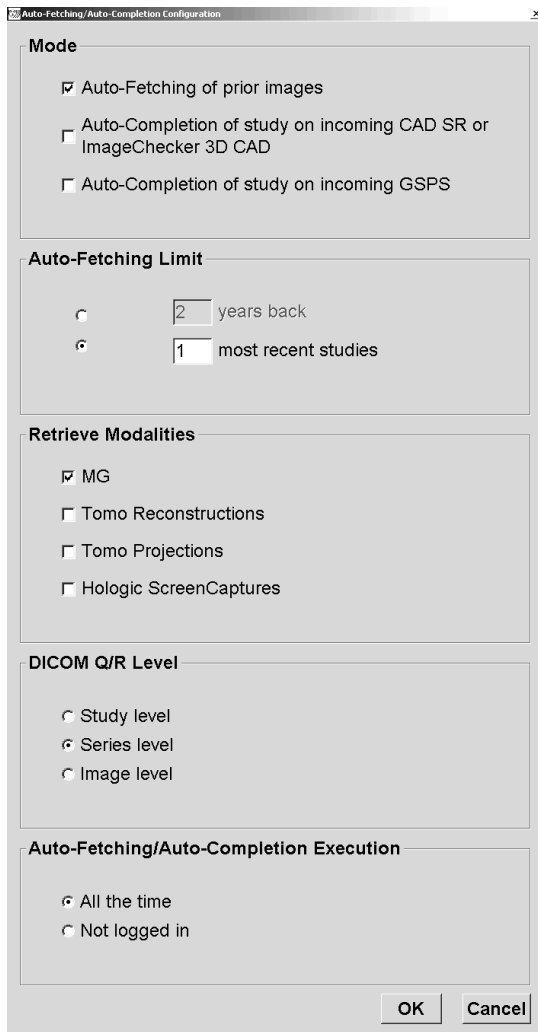
8.4.3 自動取得／自動完了の構成

自動取得機能を使うと、新しいケースを SecurView で受け取るときに以前のオブジェクトをアーカイブから自動的に取得できます。画像、CAD SR、注釈付きの (または注釈のない) ケース状態、自動取得規準を満たすケース内の他社製 GSPS オブジェクトなどのオブジェクトを取得できます。「[患者データの自動取得](#) 『36ページ』」を参照してください。

自動完了機能を使うと、GSPS または CAD SR オブジェクトを SecurView で受け取るときに、参照されているケースのすべてのオブジェクトを自動的に取得できます。



Configure... (構成) をクリックすると、以下のダイアログからオプションを選択できます。



- Mode (モード)** : SecurView で以前のケースをアーカイブから読み込む必要がある場合は、**Auto-Fetching of prior images (以前の画像の自動取得)** を選択します。
 - SecurView DX では、冗長ネットワークトラフィックが追加されるため、ほとんどの場合、**Auto-Completion (自動完了)** 機能を使用する必要はありません。



注記

最初のリーダーの MG Secondary Capture が PACS へ送信され、最初のリーダーから GSPS Report を 2 番目の読み取りが完了する前に受信される場合に「Auto-Completion of study on incoming GSPS (受信 GSPS 時のケースの自動完了)」を選択すると、MG Secondary Capture の取得により、二重盲読み取りプロトコル違反になります ([「注釈、タグ付き Tomo、ケース状態の送信」](#) 『184ページ』) を参照)。

- SecurView RT の場合、自動完了機能を適切に使用できません (例、施設の画像ルーティングや SecurView RT の自動削除設定のため、SecurView RT に受け取った通知の対象画像がない場合に備えて)。
- Auto-Fetching Limit (自動取得制限)** : 時間間隔 (**years back (数年前)**) または **most recent studies (直近のケース)** の数を選択します。
- Retrieve Modalities (取得モダリティ)** : 取得するモダリティを選択します。(「MG」設定を指定すると、関連する GSPS 注釈および Mammography CAD SR のある以前のデジタル マンモグラフィー ケースが取得されます。)
- DICOM Query/Retrieve Level (DICOM クエリ/取得レベル)** : PACS 1 要件に基づくレベルを選択します。PACS 1 は、DICOM Setup でサービスエンジニアが設定します。
 - Series level (シリーズレベル)** は、PACS 1 で対応している場合に望ましいレベルです。
 - Study level (ケースレベル)** も適切な設定です。このレベルに設定するには、PACS 1 が DICOM クエリで Modalities in Study (0008,0061) を正しくサポートしている必要があります。

- **Auto-Fetching/Auto-Completion Execution (自動取得／自動完了の実行)** :
 - マルチワークステーション システムの場合、マネージャは **All the time (常に)** オプションを使用します。(**Not logged in (ログインなし)** は使用できません。)
 - スタンドアロン型システムの場合、いずれかの設定を選択してください。**Not logged in (ログインなし)** を選択した場合、システムにログインしているユーザーが誰もいない場合のみ自動取得を実行します。

8.4.4 Active Directory Setup (Active Directory のセットアップ)

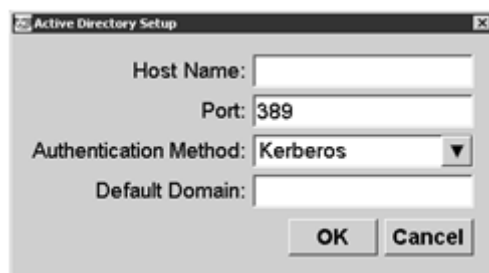
Active Directory は、管理ネットワーク セキュリティの補助用に使用される Microsoft Windows ディレクトリサービスです。ユーザープロファイルの追加または編集時、ユーザー認証用に Active Directory を使用するためのオプションが使用できます。「[ユーザープロファイルの管理](#) 『167ページ』」を参照してください。

Active Directory は、**Administration (管理) > Settings (設定)** ウィンドウで設定することができます。



Active Directory をセットアップするには :

1. **Configure...(構成)**をクリックして Active Directory Setup (Active Directory セットアップ) ダイアログボックスを開きます。

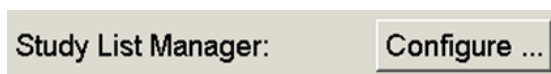


2. Active Directory サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
3. Active Directory サーバーのポートを入力します。デフォルト設定は 389 です。
4. 以下の認証方法を選択します。
 - Kerberos (ケルベロス) – デフォルト設定。
 - Digest (ダイジェスト) – マルチドメイン シナリオでは使用できません。個々のドメインの同じユーザー名を使用する異なるユーザーとして区別できません (1人のユーザーはログインできません)。

- Plaintext Password (プレーンテキスト型パスワード) – パスワードは暗号化しないで送信されるのでお勧めしません。
5. ログイン時に Active Directory ユーザーがドメインを指定しない場合に使用するデフォルト ドメインを入力することもできます。
 6. **OK** をクリックして設定を保存します。

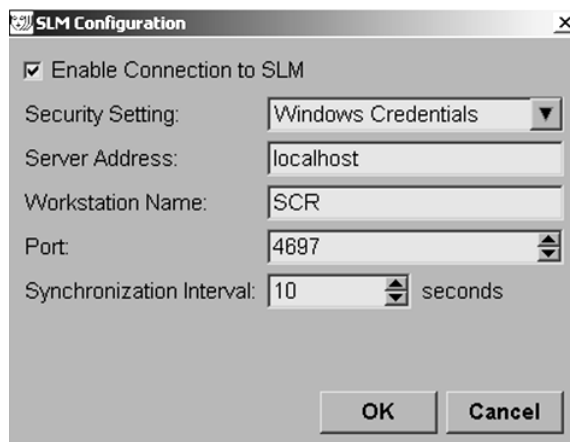
8.4.5 Study List Manager (ケースリストマネージャ) (SLM) の設定

Study List Manager (ケースリストマネージャ) との通信は、**Administration (管理) > Settings (設定)** のウィンドウにて設定することが可能です。



Study List Manager (ケースリストマネージャ) の設定

1. **Configure... (設定)** をクリックして、SLM 設定ダイアログを開きます。



2. **Enable Connection to SLM (SLM との接続を有効化する)** を選択して、Study List Manager (ケースリストマネージャ) との接続を有効化します。
3. SecurView と Study List Manager (ケースリストマネージャ) の間の通信に使用するセキュリティに関連した設定を行います。Windows Credentials を選択すると、現在ログインしている Windows のユーザーの証明書が Study List Manager (ケースリストマネージャ) との接続のために使用されます。
以下に示すセキュリティに関連した設定のいずれかを選択してください。
 - a. セキュリティなし
 - b. HTTPS 匿名クライアント
 - c. Windows Credentials – デフォルト
4. Study List Manager (ケースリストマネージャ) をホストするサーバーの **Server Address (サーバーアドレス)** (IP アドレスまたは名前) を入力します。デフォルト

名は localhost で、これは Study List Manager がマルチワークステーション構成の SecurView スタンドアロンまたは SecurView マネージャ上で作動しているときに使用することができます。

5. Study List Manager との通信に使用する **Workstation Name** (ワークステーション名) を入力します。デフォルト名は、SecurView の AE Title となります。
6. Study List マネージャをホストするサーバーの **Port** (ポート) を入力します。
 - a. Security Setting (セキュリティ設定) 'No Security (セキュリティなし)' のデフォルトのポートは 4699 です。
 - b. Security Setting (セキュリティ設定) 'HTTPS Anonymous Client (HTTPS 匿名クライアント)' のデフォルトのポートは 4698 です。
 - c. Security Setting (セキュリティ設定) 'Windows Credentials' のデフォルトのポートは 4697 です。
7. Study List Manager との同期化の頻度に関して、その実施間隔を秒単位にて選択します。デフォルト設定は 10 秒です。
8. **OK** をクリックして設定を保存します。

8.4.6 アプリケーションイベントログ

SecurView は主なアプリケーションレベルイベントをキャプチャするログファイルを作成することができます。顧客はそれらログへアクセスしてシステムのアクティビティを監視するか、HIPAA や他の患者のプライバシーポリシーに準拠しているか確認することができます。管理者またはサービスユーザーは、管理画面の **Settings** (設定) タブからアプリケーションイベントログを設定することができます。設定オプションでは、ログの有効/無効やログファイルの対象ディレクトリを指定することができます。

アプリケーションイベントログは CSV フォーマットです。ファイルの各行は 1 つのイベントとそのイベント固有の値をカンマ区切りで示されています。ファイルをスプレッドシートにインポートして、詳細な分析を簡単に行うことができます。

ログファイルに記録されるイベントでは、以下のフィールドがキャプチャされます。すべてのフィールドがすべてのイベントに該当するわけではありません。

- 日付とタイムスタンプ
- ユーザーグループ (放射線専門医、管理者、ケース管理者、またはサービス)
- ユーザー (ログイン名)
- イベント
- 患者 ID
- 検査インスタンス UID
- その他 (特定イベント固有の追加情報をキャプチャ)

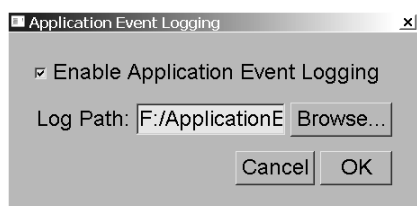
ログファイルには、以下のアプリケーションレベル イベントがキャプチャされます。

イベント	イベント フィールドに 表示するテキスト	他のフィールドの 追加情報
ログインに失敗しました。	ログイン失敗。	
ログインに成功	ログイン	
ログアウトに成功	ログアウト	
患者データの削除（手動または自動）	削除しました	
確認用の患者ケースが開きました	開きました	
患者ケースをシステムにインポート しました	インポートしました	
患者ケースをシステムからエクスポート しました	エクスポートしまし た	エクスポートしたコンテ ンツのタイプ
患者ケースを印刷しました	印刷しました	
患者データをマージしました（1次患 者情報）	1次としてマージし ました	セカンダリ患者 ID
患者データをマージしました（セカン ダリ患者情報）	セカンダリとしてマ ージしました	1次患者 ID
患者データをマージ解除しました	マージ解除しました	1次患者 ID
パスワードを変更しました	パスワードを変更し ました	管理者ユーザーによって 変更された場合は、管理者 のユーザー名とグループ を含みます
外部システムから患者ケースを受信 しました（受信したそれぞれの DICOM ファイルが単一のイベントと 見なされます）	受信しました	リモート AE タイトルと IP アドレス
ログイン無効化	ログイン無効化	古いログファイルのパス
ログイン有効化（構成も変更）	ログイン有効化	新しいログファイルのパス

Active Directory イベント ログは、**Administration（管理） > Settings（設定）** ウィンドウで設定することができます。

Application Event Logging: **Configure ...**

Configure...(構成)をクリックして機能を有効/無効にして、ログフォルダを定義します（デフォルトは F:/ApplicationEventLogging）。

**重要**

Hologic は、Application Event Log フォルダは SecurView ワークステーションの外部セキュア ドライブに維持することをお勧めします。

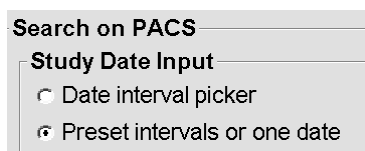
**注記**

マルチワークステーション クラスタでは、Manager 上でのみこの設定画面を利用できます。

8.4.7 PACS の検索

この機能を使い、PACS ダイアログの Search (検索) の Study Date (ケースの日付) フィールドに放射線専門医ユーザーが入力する日付を選択します (「[患者の検索](#) 『39ページ』」を参照してください)。日付形式は、ユーザーが選択した日付範囲またはプリセットの間隔/日付とすることができます。

- **Date interval picker (日付間隔の選択)** : 表示されるカレンダーシートを使い、放射線専門医ユーザーは PACS 検索の開始日と終了日を選択できます。
- **Preset intervals or one date (プリセットの間隔または日付 1 つ)** : Study Date (ケースの日付) テキストフィールドにプリセットの間隔 (例、当日、先月) を表示します。

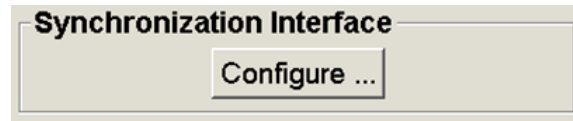


8.4.8 同期インタフェースの構成

SecurView ワークステーションと外部アプリケーションとの同期を行えるようにするため、IP アドレスとポート情報を入力します。非 Hologic アプリケーションとの同期には、アプリケーション同期ライセンスが必要です。

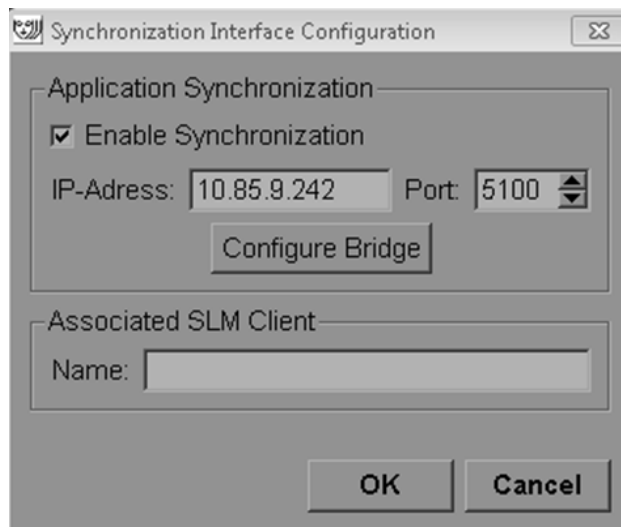
SecurView クライアントワークステーションで、具体的な SLM クライアント (MultiView クライアントなど) の名前を入力し、名前が付けられた SLM クライアントのケースのみを SecurView クライアントの患者リストに加えます。

Synchronization Interface (同期インタフェース) は、**Administration (管理) > Settings (設定)** のウィンドウで設定することができます。



Synchronization Interface (同期インタフェース) の設定

1. **Configure... (設定)** を選択して、Synchronization Interface Configuration (同期インタフェースの設定) ダイアログを開きます。



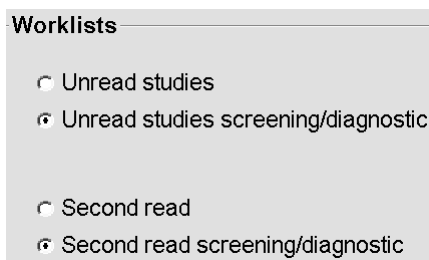
2. **Enable Synchronization (同期を有効化する)** を選択して、Application Synchronization (アプリケーション同期) との通信を有効化します。
3. アプリケーション同期 IP アドレスを入力します。
4. アプリケーション同期ポートを入力します。デフォルト設定は 5100 です。
5. SecurView に Application Synchronization (アプリケーション同期) がインストールされている場合、有効な IP アドレスとポート設定を持つ **Configure Bridge (ブリッジの設定)** をクリックすると、アプリケーション同期設定インタフェースが表示されます。詳細については、*Application Synchronization Installation Manual (アプリケーション同期インストールマニュアル)* を参照してください。
6. クライアントワークステーションで、**Associated SLM Client Name (関連付けられた SLM クライアント名)** を入力します。
 - SLM が設定されている場合のみ、名前を入力してください。
 - このオプションは、マルチワークステーション構成の SecurView スタンドアロンと SecurView クライアントにおいて使用することが可能である。この値は、関連

付けられた SLM クライアント (MultiView など) を持つすべてのワークステーション上で設定しなければなりません。

- 入力された値は、SLM に登録されている、関連付けられた SLM クライアントの名前に合致しなければなりません。

8.4.9 ワークリスト

SecurView DX 上でこの機能を使い、自動的にワークリストを作成する方法を定義します。



- **Unread studies (未読影のケース)** : スクリーニングケースと診断ケースが含まれている 1 つのワークリストを作成します。
- **Unread studies screening/diagnostic (未読影のスクリーニング/診断ケース)** : スクリーニングケースと診断ケースに別々のワークリストを作成します。
- **Second read (2次読影)** : スクリーニングケースと診断ケースが含まれている 1 つのワークリストを作成します。
- **Second read screening/diagnostic (2次読影スクリーニング/診断)** : 2次読影したスクリーニングケースと診断ケースに別々のワークリストを作成します。「[ワークリストの自動作成](#) 『46ページ』」を参照してください。

8.4.10 日付/時刻の形式と単位

Configure... (構成) をクリックして、日付、時刻、圧迫パドルで使用する力の単位の設定を選択します。



8.4.11 Multimodality Viewer (マルチモダリティ ビューアー)

SecurView DX 上で、**Configure... (構成)** をクリックし、Multimodality (MM) Configuration Editor (マルチモダリティ構成エディター) を表示して MM Viewer (MM ビューアー) の設定を変更します。この機能は、有効な Advanced Multimodality Option (マルチモダリティー オプション) のライセンスを取得している場合のみ使用できます。詳細については、「*SecurView Advanced Multimodality Option User Guide*」を参照してください。

8.4.12 ケースの二重読影

SecurView DX 上でこの機能を使い、それぞれの種類のケース (スクリーニング、診断、不確定 MG) の自動二重読影を有効にします。デフォルトは単独読影です。二重読影オプションを選択すると、互いに相手の所見を知ることなく 2 人の放射線専門医ユーザーがそれぞれ独立して同じケースを読影できます。

Double Reading for Studies		
	single	double
Screening (MG)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Diagnostic (MG)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Undefined	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>



重要

SecurView が単一読影に検査を割り当てたら、二重読影にそれを割り当てる方法はありません。ただし、二重読影検査の場合は、検査の終了時に 2 次読影をキャンセルすることができます。「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください。

8.4.13 注釈、タグ付き Tomo、ケース状態の送信

二重読影の場合、各読影者がケースを「Read (読影済み)」としてマークすると、SecurView DX から GSPS レポート (注釈付き (または注釈なし) のケース読影状況とタグを付けた Tomosynthesis スライス) および MG Secondary Capture 画像を送ることができます。この設定により、GSPS 機構は二重読影が設定されている複数のスタンドアロン型システム間で読影状況を同期させることができます。

Send Annotations, Tagged Tomo, Study State

for studies to be double-read

- after each single-read event
- after the double-read event only

- **after each single-read event (単独読影後にその都度)** : 読影者がケースを「Read (読影済み)」としてマークすると、GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像が送信されます。

**注記**

GSPS または MG Secondary Capture が最初の読影後に PACS へ送信され、2 次読影が完了する前にその情報へアクセスすると、二重盲読影プロトコル違反になります。

- **after the double-read event only (二重読影後に限定)** : 2 人目の読影者がケースを「Read (読影済み)」としてマークした場合のみ、GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像が送信されます。

GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像は、サービス インタフェースを介して構成した送信先へ送られます。

8.4.14 ローカル医療機関

SecurView では、GSPS レポート、GSPS 通知、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture を作成する際に貴院の名前と住所を含めることができます。「[医療機関の名前と住所の選択](#) 『186ページ』」を参照してください。このオプションを選択した場合、医療機関の名前と住所を入力します。

Local Institution	
Name	<input type="text"/>
Address	<input type="text"/>

8.4.15 Secondary Capture (セカンダリキャプチャ)

SecurView DX 上でこの設定を使い、ケースを閉じるときに自動的に送信する MG Secondary Capture 画像の形式を設定します。MG Secondary Capture 画像は、送信先 PACS が GSPS に対応していない場合や、PACS ワークステーションで GSPS を表示できないときに注釈を見たい場合のみ作成されます。「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照してください。

Secondary Capture	
Resolution	Quadruple Tiling ▼
Font Size	14 ▲▼
DICOM Format	Secondary Capture Image ▼



注記

DICOM 形式をデフォルトの「Secondary Capture Image」から変更しないでください。

8.4.16 医療機関の名前と住所の選択

GSPS レポート、GSPS 通知、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture の医療機関情報ソースを選択します。

Adoption of Institution Name and Address

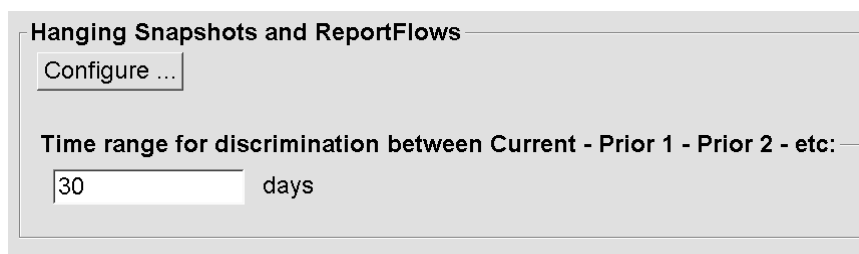
for GSPS-Objects, Secondary Captures and ScreenCaptures

- from Local Institution
- from the source image

- **from Local Institution (ローカル医療機関から)** : **Local Institution (ローカル医療機関)** で入力した情報が、SecurView で作成したすべての GSPS オブジェクト、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture に適用されます。
- **from the source image (元の画像から)** : 元の画像 (GSPS オブジェクト、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture の作成元の画像) の DICOM ヘッダに含まれている医療機関情報が適用されます。

8.5 システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成

管理者ユーザーは、ReportFlow タブを選択し **Configure (構成)** をクリックして、システムレベルのハンギングスナップショットおよび ReportFlows を構成できます。



ReportFlows ウィンドウが開き、使用可能なハンギングスナップショットおよび ReportFlow が一覧表示されます。詳細は、「[ハンギングスナップショットと ReportFlows](#) 『145ページ』」を参照してください。

8.5.1 現在のセンサ高範囲

「Time range (時間範囲)」フィールドを使用して検査が「Current (現在)」にしておく日数を設定します。デフォルト設定は 30 です。つまり、「現在」のケースはシステム上に保存されてから 30 日以上経過すると、「以前 1」のケースに変わります。

8.6 検査手順の名前の構成

Examination Procedure Identification (検査手順識別) ウィンドウを使い、手順の名前を追加、編集、削除します。手順は、ケースの種類に関連する事前定義された画像セットに対応しています。画像の生成時に、マンモグラフィー画像取り込みワークステーションによって、検査手順の名前が画像 DICOM ヘッダに暗号化されます。これらの画像を受け取った SecurView では、手順の名前に基づき ReportFlow が選択されます。「[ReportFlow を手順にリンクさせる](#) 『159ページ』」を参照してください。



新しい手順を追加するには :



New (新規)

1. **ReportFlow** タブを選択して、Examination Procedure Identification (検査手順識別) ウィンドウを表示します。
2. **New (新規)** アイコンをクリックして、New Procedure Identification (新規手順識別) ダイアログを開きます。

**重要**

以下の手順の属性が正しいか確認してください。正しくない場合は、自動ワークリストに検査が表示されない場合があります。

New Procedure Identification (新規手順識別) ダイアログで以下の手順を行います。

- a. 手順名を **Description (説明)** フィールドに入力します (例、Screening Bi-Lateral Mammography)。
- b. ドロップダウンリストから適切な種類を選択します (**Type**)。
- c. メーカー名を入力します (**Manufacturer**、オプション)。
- d. ドロップダウンリストからモダリティを選択します (**Modality**)。デフォルトは、**MG** です。
- e. 手順に関連する有効な属性タグを入力します (**Attribute Tag**)。デフォルトは (0008,1030) です。これは Study Description (ケースの説明) のタグです。
- f. 画像取り込みワークステーションで表示されるものと同じ手順名 (省略語、大文字・小文字、句読点などを含む) を **Attribute Value (属性値)** フィールドに入力します。
- g. 設定が終了したら、**OK** をクリックします。

手順を編集するには :

Edit (編集)

1. **ReportFlow** タブを選択して、Examination Procedure Identification (検査手順識別) ウィンドウを表示します。
2. **Edit (編集)** アイコンをクリックして、Edit Procedure Identification (手順識別の編集) ダイアログを開きます。
3. 手順の編集が終了したら、**OK** をクリックします。

手順を削除するには :



Delete (削除)

1. Procedure Identification (手順識別) ウィンドウから手順を選択して、**Delete (削除)** アイコンをクリックします。削除したい手順にリンクされている ReportFlows がないかチェックされます。ReportFlow が手順にリンクされている場合、以下のようなメッセージが表示されます。

Warning: At least one ReportFlow is linked to this procedure description. By removing this procedure description it will be deleted from the list of linked procedures of one or more ReportFlows. Do you want to continue?

OK

Cancel

2. **OK** をクリックして削除するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックします。

8.7 画像オーバーレイの構成

Overlay (オーバーレイ) ウィンドウを使い、MG Viewer、MammoNavigator、印刷画像オーバーレイに表示する情報を選択します。

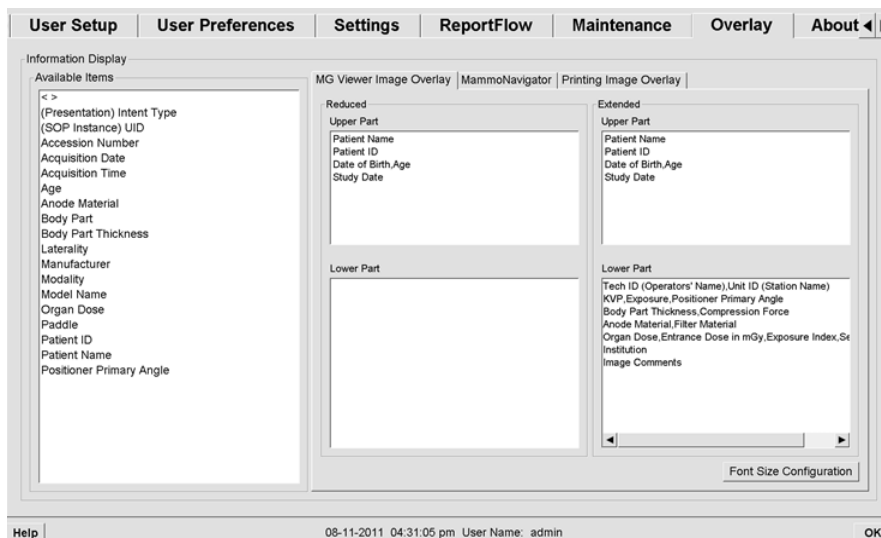
- [MG Viewer 画像オーバーレイ](#) 『190ページ』
- [MammoNavigator オーバーレイ](#) 『191ページ』
- [印刷画像オーバーレイ](#) 『192ページ』

8.7.1 MG Viewer 画像オーバーレイ

MG Viewer (MG ビューアー) には、放射線専門医ユーザーによる読影用の画像が表示されます。患者、ケース、画像情報はオーバーレイとして表示され、表示と非表示を切り替えることができます。「[患者情報オーバーレイ](#) 『68ページ』」を参照してください。

MG Viewer 画像オーバーレイをカスタマイズするには :

1. Overlay (オーバーレイ) ウィンドウで、MG Viewer Image Overlay (MG ビューアー画像オーバーレイ) タブを選択します。



2. Available Items (使用可能な項目) リストから項目を1つ選択して、縮小された上部／下部のウィンドウ、または拡大された上部／下部のウィンドウへドラッグします。



注記

放射線専門医ユーザーは、縮小モードまたは拡大モードで表示するよう自分の画像オーバーレイ ユーザー設定を設定することができます。「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)『136ページ』」を参照してください。

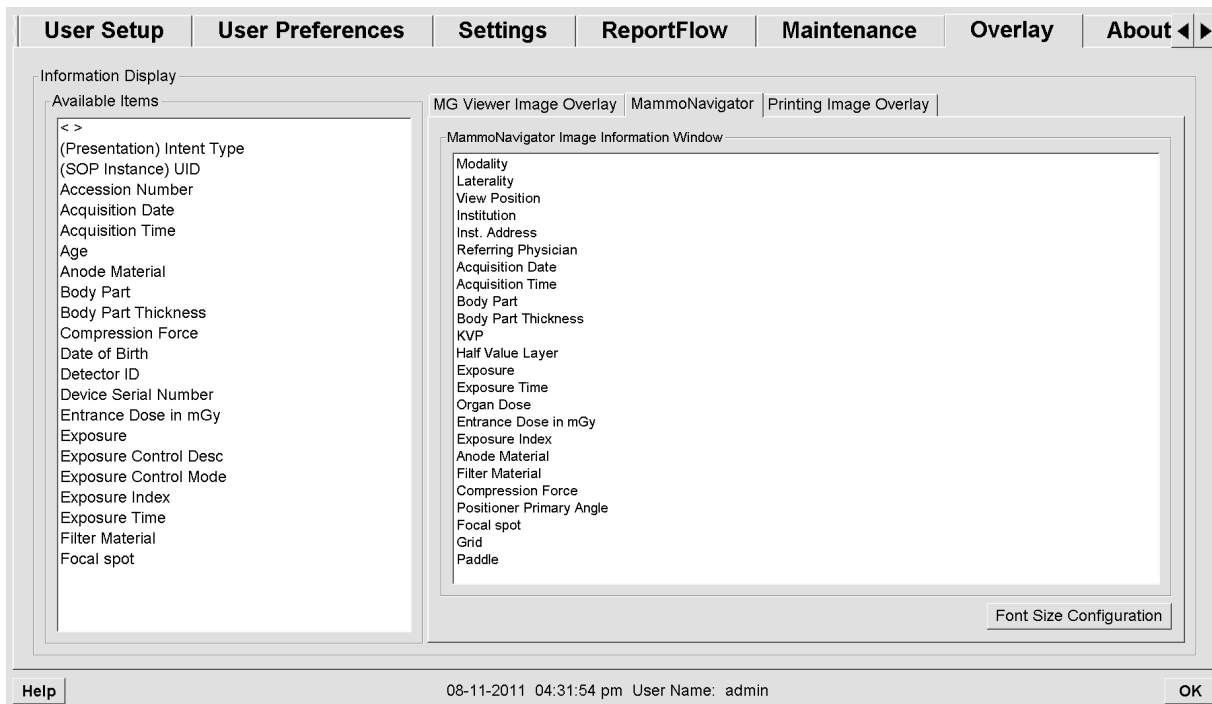
3. 文字の大きさを調節するには、**Font Size Configuration (フォントサイズ設定)** をクリックします。各タイトルのフォントサイズを選択し、**OK** をクリックして設定を保存します。
4. オーバーレイを構成したら、**OK** をクリックして設定を保存します。

8.7.2 MammoNavigator オーバーレイ

MammoNavigator タブを使い、MammoNavigator Image Information (MammoNavigator 画像情報) ウィンドウに表示するデータフィールドを選択します。Image Information (画像情報) ウィンドウには、画像に関連する DICOM ヘッダデータが表示されます。「[画像情報](#)『67ページ』」を参照してください。

MammoNavigator オーバーレイをカスタマイズするには：

1. Overlay (オーバーレイ) タブで、MammoNavigator タブを選択します。
2. Available Items (使用可能な項目) リストから項目を1つ選択して、Image Information (画像情報) ウィンドウ内へドラッグします。



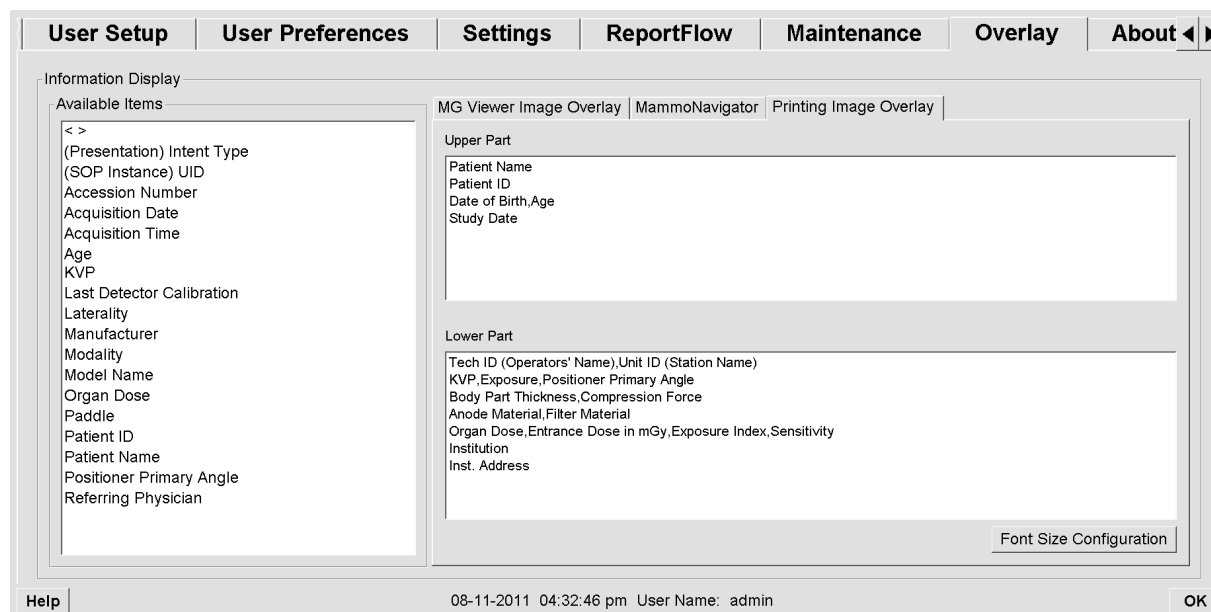
3. 文字の大きさを調節するには、**Font Size Configuration (フォントサイズ設定)** をクリックします。**MammoNavigator** 画像情報ウィンドウのフォントサイズを選択し、**OK** をクリックして設定を保存します。
4. オーバーレイを構成したら、**OK** をクリックして設定を保存します。

8.7.3 印刷画像オーバーレイ

Printing Image Overlay (印刷画像オーバーレイ) ウィンドウを使い、画像に印刷するデータフィールドを選択することができます。放射線専門医ユーザーは、患者情報や注釈などのデータと共に、画像を DICOM フィルムプリンタで印刷できます。印刷部分 (上部、下部、両方) の選択は、MG Viewer Print (印刷) ダイアログを使って行います。「印刷オプション」を参照してください。

印刷画像オーバーレイ情報をカスタマイズするには :

1. Overlay (オーバーレイ) ウィンドウで、Printing Image Overlay (印刷画像オーバーレイ) タブを選択します。
2. Available Items (使用可能な項目) リストから項目を 1 つ選択して、上部ウィンドウまたは下部ウィンドウ内へドラッグします。



3. 文字の大きさを調節するには、**Font Size Configuration (フォントサイズ設定)** をクリックします。各タイトルのフォントサイズを選択し、**OK** をクリックして設定を保存します。
4. オーバーレイを構成したら、**OK** をクリックして設定を保存します。

8.8 データベースのメンテナンス

Maintenance (メンテナンス) タブには、データベースのバックアップ、回復、データベース メンテナンスのスケジュールのオプションがあります。

- [データベースのバックアップと回復](#) 『193ページ』
- [データベース メンテナンスのスケジュール](#) 『195ページ』

8.8.1 データベースのバックアップと回復

患者データベースを CD-R/DVD ディスクにバックアップします。バックアップ/回復の実行中は、完了するまで他の機能（新規画像の承認など）を使用することはできません。メンテナンスの都合の良い時間帯をスケジュールし、設定したすべての送信者に適切な再試行メカニズムがあるか確認します。



重要

SecurView は、ユーザーインターフェースで利用可能な患者リスト、ReportFlows、注釈、読影状態、構成設定をバックアップします。画像データをバックアップしません。

データベースのバックアップを作成するには：

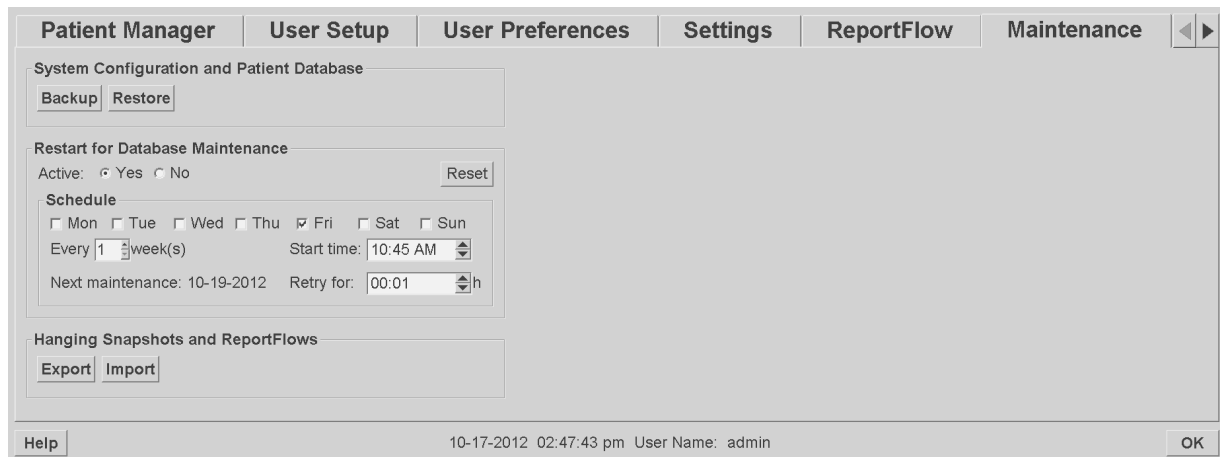
システム障害が発生した場合のデータ消失を防ぐため、毎月 1 回、または構成を変更した場合に患者データベースのバックアップを作成してください。



重要

マルチワークステーション環境では、データベースのバックアップ作成はマネージャ上でのみ行ってください。

1. Maintenance (メンテナンス) タブを選択して、以下のウィンドウを表示します。



2. **Backup (バックアップ)** をクリックします。CD を挿入するよう指示が画面に表示されます。
3. ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、**OK** をクリックします。バックアップ作成が完了すると、「Backup Completed Successfully (バックアップが正常に終了しました)」というメッセージが表示されます。



注記

データベースのサイズがディスク容量以上になった場合、SecurView はメッセージを表示します。その場合は、DVD を使用します。

データベースを回復するには：

1. Maintenance (メンテナンス) タブを選択して、System Configuration and Patient Database (システム構成と患者データベース) ウィンドウを表示します。
2. **Restore (回復)** をクリックします。データベースのバックアップ用 CD を挿入するよう指示が画面に表示されます。
3. ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、**OK** をクリックします。ダイアログが表示され、**OK** をクリックしてシステムを再起動するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックして回復を中止するように促されます。

8.8.2 データベース メンテナンスのスケジュール

データベースメンテナンスの機能が「Active（有効）」の場合、指定して間隔で自動的にワークステーションを再起動し、データベースの分析および再インデックス付けします。Hologic テクニカルサポート担当者によって指示された場合にのみこの機能を有効にしてください。

Reset（リセット）ボタンは、すべての設定をデフォルト値に戻します。

第9章 ケース管理者タスク

- [管理モジュールを開く](#) 『197ページ』
- [患者の削除](#) 『198ページ』

ケース管理者は、1人の患者の複数の患者記録をマージしたり、患者を患者リストから削除することができます。本章では、ケース管理者のための管理モジュールについての概要と、被検者を削除する方法について説明します。

9.1 管理モジュールを開く

ケース管理者としてログインすると、管理モジュールに Patient Manager (患者マネージャ) タブ、User Preferences (ユーザー設定) タブ、About (バージョン情報) タブが表示されます。

管理モジュールを開くには：

1. SecurView にログインします。
2. Administration (管理) タブをクリックして、患者リストを表示します。

The screenshot shows the Patient Manager window with the following data in the Patient List table:

Study Date	Name	Patient ID	Date of Birth	Modality	State	Note	Type	CAD	N ▲
05-18-2011	00300670	00300670	01-01-2007	MG+	Read				+
04-28-2011	01_Multimodality, 001	01_Multimodality_001	04-06-1961	MG, US, MR	Read				+
04-12-2011	02_Patient, 001_ScrDgnExt_Scr	02_Patient_001	10-29-1962	MG	Not Re Pend.				+
04-12-2011	21400057	21400057	01-01-1940	MG+	Not Re Add.				+
04-03-2011	Brown, James H	1336574	12-02-1936	CT, OT	Old				
09-07-2010	01_Multimodality, 006	01_Multimodality_006	01-10-1952	MG, US, MR	Old				+
09-07-2010	01_Multimodality, 004	01_Multimodality_004	01-10-1928	MG, US, MR	Old				
12-11-2009	22400008	22400008	01-01-1961	MG+	Old				+
12-10-2009	22400005	22400005	01-01-1951	MG+	Old				+
12-10-2009	22400013	22400013	01-01-1950	MG+	Old				+
12-10-2009	22400014	22400014	01-01-1954	MG+	Old				+

Administration (管理) ウィンドウに3つのタブが表示されます。

- **Patient Manager (患者マネージャ)** – 現在データベースにあるすべての患者、患者のケース、シリーズを患者リストに表示します。ケース管理者は、新しいセッションの作成または患者の同期を行えるオプションは使用できません。
- **User Preferences (ユーザー設定)** – ケース管理者のユーザー プロファイルを表示します。

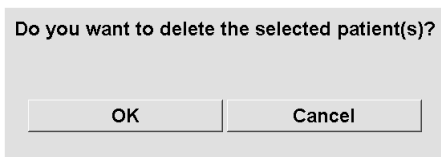
- **About (バージョン情報)** – ソフトウェアに関する情報を表示します。Hologic ヘルプデスクへお問い合わせの際は、この情報を参照してください。

9.2 患者の削除

ケース管理者は、患者と関連情報を患者リストから手動で削除することができます。一般的に、読影状況が「Read (読影済み)」、「Read Once (1次読影済み)」、「Not Read (未読影)」、「Old (既存)」の被検者を削除できます。セッションの一部である被検者や、ロックされている被検者を削除することはできません。

患者を削除するには：

1. 患者リストから、1人または複数の患者を選択して、**Delete Patients (患者の削除)** をクリックします。SecurView は以下を行います。
 - 選択されている被検者で読影状況が「Old (既存)」のものを削除します。
 - 以下のような選択されている患者に関するメッセージを表示します。



2. **OK** をクリックして確定するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックします。他の状態の患者に関するその他の確認メッセージが SecurView によって表示されます。例えば、患者が自動削除に対して保護されている場合、以下のようなメッセージが表示されます。



未送信の注釈がある患者に関して同様のメッセージが表示されます (送信先が設定されている場合)。

以下の患者データを削除することはできません。

- 読影状況が「Changed (変更あり)」の被検者 (ケースの読影後に新しい画像を受信した場合)
- ロックされている被検者 (例えば、「Additional Images Required (追加画像が必要)」。「[ケースを閉じる](#) 『104ページ』」を参照)
- 同じマネージャに接続している別のワークステーションで現在使用中の患者
- セッションの一部である患者
- 印刷中の患者

マージした患者を削除すると、主患者、副患者、すべての関連オブジェクトが削除されます。



注記

非ローカルケースを持つ患者が削除されると、次の Study List Manager が更新された後に、その患者が患者リストに再び表示されます。この患者が削除される前にマージされた患者である場合、マージが解除された患者として再び表示されます。

第10章 患者と ReportFlow ファイル

- [現在表示中の画像ファイルのエクスポート](#) 『201ページ』
- [DICOM ファイルのエクスポート](#) 『202ページ』
- [ReportFlow のインポートとエクスポート](#) 『203ページ』

本章では、DICOM および ReportFlow ファイルを管理する上で術者に役立つ手順が説明されています。

10.1 現在表示中の画像ファイルのエクスポート

この手順では、ディスプレイに現在表示されている画像が SecurView からユーザーが指定したフォルダへエクスポートされます。デフォルトの画像エクスポート先は F:\Exports です。以下の点に注意してください。

- ユーザー設定で行った設定に応じて、2種類の解像度で Tiff 画像をエクスポートできます（「[ツールとオーバーレイのユーザー設定](#) 『136ページ』」を参照）。
- 以下の形式で各画像のファイル名を作成します。[Patient Name_Examination Date_View_SOP Instance UID.ext]。「ext」は、ファイルタイプによって「tif」または「dcm」になります。
- 表示されている画像に DICOM Mammography CAD Structured Report を使用できる場合は、[患者名-CAD_検査日付_SOP インスタンス UID.sr]の形式のファイル名でエクスポートされます。CAD SR ファイルを.tif形式でエクスポートすることはできません。

Tomosynthesis 画像の場合：

- タグを付けたすべてのスライスが SecurView からエクスポートされます。タグが付けられたスライスがない場合、SecurView は、スタック全体ではなく、現在表示されている画像（従来型マンモグラフィ、合成 2D、CE2D 低エネルギー、または CE2D サブトラクション画像、投影画像、または再構成スライス）だけをエクスポートします。
- SecurView では、ファイル名の終わりにスライス番号を付けてエクスポート画像が識別されます（例、スライス 42 の場合「_42」）。
- スラブ厚を 1 より大きい値に設定した場合、Tiff 画像に限って中央スライスだけでなくスラブビューもエクスポートされ、ファイル名にスライス数が付記されます（例、スライス7枚のビューの場合「_42(7)」）。

現在表示中の画像ファイルをワークステーションのフォルダにエクスポートするには：

1. 画像を SecurView DX ワークステーションで表示します。Tomosynthesis 画像をエクスポートする場合は、「[Tomosynthesis 再構成スライスのタギング](#) 『129ページ』」の説明に従いタグを付けてください。
2. キーボードで、[E] (**Export** (エクスポート)) を押します。
3. ダイアログが開いたら、ファイル形式に **DICOM** または **Tiff** を選択します。



重要

診断でエクスポートされた Tiff ファイルを使用しないでくださいその代わりに DICOM 形式を使用してください。

4. **Export (エクスポート)** をクリックして画像を保存するドライブとフォルダを検索します。**OK** をクリックすると、現在両方のディスプレイに表示されている画像が指定したフォルダへ SecurView からエクスポートされます。すべてのファイルがエクスポートされると、ダイアログが自動的に閉じます。



重要

すべてのファイルがエクスポートされるまで **Cancel (キャンセル)** をクリックしないでください。時間がたたないうちに **Cancel (キャンセル)** をクリックすると、不完全なデータセットがエクスポートされる場合があります。

10.2 DICOM ファイルのエクスポート

以下の手順に従い、1人または複数の患者の DICOM Part 10 ファイルを SecurView から外部メディア (USB ドライブまたはディスク) へ転送します。マネージャがある場合は、なるべくマネージャを使用してください。



注記

画像のインポートについては、「[DICOM 画像のインポート](#) 『42ページ』」を参照してください。

1. SecurView へログインして、**Administration (管理)** タブをクリックします。
2. 患者リストで、エクスポートする患者ファイルをハイライト表示します。
3. ハイライト表示した患者 (または患者グループ) を右クリックして、**Export to media (メディアへエクスポート)** をクリックします。次に、以下のいずれかの操作を行います。
 - ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、トレイを閉じます、または
 - **Browse... (参照)** をクリックします。[マイコンピュータ]で、USB または DVD ドライブをクリックします。転送先フォルダをハイライト表示して、**OK** をクリックします。
4. **Export (エクスポート)** をクリックして、選択した患者のすべてのファイルのエクスポートを開始します。これには数分間かかることがあります (DICOM ファイルは大容量であるため)。選択されている転送先で、SecurView によって FILES フォルダが作成され、DICOM ファイルがフォルダにコピーされます。終了すると「Export was successful (エクスポートが正常に終了しました)」というメッセージが SecurView に表示されます。
5. ファイルをディスクにエクスポートした場合は、CD/DVD トレーが自動的に開きます。ディスクを取り出してラベル名を付けます。トレイを閉じます。
6. **Close (閉じる)** をクリックして、**OK** をクリックします。

10.3 ReportFlow のインポートとエクスポート

マネージャがある場合は、なるべくマネージャを使用してください。



注記

インポートを行うには、ReportFlows が SecurView 6-x 以上用に作成されている必要があります。SecurView 5-x 以前用に作成した ReportFlows をインポートすることはできません。

10.3.1 ReportFlows を USB ドライブから SecurView へインポートする

1. USB ドライブを SecurView の USB ポートに挿入します。
2. 「**admin**」 (管理者) として SecurView にログインします。
3. **Administration (管理)** タブをクリックして、**Maintenance (メンテナンス)** タブをクリックします。
4. Hanging Snapshots and ReportFlows (ハンギングスナップショットと ReportFlow) で、**Import (インポート)** をクリックします。Open (開く) ダイアログが表示されます。
5. **Look in (検索)** ドロップダウンリストで、**G : ドライブ** をクリックします。(G ドライブがない場合は、リムーバブルドライブを選択してください。)
6. インポートする ReportFlow または ReportFlow グループをクリックします。
7. **Open (開く)** をクリックします。Import of ReportFlows (ReportFlow のインポート) ダイアログが表示されます。
8. インポートする ReportFlow をハイライト表示します。
9. **Import (インポート)** をクリックします。Import of ReportFlows (ReportFlow のインポート) ダイアログが閉じ、SecurView によって ReportFlow がデータベースに書き込まれます。

10.3.2 ReportFlows を SecurView から USB ドライブへエクスポートする

1. USB ドライブを SecurView の USB ポートに挿入します。
2. 「**admin**」 (管理者) として SecurView にログインします。
3. **Administration (管理)** タブをクリックして、**Maintenance (メンテナンス)** タブをクリックします。
4. Hanging Snapshots and ReportFlows (ハンギングスナップショットと ReportFlow) で、**Export (エクスポート)** をクリックします。Export of ReportFlows (ReportFlow のエクスポート) ダイアログが開きます。
5. エクスポートする ReportFlow をハイライト表示し、**Export (エクスポート)** をクリックして Save as (名前を付けて保存) ウィンドウを開きます。
6. **Look in (検索)** ドロップダウンリストで、**G : ドライブ** をクリックします。(G ドライブがない場合は、リムーバブルドライブを選択してください。)









7. 必要な場合は、ウィンドウ下部でファイル名を入力して、USB ドライブへエクスポートする ReportFlow または ReportFlows グループの名前を変更します。ReportFlow の名前の一部に「/」スラッシュは使用しないでください。
8. **Save** をクリックします。Save As (名前を付けて保存) ウィンドウが閉じ、SecurView によって ReportFlow が USB ドライブに書き込まれます。これには数秒間しかかかりません。
9. USB ドライブを取り外します。

付属書A キーボードのショートカット

ツール	キー	Function (機能)	ツール	キー	Function (機能)
	[1] または [End]	FlowBack	—	[CTRL] および [t]	現在/以前のカラー表示を切り替える
	[4] または [左矢印]	FlowNext		[F9]	ウィンドウ/レベル
	[0] または [Ins]	概要		[F3] または [N]	ガンマ増加
	[-]	現在の CC		[F1] または [M]	ガンマ減少
	[+]	現在の MLO		[F2]	ウィンドウ/レベルのリセット
	[/]	CAD		[F8]	Reset (リセット)
	[7]、[D]、 [Home] または [上矢印]	View Actual Pixels Left (実際のピクセル表示: 左側)		[Delete]	前の患者
	[9]、[8]、[F] または [Page Up]	View Actual Pixels Right (実際のピクセル表示: 右側)		[Enter]	次の患者
	[Y]	同じサイズ		[Q]	Exit (終了)
	[Y]	Right Size (適正サイズ)		[?]	Help (ヘルプ)
	[X]	実寸	—	[Backspace]	Delete Selected Marking (選択したマーキングの削除)
	[F5]	ビューポートに合わせる	—	[Z]	Undo Delete Marking (マーキング削除を元に戻す)
	[R]	Synchronize (同期)	—	[I]	Invert All Images (すべての画像を反転表示)
	[F10]	Arrow (矢印)	—	[E]	Export Images (画像のエクスポート)
	[F11]	Ellipse (楕円形)	—	[*]	Display/Hide Toolbar (ツールバーの表示/非表示)
	[F12]	Freehand (フリーハンド)		[J]	MG / Tomo の切り替え
	[2] または [下矢印]	Measurement (測定)		[F6]	シネ開始/停止
	[A]	拡大鏡	—	[Spacebar]	Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける)

SecurView DX-RT 10.1 Workstationユーザーガイド

付属書A: キーボードのショートカット

ツール	キー	Function (機能)	ツール	キー	Function (機能)
	[6]または [右矢印]	MammoNavigator		[W]	Next 3D CAD Mark (次の 3D CAD マーク)
	[3]または[Page Down]	患者情報		[S]	Previous 3D CAD Mark (前 の 3D CAD マーク)
	[G]	Patient List (患者リス ト)	—	[B]	3D CAD Boundaries (3D CAD 境界線)
	[5]	ケースを閉じる	—	[C]	3D CAD Clusters (3D CAD クラスター)
	[F7]	連続ズーム	—	[F4]	マウスカーソルの位置を表 示します (設定されている 場合)
		連続ズームのリセット	—	[H]	すべての DICOM ヘッダコ ンテンツを表示

付属書B 術者ガイド

この付録には術者が一般的に使用する手順の参照先をまとめてあります。クイックリファレンスとしてご活用ください。

手順	参照先
SecurView に新しいユーザーを追加するには	ユーザー プロファイルの管理 『167ページ』
SecurView DX でセッションを作成、管理するには	セッションの作成 『40ページ』
通知を送信、表示するには	通知の送信と表示 『100ページ』
SecurView RT でケースを閉じるには	術者としてケースを閉じる 『107ページ』
ハンギングスナップショットを作成、管理するには	ハンギングスナップショットの作成と編集 『147ページ』
ReportFlow を作成、管理するには	ReportFlows 『156ページ』 ReportFlow を手順にリンクさせる 『159ページ』 新しいReportFlow の作成 『160ページ』 ReportFlow のユーザー設定 『162ページ』
標準的なマンモグラフィ画像を印刷するには	印刷オプション 『108ページ』
Tomosynthesis 画像を印刷するには	Tomosynthesis 再構成スライス印刷 『130ページ』
画像を外部メディアへエクスポートするには	現在表示中の画像ファイルのエクスポート 『201ページ』 DICOM ファイルのエクスポート 『202ページ』
画像を SecurView へインポートするには	DICOM 画像のインポート 『42ページ』
ReportFlow をインポートまたはエクスポートするには	ReportFlow のインポートとエクスポート 『203ページ』

索引

2

2次読影ケース - 47

A

Active Directory - 167

設定 - 177

Advanced Image Enhancement (AIE) - 75

C

CAD - 85

Hologic Imaging Biomarkers - 91

ImageChecker CAD - 85

Quantra - 91

表示 - 85, 87

ユーザー設定をセットアップ - 137

CAD SR

切り替え - 92

表示位置 - 23

Calcマーク、CAD - 85

CLAHE画像処理 - 84

Cleanup (クリーンアップ) ボタン - 175

Close Study dialog

ReportFlowアイコン - 160

Close Study (ケースを閉じる) ダイアログ - 104

D

DICOM

適合宣言 - 4

ファイルのエクスポート - 202

DICOM 6000オーバーレイ - 83

E

EmphaSize CADマーク - 88

G

GSPS通知。通知を参照 - 100

GSPSレポート - 184

H

Hologic Imaging Biomarkers - 91

I

ImageChecker CAD - 85

L

LesionMetrics - 90

M

Malcマーク、CAD - 85

Mammography Prior Enhancement。MPE画像を参照 - 82

MammoNavigator

ReportFlowアイコン - 160

Massマーク、CAD - 85

MG Secondary Capture画像 - 118

MG Secondary Capture画像 \y MG Secondary Captureがぞう

形式の構成 - 185

バージョン情報 - 70

ローカル医療機関の構成 - 185

ローカル医療機関の情報源の構成 - 186

MG Viewer - 48

MM ScreenCapture画像 \y MM ScreenCaptureがぞう

ケースを閉じるデフォルト設定 - 134

バージョン情報 - 70

ローカル医療機関の構成 - 185

ローカル医療機関の情報源の構成 - 186

MPE画像 - 82

P

PACS

検索時のケース日付形式 - 181

PeerView CADマーク - 89

Q

Quantra乳腺密度評価 - 91

R

ReportFlows

インポートとエクスポート - 203

使用 - 56

新規作成 - 160

手順にリンクさせる - 159

同期 - 111
表示 - 145
ユーザー設定 - 163
ReportFlowsReportFlows - 157
Right Size (適正サイズ) - 62
RightOn CADマーク - 85

S

SecurView DX - 2
クライアント - 15
説明 - 13
マネージャ - 15
SecurView RT - 2
説明 - 18
synchronizing with external application
ReportFlowアイコン - 160

T

tiff画像
解像度の設定 - 137
tomosynthesisイメージング - 113
tomosynthesisイメージング \y tomosynthesisい
めーじんぐ
印刷 - 130
印刷する画像のタギング - 129
シネモード - 120
手動スクロール - 118
スライダーツール - 118
スラブ厚 - 119
リンクされたタイトルのスクロール - 123
tomosynthesis画像のスクロール
シネモード - 120
マニュアル - 118
リンクされたタイトル - 123

V

VOI LUT、適用 - 81
V-Splitカーソル - 119

あ

アノテーション
ケースを閉じるデフォルト設定 - 134
説明 - 96
他社製GSPS - 99
デフォルトのフォーマットの設定 - 137

二重読影の構成 - 184
表示 - 99
フロー - 14, 15
アプリケーションイベントログ - 179
アンチウイルス製品 - 8
医療機関の名前と住所 - 185, 186
印刷
tomosynthesis画像 - 130
tomosynthesis画像のタギング - 129
オーバーレイのカスタマイズ - 192
印刷する画像のタグ付けツール - 52
インテリジェント ローミング
デフォルトの動作の設定 - 137
インテリジェントローミング - 59
インポート
ReportFlows - 203
ウィンドウ/レベルツール - 52, 78
数値 - 52
エクスポート
ReportFlows - 203
画像ファイル - 202
オーバーレイ - 68
オーバーレイ \yおーばーれい
MammoNavigatorのカスタマイズ - 191
印刷画像のカスタマイズ - 192
カスタマイズ - 190
表示のカスタマイズ - 190
同じサイズ - 62
か
外部アプリケーションとの同期 - 37, 111
概要、SecurView - 2
拡大鏡ツール - 52, 73, 75
画像通知 - 101
画像通知送信ツール - 52, 101
画像ツールメニュー - 52
画像の回転 - 52
画像のパン - 57
画像の反転 - 52
画像の反転表示ツール - 52
画面取り込み。MM ScreenCaptureを参照 - 185
患者情報オーバーレイ - 68
患者のロック解除 - 37
ガンマ減少ツール - 78
ガンマ増加ツール - 78

- 管理者タスク - 165
 管理モジュール、開く - 166
 キーパッド - 51
 輝度、画像 - 78
 起動、システム - 25
 警告 - 5
 ケース
 2次読影 - 47
 現在の時間制限 - 187
 削除 - 173
 閉じる - 104
 二重読影の構成 - 184
 表示 - 46
 ケース管理者タスク - 197
 ケースのロック \yけーすのろっく
 バージョン情報 - 57
 コントラスト、画像 - 78
- ## さ
- サイバーセキュリティ - 8
 時刻、形式の構成 - 183
 システムのメンテナンス - 201
 システムのメンテナンス \yしすてむのめんでな
 んす
 データベース、バックアップ作成／回復 - 193
 システムレベルの設定 \yしすてむれべるのせつ
 てい
 MG Secondary Capture形式 - 185
 PACSケースの日付入力 - 181
 医療機関の名前と住所 - 186
 ケースの二重読影 - 184
 現在のケースの時間制限 - 187
 自動完了 - 175
 自動取得 - 175
 セッションの有効化 - 172
 注釈の送信 - 184
 調査の削除 - 173
 ハードディスク空き容量の監視 - 172
 日付／時刻の形式と単位 - 183
 ローカル医療機関 - 185
 ワークリストの自動作成 - 183
 実際のピクセル表示ツール - 52, 62
 実寸 - 62
 自動完了 - 175
 自動取得 - 175
 シネモード - 120
 シネモード \yしねもーど
 リンクされているタイルのスクロールのユー
 ザー設定 - 137
 シャットダウン、システム - 25
 ショートカットメニュー - 37
 ズーム倍率、ピクセルメーター - 137
 スケーリング モード \yすけーりんぐもーど
 デフォルトを設定 - 135
 スケーリング線 - 137
 スケーリング線、拡大鏡 - 137
 スケーリング モード - 62
 スタック インジケータ \yすたっくいんじけーた
 ユーザー設定 - 137
 スタンドアロン型ワークステーション - 14, 19
 すべての通知を送信ツール - 52, 101
 スライダーツール、tomosynthesis - 118
 スライダーツール、tomosynthesis \yすらいだー
 つーる、tomosynthesis
 印刷する画像のタギングでの使用 - 129
 製品に関する苦情 - 8
 セカンダリキャプチャ。MG Secondary Captureを
 参照 - 185
 セッション \yせっしょん
 選択 - 47
 有効化 - 172
 測定ツール - 52
- ## た
- タイルのリンク - 137
 タイルリンクツール - 52
 タイルリンクツール \yたいりんくつーる
 使用 - 123
 楕円形ツール - 52, 96
 注意事項 - 5
 注釈 - 92
 注釈ユーザーフィルタ - 52, 99
 通知 - 100, 185
 通知。画像通知も参照 - 101
 通知の表示 - 102
 ツールバー
 画像視覚化ボタン - 71
 患者ナビゲーションボタン - 50
 非表示 - 137
 データベース、バックアップ作成／回復 - 193

データベースのメンテナンス - 193, 195
手順の名前、構成 - 188
動画エクスポートツール - 52
同期 - 37
トレーニング プログラム - 4

は

バーコードリーダー - 46
ハードディスク、監視 - 172
パイメニュー - 52
ハンギングスナップショット \yはんぎんぐすな
つぷしょつと
 ReportFlowに追加する - 160
 アイコンの変更 - 155
 コピーと編集 - 153
 名前の変更 - 153
反転拡大鏡ツール - 52, 73
引き継ぐ - 37
ピクセルメーター - 63
 ズーム倍率の設定 - 137
日付、形式の構成 - 183
ビューポートに合わせる - 62
品質管理、表示 - 4, 6
フリーハンドツール - 52, 96
ヘルプでユーザーガイドを表示する - 50
保留にしてレビュー - 32, 37

ま

マージを元に戻す - 37
マウスホイール
 スクロールのデフォルトを設定する - 135
マウスボタン、デフォルトのツールの設定 - 137
マネージャークライアント ワークステーション -
 15
マルチワークステーション - 15
見落としたビューに関する安全警告 - 134
元に戻す - 37

や

矢印ツール - 52, 96
ユーザーアカウント - 26, 167
ユーザーグループ - 23
ユーザー設定 - 133
ユーザープロファイル - 167
ユーザー設定 \yゆーざーせってい

CAD表示 - 137
ReportFlows - 163
tiff画像の解像度 - 137
以前の画像インジケータ - 137
オーバービューハンギングの構成 - 164
拡大鏡のスケーリング線 - 137
画像オーバーレイ - 137
画像プレゼンテーション - 135
事前に定義されたハンギング - 135
スケーリングモードのデフォルト - 135
スタック インジケータ - 137
タイルリンクのプロパティ - 137
注釈の送信 - 134
注釈のフォーマット - 137
ツールバーの非表示 - 137
同期の構成 - 141
ピクセルメーター - 137
表示 - 133
マウスボタンのデフォルト - 137
ユーザープロファイル - 141
ローミングインジケータ - 137
ワークリストのソート - 134

ら

ルーラー \yるーらー
 ユーザー設定 - 137
連続ズーム - 76
連続ハンギングReportFlowアイコン - 160
ローカルシネモード - 121
ログインとログアウト - 26
ログインとログアウト \yろぐいんとろぐあうと
 自動ログオフの設定 - 141
ロック解除 - 37

わ

ワークステーション \yわーくすてーしょん
 SecurView DX - 13
 SecurView RT - 18
 概要 - 12
 スタンドアロン - 14, 19
 説明 - 11
 マネージャークライアント - 15
 マネージャークライアント 機能分担 - 23
ワークリスト - 26, 46
ワークリスト \yわーくりすと

オートマッチック - 47
自動作成の構成 - 183
デフォルトのソート - 134
マニュアル - 46

漢字

以前の画像インジケータ \yいぜんのがぞういん
じけーた
ユーザー設定 - 137

画像

DICOM情報 - 67
MPE - 82
tomosynthesisを手動でスクロールする - 118
エクスポート - 202
回転 - 52
拡大 - 52, 73
視覚化 - 71
事前に定義されたハンギングの設定 - 135
スケーリング - 62
パン - 57
反転 - 52, 73
表示 - 49
フロー - 14, 15
外部アプリケーションとの同期 \yがいぶあぶり
けーしょんとのどうき
構成設定 - 141
拡大鏡ツール \yかくだいきょうつーる
スケーリング線 - 137
患者情報オーバーレイ \yひけんしゃじょうほう
おーばーれい
構成設定 - 137
検索 \yけんさく
自動的にダイアログを閉じる - 134
自動削除
構成設定 - 173
通知 \yつうち
術者ユーザーによる表示済み - 107
すべて送信 - 101
単一画像のために送る - 101
読影状況 \yどくえいじょうきょう
患者レビュー時 - 57
ケースを閉じるときに変更する - 104
被検者
ナビゲート - 50
レビュー - 45

HOLOGIC®



Hologic, Inc.
600 Technology Drive
Newark, DE 19702 USA
1.800.447.1856

Australia

Hologic (Australia) Pty Ltd.
Suite 402, Level 3
2 Lyon Park Road
Macquarie Park NSW 2113
Australia
1.800.264.073

EC REP

Hologic, BV
Da Vincilaan 5
1930 Zaventem
Belgium
Tel: +32.2.711.46.80
Fax: +32.2.725.20.87

CE
2797